

愛媛大学構内遺跡調査集報 I

1987～1994年度における
立会・試掘・確認調査成果の報告



愛媛大学埋蔵文化財調査室

1997

愛媛大学構内遺跡調査集報 I

1987～1994年度における

立会・試掘・確認調査成果の報告

愛媛大学埋蔵文化財調査室

1997

序 文

愛媛大学は、松山市および愛媛県内各所に大小のキャンパスをもち、敷地総面積は464ヘクタールにおよぶ。その敷地の中で、本部事務局と4つの学部を抱える城北地区には文京遺跡、農学部と附属農業高等学校がある柳味地区には柳味道跡、国際交流会館がある鷹子団地では鷹子遺跡など、数多くの遺跡が営まれている。埋蔵文化財調査室では、こうした埋蔵文化財が諸工事で影響を受ける場合、影響度に応じて、本格的な全面調査、試掘調査、立会調査の方法で発掘調査を実施している。また、1992年度からは、大学構内における埋蔵文化財の有無や精度の高い分布状況を把握するために、確認調査を始めている。

こうした調査の成果は、客観的な資料化を進めて調査報告書にまとめて公開する必要がある。ところが、本格的な全面調査については調査報告書を刊行してはいるが、小規模調査といえる試掘・立会・確認調査については調査成果の公開はなされていなかった。しかし、現在では、試掘・立会・確認調査は50件を越え、全面調査とは違った成果が得られつつある。そこで、まず、愛媛大学埋蔵文化財調査室が設立された1987年度から1994年度までに実施した試掘・立会・確認調査の成果を報告することとした。

また、本書で報告する山越・城北・持田団地は、道後・城北遺跡群と呼ばれる遺跡群の中に位置している。そのために、ひとり大学構内に営まれた遺跡を検討するだけでは、遺跡群の詳細な性格や動向を把握することはできず、個々の調査で発見される遺跡の評価も困難である。そこで、別冊の図版篇として、周辺の埋蔵文化財調査・発見地点を表記した地図を作成した。

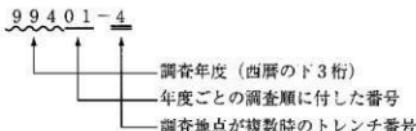
本書をまとめるにあたり、発掘調査から記録・遺物類の整理、そして報告書の刊行にいたるまでには、多くの機関・部局・個人の方々から協力を得た。それらに深く感謝するとともに、本書が多くの人々に利用・活用されることを祈念します。

平成9年2月1日

愛媛大学埋蔵文化財調査室長
下條信行

例　　言

1. 本書は、愛媛大学埋蔵文化財調査室が設立された1987年度から1994年度までに大学構内で実施された試掘・立会・確認調査の成果を報告する愛媛大学構内遺跡調査集報Ⅰであり、愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅴにあたる。
2. また、埋蔵文化財調査室が実施してきた調査一覧として、本格的な全面調査の概要も収録した。
3. 本書で報告する愛媛大学山越・城北・持田団地は、道後・城北遺跡群と呼ばれる遺跡群の中に所在する。遺跡群の詳細な性格や動向を把握するため、周辺の埋蔵文化財調査・発見地点を表記した地図を作成し別冊の図版篇とし、本書巻末に調査一覧表を付した。図版篇の地点番号の表記方法については、図版篇の例言を参照されたい。
4. 以外の発掘調査を実施した団地については、本書本文中に1/500もしくは1/1,000の詳細位置図を作成して掲載している。
5. 現在、埋蔵文化財調査室では、1975年から始まった発掘調査まで遡って調査番号を与えている。調査番号は、西暦のド3桁の後に各年度ごとの調査順に1からの2桁の通し番号を加えた5桁の番号で表示している。調査番号に加えて、複数の地点(トレンチ)を調査した場合、本書では一の後に地点(トレンチ)番号を付している。本書掲図中では、この調査番号-調査トレンチ番号で調査地点を表示している。



6. 本書では、遺構番号に冠して、構列：SA、掘立柱建物：SB、竪穴式住居跡：SC、溝：SD、炉跡・窯：SF、貯蔵穴：SU、土壙：SK、水口：SM、柱穴・小穴：SP、その他の遺構：SXの記号で遺構の種別を表している。
7. 本書で表示した方位・標高数値は、全面調査においては、すべて平面直角座標IV系にしたがった。ただし、試掘・立会調査・確認調査で座標系が利用できなかった場合は、調査地点周囲の平板測量成果を掲載し、磁北を表示した。
8. 城北団地と柳味団地では、既往の調査成果から、団地全域にわたる基本層序を設定し、個々の調査地点の特徴は大区分を基本層序に準拠し、それを構成する上層群ごとに細かな特徴や構成を観察し記録化している。本書で報告する城北団地と柳味団地の調査報告では、この基本層序に基づく層序関係の表記を行っている。
9. 土色・遺物の色調は、1991年以降、農林省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」(1996)に準拠したが、本文中ではマンセル記号は省略した。
10. 本書に使用した遺構図は、宮本・大・田崎博之・宮崎直栄が作成し墨写を行った。
11. 本書で使用した写真は、宮本・田崎が撮影した。
12. 本書は田崎が執筆し、編集を下條信行の指導のもとに田崎が行った。
13. 本書に報告した調査に係わる記録類・出土遺物は、愛媛大学埋蔵文化財調査室において保管されている。

目 次

序 説

1 愛媛大学における埋蔵文化財調査と体制	1
①1986年度までの構内遺跡の調査と体制	
②1987年度以降の調査体制	
2 埋蔵文化財分布の把握状況と基本層序	3
①埋蔵文化財分布の把握状況	
②調査番号と城北・樟味団地における基本層序	

I 1987年度の調査

98701 国際交流会館新営工事に伴う調査(鷹子遺跡1次調査)	5
98702 連合農学研究科校舎新営工事に伴う調査	8
98703 附属農業高等学校課外活動施設新営工事に伴う調査	12
98704 連合農学研究科校舎新営工事に伴う調査(樟味遺跡1次調査)	13
98705 城北地区プール廻り浄化装置増設工事に伴う調査	15
98706 城北地区プール廻り浄化装置増設工事に伴う調査(文京遺跡9次調査)	15

II 1988年度の調査

98801 工学部情報工学科校舎新営工事に伴う調査(文京遺跡10次調査)	19
98802 城北地区基準点等設置工事に伴う調査	25
98803 工学部講義棟高圧ケーブル埋設工事に伴う調査(その1)	25
98804 工学部講義棟高圧ケーブル埋設工事に伴う調査(その2)	25
98805 工学部情報工学科校舎排水施設取扱工事に伴う調査	25
98806 工学部情報工学科校舎給水施設取扱工事に伴う調査	26

III 1989年度の調査

98901 法文学部講義棟身障者用昇高機取扱工事に伴う調査(文京遺跡11次調査)	27
98902 城北団地電波障害用の外線工事に伴う調査	29

IV 1990年度の調査

99001 城北団地囲壁工事及び教育学部白駒市置場新設工事に伴う調査	30
------------------------------------	----

V 1991年度の調査

99101 農学部研究実験棟新営工事に伴う調査(樽味遺跡2次調査)	30
99102 教育学部附属養護学校日常生活訓練施設建設工事に伴う調査	33
99103 城北団地囲障(Ⅱ期)改修及び外灯改修工事に伴う調査	34

VI 1992年度の調査

99201 農学部屋外ガス本管改修工事に伴う調査	35
99202 城北地区東側囲障改修工事に伴う調査	35
99203 附属図書館農学部分館新営工事に伴う調査	38
99204 医学部附属病院病歴室新営工事に伴う調査(その1)	39
99205 1992年度構内遺跡確認調査(その1)	42
99206 農学部拓翠寮他自転車置場新設工事に伴う調査(その1)	46
99207 農学部拓翠寮他自転車置場新設工事に伴う調査(その2)	47
99208 城北団地外灯設備改修工事に伴う調査	47
99209 教育学部附属小学校給水設備工事に伴う調査	48
99210 医学部附属病院駐車場収設工事に伴う調査	51
99211 1992年度構内遺跡確認調査(その2)	51
99212 城北団地情報通信設備工事に伴う調査	55
99213 医学部附属病院病歴室新営工事に伴う調査(その2)	57
99214 樽味団地自転車置場取設その他工事に伴う調査	58
99215 城北団地交通規制遮断機取設工事に伴う調査	60

VII 1993年度の調査

99301 医学部看護学科校舎新営工事に伴う調査	61
99302 附属図書館農学部分館新営工事(樹木移植)に伴う調査	64
99303 農学部自転車置場収設工事に伴う調査	67
99304 附属図書館農学部分館新営工事に伴う調査(樽味遺跡3次調査)	67
99305 城北団地大学会館廻り道路整備(樹木移植)工事に伴う調査	71
99306 附属図書館農学部分館新営(外灯設備管路)工事に伴う調査	72
99307 城北団地他情報通信電気設備工事に伴う調査(その1)	73
99308 城北団地他情報通信電気設備工事に伴う調査(その2)	73
99309 1993年度構内遺跡確認調査	74
99310 城北団地情報機器更新電源容量増設工事に伴う調査	79
99311 農学部附属図書館新営(排水管埋設)工事に伴う調査	80
99312 農学部自転車置場排水管路工事に伴う調査	81
99313 城北団地基幹整備(屋外環境)工事に伴う調査	82

99314	工学部研究実験棟の建設に伴う調査	87
-------	------------------	----

VIII 1994年度の調査

99401	東長戸他環境整備(駐車場整備・配管設置)工事に伴う調査(その1)	88
99402	東長戸他環境整備(駐車場整備・配管設置)工事に伴う調査(その2)	98
99403	樽味田地環境整備(附属農業高等学校他自転車置場取設)工事に伴う調査	101
99404	城北団地他環境整備(単車置場整備)工事に伴う調査	103
99405	城北団地他環境整備(自転車置場設置)工事に伴う調査	104
99406	城北団地他環境整備(自転車置場・排水管設置)工事に伴う調査	105
99407	城北団地他環境整備(排水井及び管路取設)工事に伴う調査	105
99408	城北団地他環境整備(電気配管路取設)工事に伴う調査	107
99409	工学部岩盤切削試験機設置工事に伴う調査	107
99410	工学部校舎新設(I期)に伴う調査(文京遺跡12調査)	108
99411	教育学部附属養護学校野外施設(東屋)設置工事に伴う調査	112

本文挿図目次

図.1 墓蔵文化財調査室の調査体制	2	上層断面図(縮尺 1/100・1/50)	28
図.2 1987年度鷹子団地調査地点 (縮尺 1/3,500)	5	図.18 98902調査区中央部・東端部 土層柱状図(縮尺 1/40)	29
図.3 98701(鷹子遺跡1次調査)遺構配置図 (縮尺 1/200)	6	図.19 99001-1~3 トレンチ土層柱状図 (縮尺 1/40)	30
図.4 1987~1991年度梅味団地調査地点 (縮尺 1/3,500)	9	図.20 99101(梅味遺跡2次調査) 主要遺構配置図 (縮尺 1/200)	31
図.5 1987~1996年度梅味団地調査地点 位置図(縮尺 1/1000)	10-11	図.21 1991年度津田山団地調査地点 (縮尺 1/3,500)	33
図.6 98702-1~10トレンチ土層柱状図 (縮尺 1/40)	12	図.22 99103-1~9 トレンチ土層柱状図 (縮尺 1/40)	34
図.7 98703-1・2トレンチ土層柱状図 (縮尺 1/40)	12	図.23 99201-1・2トレンチ 土層柱状図(縮尺 1/40)	35
図.8 98704(梅味遺跡1次調査) 遺構配置図(縮尺 1/200)	14	図.24 1992年度梅味・北吉井団地調査地点 (縮尺 1/3,500)	36
図.9 1987年度城北団地調査地点 (縮尺 1/3,500)	16	図.25 1992年度城北団地調査地点 (縮尺 1/3,500)	37
図.10 98706(文京遺跡9次調査)調査区遺構 配置・上層断面図(縮尺 1/100・1/50)	17	図.26 99202-1~3 トレンチ土層柱状図 (縮尺 1/40)	38
図.11 1988~1991年度城北団地 調査地点(縮尺 1/3,500)	20	図.27 99203調査区土層断面図 (縮尺 1/40)	39
図.12 98801(文京遺跡10次調査)遺構配置・ 上層断面図(縮尺 1/150・1/75)	22-23	図.28 99204土層柱状図(縮尺 1/40)	39
図.13 98802-1~5トレンチ土層柱状図 (縮尺 1/40)	24	図.29 1992年度重信団地調査地点 (縮尺 1/3,500)	40
図.14 98803-1・2トレンチ土層柱状図 (縮尺 1/40)	24	図.30 99204・99213調査地点位置図 (縮尺 1/500)	41
図.15 98805調査区平面図・上層断面図 (縮尺 1/50)	26	図.31 1992年度山越団地調査地点 (縮尺 1/3,500)	43
図.16 98806調査区平面図・上層断面図 (縮尺 1/40)	26	図.32 99205-1~5 トレンチ上層柱状図 (縮尺 1/40)	44
図.17 98901(文京遺跡11次調査)遺構配置・		図.33 99205-1・2 トレンチ上層断面 (縮尺 1/40)	44

図.34	99205-5 トレンチ出土の杭 (縮尺 1/40)	45
図.35	99206-1~4 トレンチ土層断面図 (縮尺 1/40)	47
図.36	99207-1 トレンチ土層断面図 (縮尺 1/40)	47
図.37	99208-2 トレンチ土層柱状図 (縮尺 1/40)	48
図.38	1992年度持山団地調査地点 (縮尺 1/3,500)	49
図.39	99210-3~5 トレンチ土層柱状図 (縮尺 1/40)	49
図.40	99210調査地点位置図 (縮尺 1/500)	50
図.41	99211-1・2 トレンチ位置図 (縮尺 1/500)	52
図.42	99211-3 トレンチ位置図 (縮尺 1/500)	53
図.43	99211-4 トレンチ位置図 (縮尺 1/500)	53
図.44	99211-1~4 トレンチ土層柱状図 (縮尺 1/40)	54
図.45	99212-1 トレンチ (縮尺 1/40)	56
図.46	99212-2 トレンチ (縮尺 1/40)	57
図.47	99213土層断面図 (縮尺 1/40)	58
図.48	99214遺構検出状況 (縮尺 1/60)	59
図.49	99215-1・2 トレンチ土層柱状図 (縮尺 1/40)	60
図.50	1993年度重信団地調査地点 (縮尺 1/3,500)	62
図.51	99301調査地点位置図 (縮尺 1/500)	63
図.52	99301調査区西端土層柱状図 (縮尺 1/40)	64
図.53	1993年度樽味・北吉井団地調査地点 (縮尺 1/3,500)	65
図.54	99302調査地点遺構実測図および土層断面図 (縮尺 1/40)	66
図.55	99304(樽味道跡3次調査)全体図 (縮尺 1/125)	68
図.56	1993年度城北団地調査地点 (縮尺 1/3,500)	70
図.57	99305調査地点土層断面図 (縮尺 1/40)	71
図.58	99306-3 トレンチ平面図・土層断面図 (縮尺 1/40)	72
図.59	99308-2 トレンチ平面図・土層断面図 (縮尺 1/40)	74
図.60	1993年度持田団地調査地点 (縮尺 1/3,500)	75
図.61	99309-1~6 トレンチ土層断面 および上層柱状図 (縮尺 1/40)	77
図.62	99310調査区平面図および土層断面図 (縮尺 1/40)	79
図.63	99311調査区全体図	81
図.64	99312調査区内IV層の変化 (縮尺 1/200)	81
図.65	99313-1~3・5・6 トレンチ 土層断面図 (縮尺 1/40)	83
図.66	99313-2 トレンチ SD-01および 土層断面図 (縮尺 1/40)	85
図.67	99313-4・5 トレンチおよび 文京遺跡11次調査の上層対応関係 (縮尺 1/40)	86
図.68	99314調査擾乱壁の土層柱状図 (縮尺 1/400・1/40)	87
図.69	1994年度城北団地調査地点 (縮尺 1/3,500)	89
図.70	1994年度樽味・北吉井団地調査地点 (縮尺 1/3,500)	90
図.71	1994年度東長戸団地調査地点 (縮尺 1/3,500)	91

図.72	1994年度津田山墳地調査地点 (縮尺 1/3,500).....	91
図.73	99401トレンチ位置図 (縮尺 1/500)	92
図.74	99401-1 トレンチ遺構・土層断面 実測図 (縮尺 1/50).....	94-95
図.75	99401-2 トレンチ遺構実測図・土層 断面実測図 (縮尺 1/50).....	96-97
図.76	99402-1 ~ 8 トレンチ位置図 (縮尺 1/500)	99
図.77	99402-1 ~ 8 トレンチ土層柱状図 (縮尺 1/40)	100
図.78	99403-1 ~ 3 トレンチ位置図 (縮尺 1/500)	102
図.79	99403-1 ~ 3 トレンチ土層柱状図 (縮尺 1/40).....	102
図.80	99404土層柱状図 (縮尺 1/40)	103
図.81	99405トレンチ実測図および上層 柱状図 (縮尺 1/400・1/40).....	104
図.82	99406-1 ~ 3 トレンチ実測図 (縮尺 1/40).....	106
図.83	99407-1 トレンチ土層柱状図 (縮尺 1/40).....	107
図.84	99408上層柱状図 (縮尺 1/40)	107
図.85	99409土層柱状図 (縮尺 1/40)	108
図.86	99410(文京遺跡12次調査) 調査区全体図.....	109
図.87	99411土層断面図 (縮尺 1/40)	112

本文写真目次

写真.1	98701(鷹子遺跡1次調査)調査区 南半部(東から).....	7
写真.2	98701(鷹子遺跡1次調査)調査区 北半部(南から).....	7
写真.3	98704(樽味遺跡1次調査)調査区 全景(南西から).....	13
写真.4	98706(文京遺跡9次調査)北壁 土層断面	18
写真.5	98801(文京遺跡10次調査)調査区 中央~西半部(東から).....	21
写真.6	98801(文京遺跡10次調査)調査区 東半部(東から).....	21
写真.7	98801(文京遺跡10次調査) SC-01 (東から)	24
写真.8	98801(文京遺跡10次調査) SB-05 (北西から)	24
写真.9	98801(文京遺跡10次調査) SK-15 (南から)	24
写真.10	98801(文京遺跡10次調査) SX-14 (東から)	24
写真.11	98901(文京遺跡11次調査) IV層縄文 上器出土状況(西から).....	27
写真.12	99101(樽味遺跡2次調査)遠景 (北から)	32
写真.13	99101(樽味遺跡2次調査)全景 (西から)	32
写真.14	99202-2 トレンチ土層断面.....	38
写真.15	99203トレンチ上層断面.....	39
写真.16	99205-2 トレンチ土層断面.....	45
写真.17	99205-5 トレンチ検出の杭.....	45
写真.18	99206-1 トレンチ上層断面.....	46
写真.19	99206-3 トレンチ土層断面.....	46

写真.20	99206-4 トレンチ土層断面	46	写真.51	99313-1 トレンチⅢ層検出状況 (西から)	84
写真.21	99208-1 トレンチ	48	写真.52	99313-2 トレンチ SD-01検出状況 (南から)	84
写真.22	99208-2 トレンチ上層断面	48	写真.53	99313-3 トレンチ南壁 土層断面	84
写真.23	99210-5 トレンチ土層断面	49	写真.54	99313-6 トレンチ南壁 土層断面	84
写真.24	99211-2 トレンチ土層断面	54	写真.55	99313-2 トレンチ西壁 上層断面	85
写真.25	99211-4 トレンチ上層断面	54	写真.56	99401-1 トレンチ (東から)	93
写真.26	99212-1 トレンチ (北から)	56	写真.57	99401-2 トレンチ (東から)	93
写真.27	99212-2 トレンチ (北東から)	57	写真.58	99401-2 トレンチ (北西から)	93
写真.28	99213調査トレンチ上層断面	58	写真.59	99401 SD-23土層断面	98
写真.29	99214調査区全景 (北西から)	59	写真.60	99402-3 トレンチ土層断面	100
写真.30	99214調査区 (北東から)	59	写真.61	99402-5 トレンチ土層断面	100
写真.31	99301調査状況	61	写真.62	99403-1 トレンチ (西から)	101
写真.32	99302調査区遠景 (南西から)	66	写真.63	99403-2 トレンチ (東から)	101
写真.33	99302調査区全景 (南から)	66	写真.64	99404調査地点 (東から)	103
写真.34	99303調査区全景 (東から)	67	写真.65	99405調査区西端土層断面	104
写真.35	99304 (樽味遺跡3次調査) 調査状況	68	写真.66	99405調査区東端土層断面	104
写真.36	99304 (樽味遺跡3次調査) 調査区 全景 (南から)	69	写真.67	99406-1~3 トレンチ	106
写真.37	99304 (樽味遺跡3次調査) SC-02-04 (西から)	69	写真.68	99406-3 トレンチ	106
写真.38	99305調査地点上層断面	71	写真.69	99406-1 トレンチ土層断面	106
写真.39	99306-3 トレンチ	72	写真.70	99406-2 トレンチ上層断面	106
写真.40	99308-2 トレンチ西半部分の Ⅲ層残存状況	73	写真.71	99410(文京遺跡12次調査) 調査区 全景 (南西から)	109
写真.41	99309-1 トレンチ土層	75	写真.72	99410(文京遺跡12次調査) 調査区 北半部の遺構の重複状況	110
写真.42	99309-2 トレンチ北端土層	75	写真.73	99410(文京遺跡12次調査) SC-27	110
写真.43	99309-3 トレンチ上層	76	写真.74	99410(文京遺跡12次調査) SC-62	110
写真.44	99309-4 トレンチ土崩	76	写真.75	99410(文京遺跡12次調査) 挖立柱建物	110
写真.45	99309-5 トレンチ土層	76	写真.76	99410(文京遺跡12次調査) 挖立柱建物	110
写真.46	99309-6 トレンチ土層	76			
写真.47	99310調査区全景	80			
写真.48	99310調査区土層断面	80			
写真.49	99313-1・2 トレンチ (南から)	82			
写真.50	99313-3~6 トレンチ (南東から)	82			

柱穴断面110	写真.80 99410(文京遺跡12次調査) SK-81
写真.77 99410(文京遺跡12次調査) SU-375111111
写真.78 99410(文京遺跡12次調査) SU-33111	写真.81 99410(文京遺跡12次調査) SD-06 馬齒出土状況.....111
写真.79 99410(文京遺跡12次調査) SK-387111	写真.82 99410(文京遺跡12次調査) 現地説明会.....111
		写真.83 99411調査地点遠景(北東から).....112

卷末表目次

1. 爰媛大学構内における調査一覧114~118
2. 道後・城北遺跡群における調査一覧119~129
参考文献129~130

序 説

1 愛媛大学における埋蔵文化財調査と体制

①1986年度までの構内遺跡の調査と体制

埋蔵文化財調査室が設置される1987年以前は、松山市教育委員会・法文学部人類考古学研究室が、城北団地における発掘調査を実施している。

城北団地は、1951年頃から、しばしば弥生時代の土器や石器が採集され、文京遺跡もしくは鉄砲町遺跡として考古学界に紹介されている。さらに、1963年に愛媛県教育委員会が作成した遺跡台帳に文京遺跡として登録され、周知化が進められた。こうした中で、最初の本格的な発掘調査が行われたのは1975年のことである。この調査は、文京遺跡1次調査とされ、松山市教育委員会が担当した。調査地点は、団地南西部の工学部2号館の増築部分で、弥生時代中期の竪穴式住居跡や数多くの遺物が出土し、文京遺跡が弥生時代の集落遺跡であることが明らかにされた。

その後、城北団地は周知化された埋蔵文化財包蔵地として、松山市教育委員会による工学部3号館建設に伴う2次調査・法文学部本館新営工事に伴う3次調査・工学部危険物貯蔵所建設に伴う5次調査が続いた。しかし、大学施設充実のため連年続く諸工事は、松山市教育委員会側の協力に限界を生じさせ、大学会館など無為に葬られた遺跡もあった。

1985年4月、愛媛大学法文学部に人類考古学研究室が開講された。大学事務当局は構内遺跡の発掘調査を人類考古学研究室に要請した。研

究室は開設されたばかりであり、調査体制をめぐっては事務当局側との苦難の協議が続いた。その結果、人類考古学研究室が発掘調査を全面的に引き受けけるが、調査主任として学外の研究者に加わってもらうという、苦肉の調査体制がとられることとなった。しかし、こうした調査体制は、人類考古学研究室に多大な負担をかけ教育・研究に大きな障害を生じさせ、さらに、発掘調査後の整理作業・報告書の刊行も大きく沈滞する結果を招いた。加えて、1987年度には、樽味団地で連合農学研究科新営工事、鷹子団地では国際交流会館新営工事が計画され、事前の試掘調査では遺跡の分布が確認され、工事予定地全面の調査が必要となった。

こうした状況から、教養部・教育学部・法文学部の歴史学関係教官は当時の坂上學長に大学全体の責任で組織的で長期的な調査体制を考えることを求めた。以後、いくらかの糾合曲折もあったが、学長をはじめとする大学本部事務局の検討・関係者との協議によって、1987年4月に学長を委員長とする埋蔵文化財調査委員会が発足し、実施機関として埋蔵文化財調査室が設置されることになった。以下、1986年度までの校内遺跡の調査概要については、巻末の調査一覧表にまとめてあるので、参照されたい。

②1987年度以降の調査体制

1987年6月に、埋蔵文化財調査室が設置され、室長には下條信行(法文学部・先史考古学・教授)が就任し、法文学部から当面の室員として

宮本一夫(法文学部・物質文化論・助教授)が着任した。また、松原弘宣(教養部・歴史学・助教授)と川岡勉(教育学部・歴史学・助教授)が埋蔵文化財調査委員会に参加することとなった。

しかし、1991年3月、当面の室員として調査にあたっていた宮本は本務の法文学部へ帰ることとなり、同年4月～12月には埋蔵文化財調査室は閉鎖状況に陥った。その一方で、樽味団地の農学部研究実験棟の建設計画がもちあがり、これを実施する調査体制の再整備が必要となつた。室員の確保は困難をきわめたが、1992年1月に田崎博之が教養部教官(歴史学・助教授)として着任し、室員として主に調査にあたる形で、ようやく調査体制問題に一応の解決がはかられた。

その後、1994年3月に宮本が九州大学に移り、後任として村上恭通が着任した際、専門委員として村上を迎えることとなった。また、1995年度には、大学改革に伴って教養部が廃止されるとともに、教養部の所属であった埋蔵文化財調査委員会委員の松原、室員の田崎は法文学部へ移動している。

こうした調査体制に解決がはかられたものの1992年度以降、発掘調査が年間10～15件を数えるようになり、さらに、1994年度以降、城北団地における工学部校舎新営工事や地域共同研究センター建物建設などの大規模な全面調査が連続して実施されることになり、現有の調査スタッフでは、発掘調査に対応できないだけではなく、調査成果の資料化や報告書の早期刊行も困難な状況となってきた。これに対応するために、埋蔵文化財調査室では体制の充実を求める要望書を三木学長へ提出するなどしたが、1996年4月に吉田広(法文学部・原史考古学・講師)と三吉秀充(法文学部・先史考古学・助手)が室員に

加わり、調査体制の強化がはかられることとなつた(図.1)。

現在、埋蔵文化財調査室は、工事で生じる埋蔵文化財への影響度合いを勘案して、本格的な全面調査、試掘調査、立会調査の方法で発掘調査を実施している。1987～1996年度に実施された調査は、全面調査11件、試掘調査32件、立会調査28件を数える。こうした調査成果として、本書を含めて6冊の調査報告書が刊行されている。

また、愛媛大学は松山市および愛媛県内各所に大・小規模の団地をもつが、その多くの団地では埋蔵文化財の分布の有無さえ把握できていない。調査が比較的進んだ城北団地・樽味団地でも、遺跡の範囲や内容を把握するまでには至っていない。1981年の文化庁からの通知では、埋蔵文化財包蔵地の所在状況を周知徹底し、正しい理解と協力を得るために、分布調査や発掘調査の成果により一段と精度を高めることなどが求められている。そこで、試掘や遺物の表面採集などの方法によって、大学構内における埋蔵文化財の有無や分布状況を把握する確認調査を1992年度から始めている。



図.1 埋蔵文化財調査室の体制

2 埋蔵文化財分布の把握状況と基本層序

①埋蔵文化財分布の把握状況

前述したように、愛媛大学の敷地は松山市および愛媛県内の各所に分散しているが、1996年度の時点で把握できている埋蔵文化財の分布は以下の通りである。既往の調査がなく遺跡の有無が未確認の団地については、今後とも確認調査などを進めていく必要がある(図版篇 索引図参照)。

城北団地：松山市道後樋又10番、文京町2・3番
法文学部・教育学部・理学部・工学部・大学事務局が所在する。1951年から遺物が採集され、1～3・5～15次にわたる全面調査と試掘・立会調査が行われ、縄文時代後期～古墳時代6世紀の集落遺跡であることが確認されている。

持田団地：松山市持田町1丁目5番22号

教育学部附属中・小・幼・養護学校が所在する。1929年に旧制松山高等学校で開かれた陳列会では、旧グランドから採集された弥生時代前期の木葉文をもつ壺や石包丁が展示された。最近、団地北東側の隣接した地点で松山市教育委員会が14世紀を前後する水田跡を調査している。既往の調査成果を含めて、団地北半を中心として遺跡が分布していると考えられる。

柳味団地：松山市柳味3丁目5番7号

農学部・附属高等学校・附属研究施設が所在し、既往の調査では、団地東半部には14～15世紀の中世集落、西半部には古墳時代5～6世紀代の集落遺跡が含まれていることが明らかになっている。

御幸団地：松山市御幸町2丁目3番15号

学生寄宿舎が所在するが、既往の調査がなく、埋蔵文化財の有無さえ未確認である。

米野団地：松山市米野町乙184-1

農学部附属演習林が所在するが、既往の調査

がなく、埋蔵文化財の有無さえ未確認である。

梅津寺団地：松山市梅津寺1861

大学課外活動施設が所在するが、既往の調査がなく、埋蔵文化財の有無は未確認。

北持田団地：松山市北持田町128-1

職員宿舎が所在しているが、既往の調査がなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

東長戸団地：松山市東長戸4丁目3番1号

職員宿舎が所在する。東側の丘陵部裾の段丘の落ち際に位置し、団地東半部を中心として遺跡が含まれている可能性がある。

喜与団地：松山市喜与町1丁目8番8号

職員宿舎が所在しているが、既往の調査がなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

北吉井団地：松山市桑原2丁目9番8号

職員宿舎が所在する。既往の調査で埋蔵文化財が団地全面に分布することが確認されている。

鷹子団地：松山市鷹子町40

国際交流会館が所在する。鷹子遺跡1次調査では、弥生時代中期後葉、7～8世紀、中世の上塙や溝が調査されている。

山越団地：松山市山越4丁目11番10号

大学課外活動施設の野球場・馬場・サッカーグラウンドなどの施設がある。東側の丘陵部裾からびる段丘の落ち際に位置し、団地東半部では弥生時代以降の水田層、西半部では古墳時代に埋没した自然河道が確認されている。

中島団地：温泉郡中島町大字小浜字瀬戸木

理学部附属臨海実験所が所在する。既往の調査がなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

重信団地：温泉郡重信町大字志津川

医学部および附属病院が所在する。既往の調査の成果から、団地東北部分には遺跡が含まれ

ている可能性が残されている。

溝辺団地：松山市溝辺町乙298

農学部附属高等学校の校舎があるが、既往の調査がなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

横河原団地：温泉郡重信町大字横河原字横川
職員宿舎が所在する。現在の重信川の氾濫原にあり、埋蔵文化財は分布していないと考えられる。

北条団地：北条市八反地字伊利甲498

農学部附属農場が所在するが、既往の調査がなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

津田山団地：松山市北斎院町津田山

教育学部附属養護学校の施設が所在する。
1996年度までに2件の調査を実施したが、埋蔵文化財の分布は確認されていない。

伊予団地：伊予市森宇下新山729

大学課外活動施設が所在するが、既往の調査がなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

大井野団地：松山市大井野町乙145-2

農学部附属演習林が所在する。既往の調査がなく、埋蔵文化財の有無は未確認である。

東野団地：松山市東野4丁目222

農学部附属演習林・短期学生宿舎が所在する。東野古墳群が営まれている。

②調査番号と城北・樽味団地における基本層序
現在、埋蔵文化財調査室では、愛媛大学構内において実施されたすべての発掘調査に調査番号を与え、調査データの整理・管理を行っている。調査番号は、西暦の下3桁の後に各年度ごとの調査順に1からの2桁の通し番号を加えた5桁の番号で表示されている。複数の地点(トレンチ)を設定した場合には、トレンチ番号を調査番号の後に枝番号で加えて表記している。本書の挿図中でも、この表示方法がとられている。

また、調査が進む城北団地と樽味団地につい

ては、遺跡が営まれた土地環境を把握・理解するために、団地全域にわたる基本層序を設定している。個々の調査ごとに、大区分を基本層序に準拠し、それを構成する細かな土層ごとに枝番号を付けて特徴や構成を観察し記録化している。以下、本書でも、基本層序を用いた報告を行っている。

城北団地の場合、これまで文京遺跡1～3次調査、5～15次調査などの調査成果から、基本層序を上位からI～V層に区分している。

I層：表土層にあたる瓦礫を含む造成土部分。

II層：造成以前の灰色系の近世～近代の水田層。9～11次調査で報告されている赤褐色土層は、II層の床上部分にあたる。

III層：弥生時代～古墳時代の遺構・遺物を包含する黒色～黒褐色系の土層である。

IV層：黄褐色系のシルト層で、下部には礫が混じる。縄文時代後期から晩期の遺構・遺物が確認されている。

V層：IV層下の花崗岩を主体とする砂礫ないし礫層で、最終氷期の最盛期に、城北地区から堀江低地に向かって流れていた右手川系の堆積物と考えられる。

樽味団地の場合、樽味遺跡1～3次調査と団地各所で実施されてきた諸工事などに伴う試掘調査や立会調査の成果から、基本層序を上位からI～V層に区分している。

I層：表土層にあたる瓦礫を含む造成土部分。

II層：造成以前の灰色系の近世～近代の水田層。2次調査のII層と対応する。

III層：遺物を包含する黒色～黒褐色系の土層。2次調査のIV層と対応する。

IV層：黄褐色系のシルト層で、下部には礫が混じる。2次調査のV～IX層と対応。

V層：IV層下の花崗岩を主体とする砂礫ないし礫層。2次調査のX～XX層。

I 1987年度の調査

埋蔵文化財調査室が設置された初年度にあたる1987年度には、それまで懸案であった鷹子遺跡1次調査、樽味遺跡1次調査、文京遺跡9次調査の3件の全面調査が相次いで実施され、樽

味団地で2件、城北団地で1件の試掘調査を調査室をあげて行うなど、厳しいスケジュールでの出発となった。

98701 国際交流会館新営工事に伴う調査(鷹子遺跡1次調査)

調査地点: 松山市鷹子町40

鷹子団地(図.2)

調査面積: 962m²

調査期間: 1987年7月20日~1987年9月20日

調査の種別: 全面調査

調査担当: 宮本一夫

前年度に法文学部人類考古学研究室によって実施された試掘調査(調査番号: 98605)では、現表土下20~40cmで弥生時代~古墳時代の遺物を包含する土層が確認され、その下面で当該期の溝や土壙と考えられる遺構が検出された。調査結果から、予定地全面に遺構が広がっている可能性が強いことが指摘され、6月に設置された



図.2 1987年度 鷹子団地調査地点 (縮尺 1/3,500)

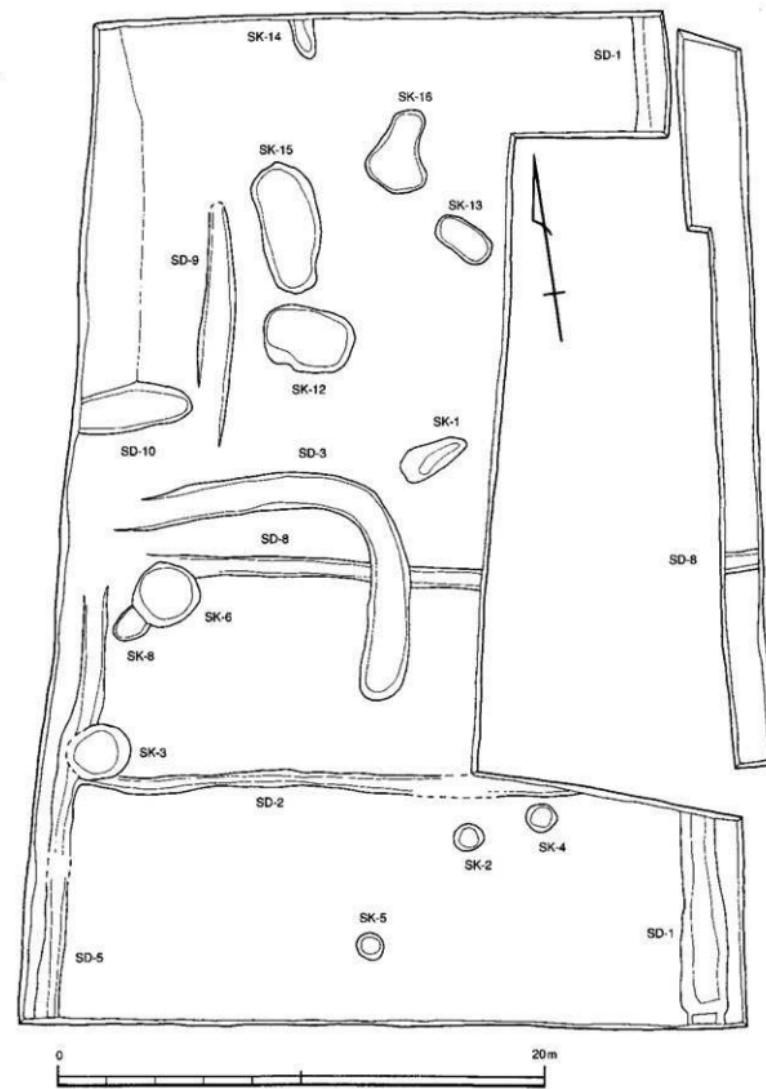


図.3 98701(鳴子遺跡1次調査)構造配置図(縮尺 1/200)



写真.1 98701(廃子遺跡1次調査) 調査区南半部(東から)

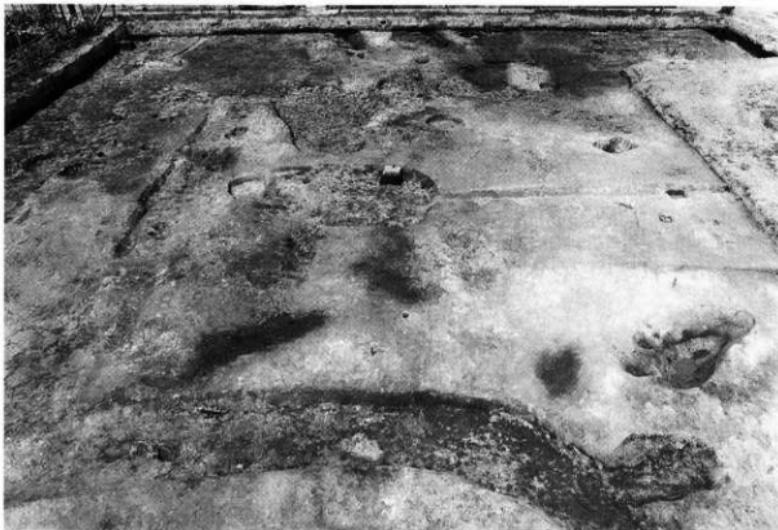


写真.2 98701(廃子遺跡1次調査) 調査区北半部(南から)

ばかりの埋蔵文化財調査室が調査を行うこととなった。

発掘調査では、弥生時代中期後葉の土壙2基(SK-1・15)、7~8世紀の溝3条(SD-2・5・8)と土壙6基(SK-2・4・5・12~14)、中世の溝4条(SD-1・3・9・10)と上壙4基(SK-3・6・8・16)が検出され調査された(図.3・写真1・2)。その中で、弥生時代の土壙は、これま

で周辺では知られていなかった時期の遺構で、近隣に住居跡を含む集落遺跡が展開していると考えられる。また、7~8世紀の3条の溝は、条里に基づいた長方形の区画溝である可能性が指摘されている。

調査の詳細は、愛媛大学埋蔵文化財調査報告Iとして『鷹子・櫛味遺跡の調査』が刊行されている。

98702 連合農学研究科校舎新営工事に伴う調査

調査地點：松山市桜美3丁目5番7号

櫛味団地(図.4)

調査面積：18m²

調査期間：1987年8月20日~1987年8月21日

調査の種別：試掘調査

調査担当：下條信行

前年度に法文学部人類考古学研究室によって行われた試掘調査(調査番号：98604)は、校舎新営予定地のみの調査であった。ところが、校舎新営に伴って給水・電線管などの配管が埋設されることとなり、再度の試掘調査を行うこととなった(図.5)。10ヶ所にトレンチを設定したが、3・7~9トレンチで遺物を包含する黒色土層(櫛味団地全域の基本層序Ⅲ層)が確認された。各トレンチの状況は以下のとおりである(図.6)。

[1 トレンチ]

表土の造成土部分の下層から黒色土があらわれた。擾乱されたⅢ層部分であり、造成土部分をI-1層、黒色土層をI-2層とした。I-2層下はIV層の黄褐色土層である。

[2 トレンチ]

擾乱が著しい。表土の造成土部分であるI-1層の下層は、現地表下1.2mまでI-2層とした疊

混じりの真砂土層である。

[3 トレンチ]

現地表下55cmで基本層序のⅢ層にあたる黒色土層があらわれた。層厚は5~10cmと薄いが、弥生土器ないし上師器の細片が出上した。

[4 トレンチ]

表土のI層の直下には、遺物包含層のⅢ層はみられず、基本層序のⅣ層があらわれた。

[5 トレンチ]

I層の造成土部分の下層には、灰色粘質土層がみられ、下部は黄灰色粘質土に変化している。造成以前の水田層で、基本層序のⅡ層にあたる。上部の灰色土は耕作上部分(Ⅱ-1層)、下部の黄灰色土は床土部分(Ⅱ-2層)にあたる。Ⅱ層の直下は、遺物包含層のⅢ層はみられず、基本層序のⅣ層である。

[6 トレンチ]

5トレンチと同じく表土層のI層下に黄灰色土層がみられる。旧水田層のⅡ層である。Ⅱ層下では、基本層序のⅣ層があらわれた。

[7 トレンチ]

表土層は、アルファルト舗装部分(I-1層)、造成土(I-2層)である。I層下には遺物包含層のⅢ層、黄褐色土層のⅣ層がみられる。Ⅲ層は10cmの厚さを測り、砂礫を含まず比較的安定し

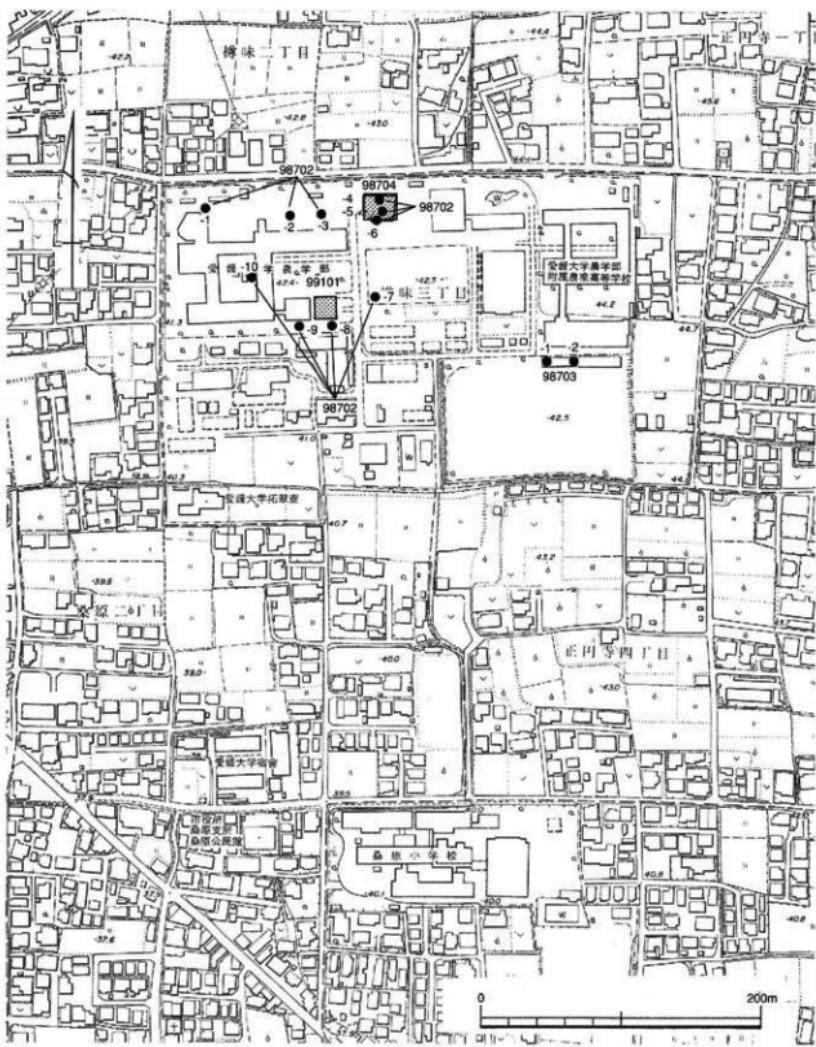


図4 1987~1991年度 梅味団地調査地点 (縮尺 1/3,500)

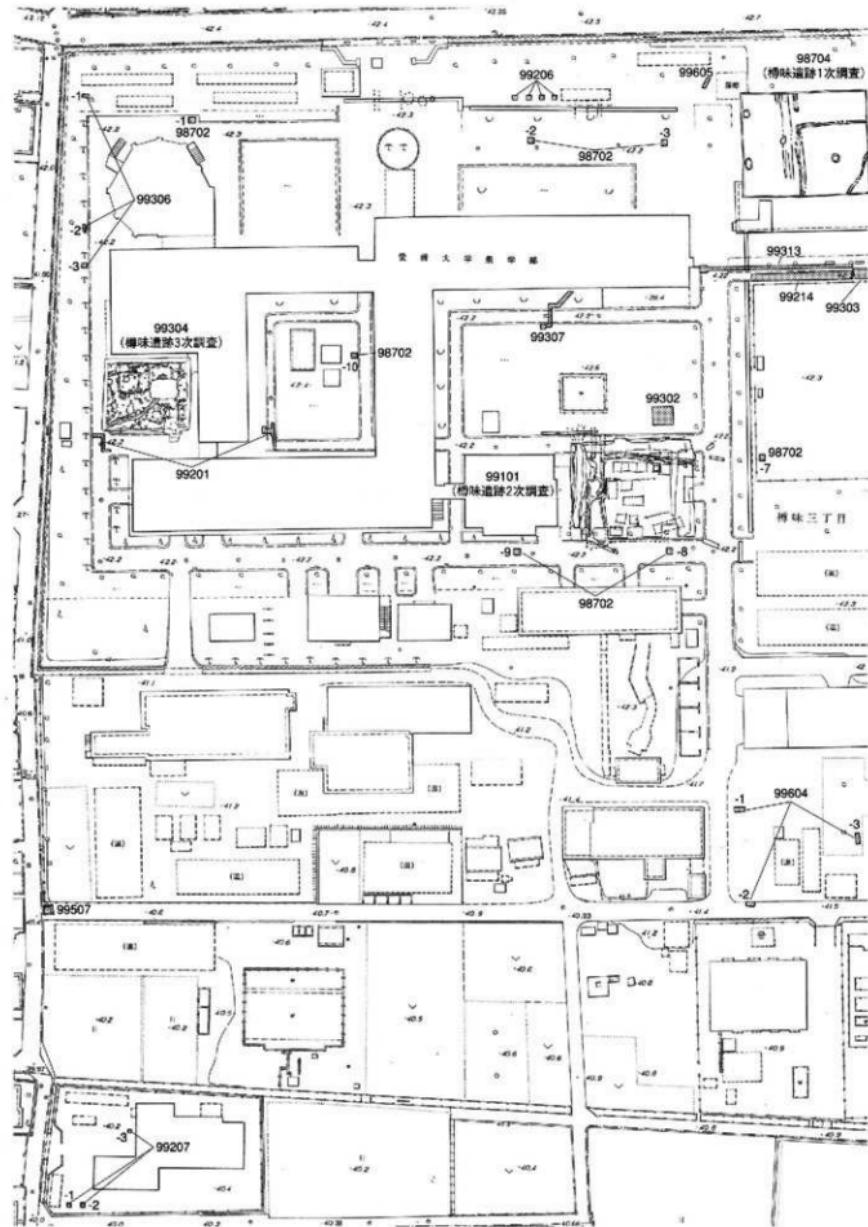
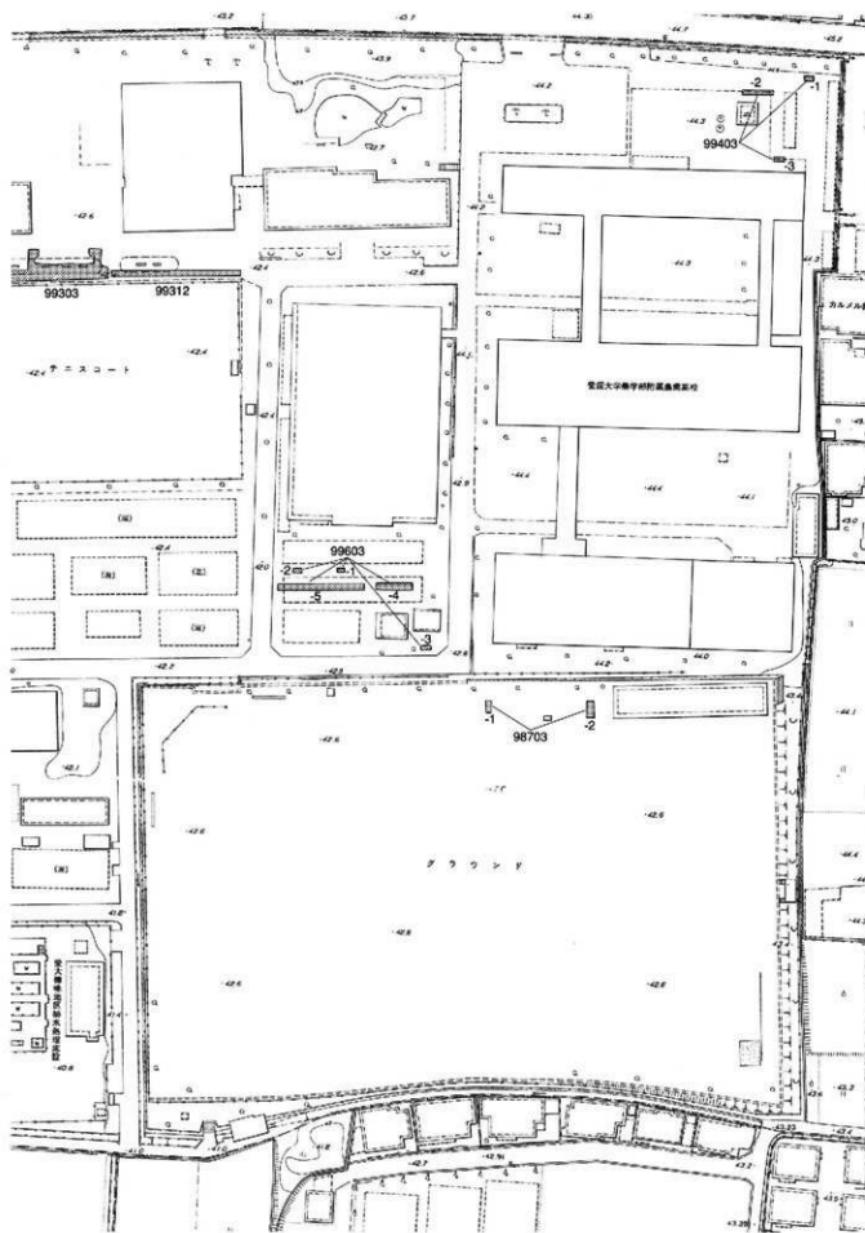


図.5 1987~1996年度 櫻味団地調査地点位置図（縮尺 1/1,000）



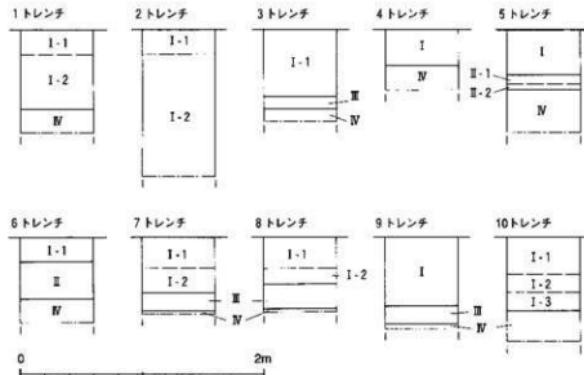


図.6 98702-1~10トレンチ土層柱状図（縮尺 1/40）

ている。

【8トレンチ】

7トレンチと同様な層序がみられ、III層は20cm以上の厚さである。

【9トレンチ】

表上層のI層下には、遺物包含層のIII層が層厚10~15cmでみられる。

【10トレンチ】

表層のI層は、造成土部分のI-1層、砂礫層部分のI-2層、攪乱部分のI-3層からなる。I層下には、遺物包含層のIII層はみられず、基本層序のIV層があらわれた。

今回の調査では、調査面積が狭いために、遺構は検出されなかった。しかし、梅味団地の広い範囲に遺跡が展開していることは確実で、工事に際して全面調査が必要である。

98703 附属農業高等学校課外活動施設新営工事に伴う調査

調査地点：松山市梅味3丁目5番7号

梅味団地(図.4)

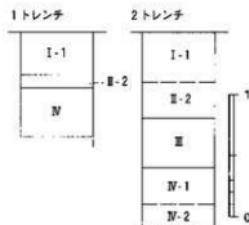
調査面積：6m²

調査期間：1987年8月20日

調査種別：試掘調査

調査担当：下條信行

梅味団地南京部の運動場北辺に、附属農業高等学校課外活動施設が新営されることになり、工事範囲の東西端にトレンチを設定して試掘調

図.7 98703-1・2トレンチ土層柱状図
(縮尺 1/40)

査を実施した。西側を1トレンチ、東側を2トレンチとした(図.5)。

1トレンチでは、造成土である真砂土部分を掘り下げるに、砂利混じりの土層があらわれた。攪乱部分と考え、真砂土部分をI-1層、砂利混じりの土層部分をI-2層とした。I層の直下には、樽味団地全域にわたる基本層序のIV層がみられ、後述する2トレンチで確認できた遺物を

包含する黒色土層はみられない(図.7)。

2トレンチでは、I層下で遺物を包含する黒色粘質土層を確認した。基本層序のⅢ層に対応する。さらに下位には、茶色の粘質土層と黄色の粘質土層がみられる。とともに、基本層序のⅣ層に対応する上層群で、それぞれⅣ-1層とⅣ-2層とした(図.7)。

98704 連合農学研究科校舎新設工事に伴う調査（樽味遺跡1次調査）

調査地点：松山市樽味3丁目5番7号

樽味団地(図.4)

調査面積：684m²

調査期間：1987年10月28日～1987年12月17日

調査の種別：全面調査

調査担当：宮本一夫

8月に実施した試掘調査(調査番号：98702)

の結果に基づいて、工事対象範囲の全面を発掘調査することになった。調査地点は、校舎建物本体部分の団地北辺のほぼ中央に位置する第Ⅰ区(図.5 98704-1)、第Ⅰ区から南へのびる管路部分の第Ⅱ区(同 98704-2)、西へのびる第Ⅲ・Ⅳ区がある(同 98704-3・4)。

第Ⅰ区では、弥生時代前期の溝1条(SD-04)と土壙1基(SK-05)を、中世の溝3条(SD-01・



写真.3 98704(樽味遺跡1次調査)調査区全景(南西から)

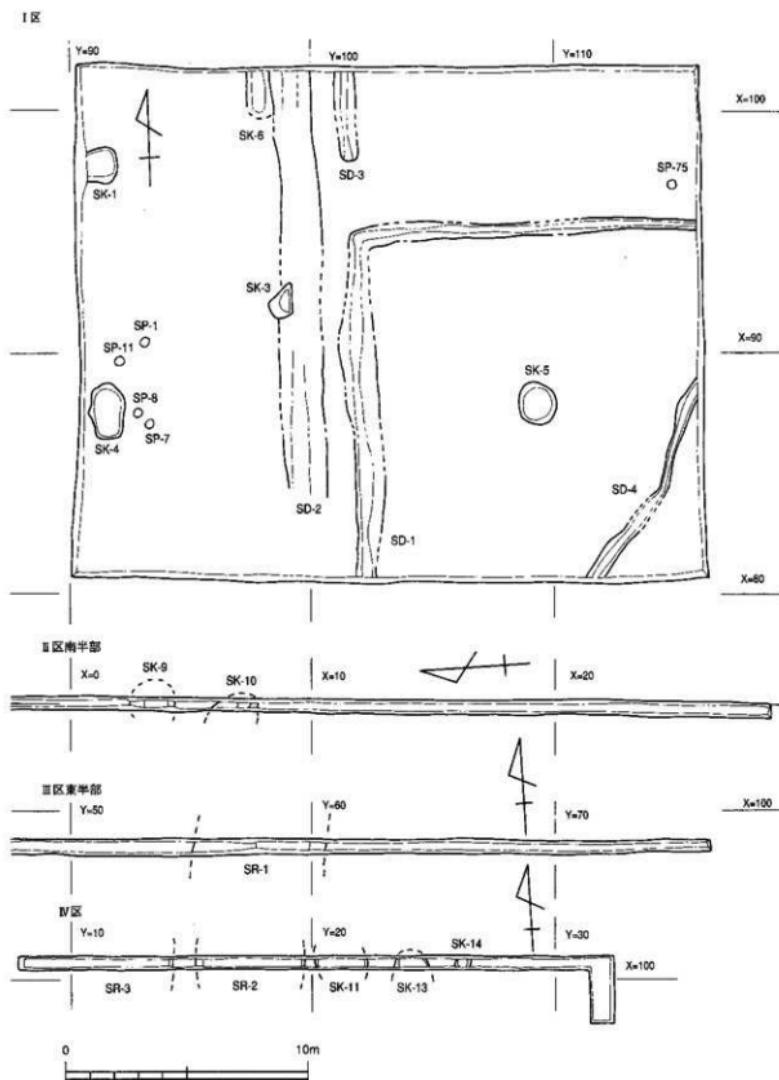


図. 8 98704(樟味遺跡 1次調査)遺構配置図 (縮尺 1/200)

02・03)、土壌4基(SK-01・03・04・06)、柱穴(SP-01・07・08・11・75)を調査した。第Ⅱ区では、南半部分で中世の土壙2基(SK-09・10)、第Ⅲ区では中世の自然流路もしくは溝を1条(SR-01)、第Ⅳ区では弥生時代中期の土壙(SK-11)と古墳時代後期の6世紀後半~末の自然流路もしくは溝(SR-02・03)を確認した(図8、写真3)。

その中で、弥生時代前期の土壙は貯蔵穴と考えられ、櫛味遺跡周辺でもっとも時期が遅る遺構である。また、中世の溝や土壙は、14~15世紀代の遺構で、L字形のSD-01は中世集落を取り囲む区画溝である可能性が強い。この他、調査の詳細は、愛媛大学埋蔵文化財調査報告Iとして『鷹子・櫛味遺跡の調査』が刊行されているので、参照されたい。

98705 城北地区プール廻り浄化装置増設工事に伴う調査

調査地点: 松山市文京町3番

城北団地(図9)

調査面積: 2m²

調査期間: 1987年11月13日

調査の種別: 試掘調査

調査担当: 宮本一夫

図版篇図幅: 図幅18(J4-20)

調査地点は、城北団地の北西角に位置する。

3ヶ所に調査トレンチを設定したが、いずれも

擾乱が著しかった。

その中で、3トレンチでは、現地表下40~50cmに弥生時代~古墳時代の遺物包含層、80cm前後にぶい黄褐色シルト層を確認した(図10)。にぶい黄褐色シルト層からは、150mほど北西に離れた南海放送RNB遺跡(図版篇 図幅18: MC-62064)で縄文時代後期~晩期の遺物が出土しており、当該期の遺物包含層である可能性が高い。

工事に際しては、全面調査が必要である。

98706 城北地区プール廻り浄化装置増設工事に伴う調査 (文京遺跡9次調査)

調査地点: 松山市文京町3番

城北団地(図9)

調査面積: 62m²

調査期間: 1988年1月11日~1988年1月29日

調査の種別: 全面調査

調査担当: 宮本一夫

調査補助: 宮崎直栄

図版篇図幅: 図幅18(J4-20)

事前の試掘調査(調査番号: 98705)の結果に基づき、浄化装置が増設される工事範囲を全面

的に調査することとなった。城北団地全域にわたる基本層序であるⅠ層(表土の造成土部分)、Ⅱ-1層(褐色粘質土層)、Ⅱ-2層(赤褐色土層)、Ⅲ層(暗茶褐色土層)、Ⅳ層(黄褐色粘質土層)、Ⅴ層(灰色砂礫層)が上位から確認された(図10、写真4)。

今回の調査の大きな成果は、Ⅳ層の黄褐色粘質土層が縄文時代の遺物包含層であることを確認できたことである。出土遺物は土器が20点ほど少ないが、松山平野で数少ない縄文時代後期~晩期前葉の資料である。城北団地全域にわ

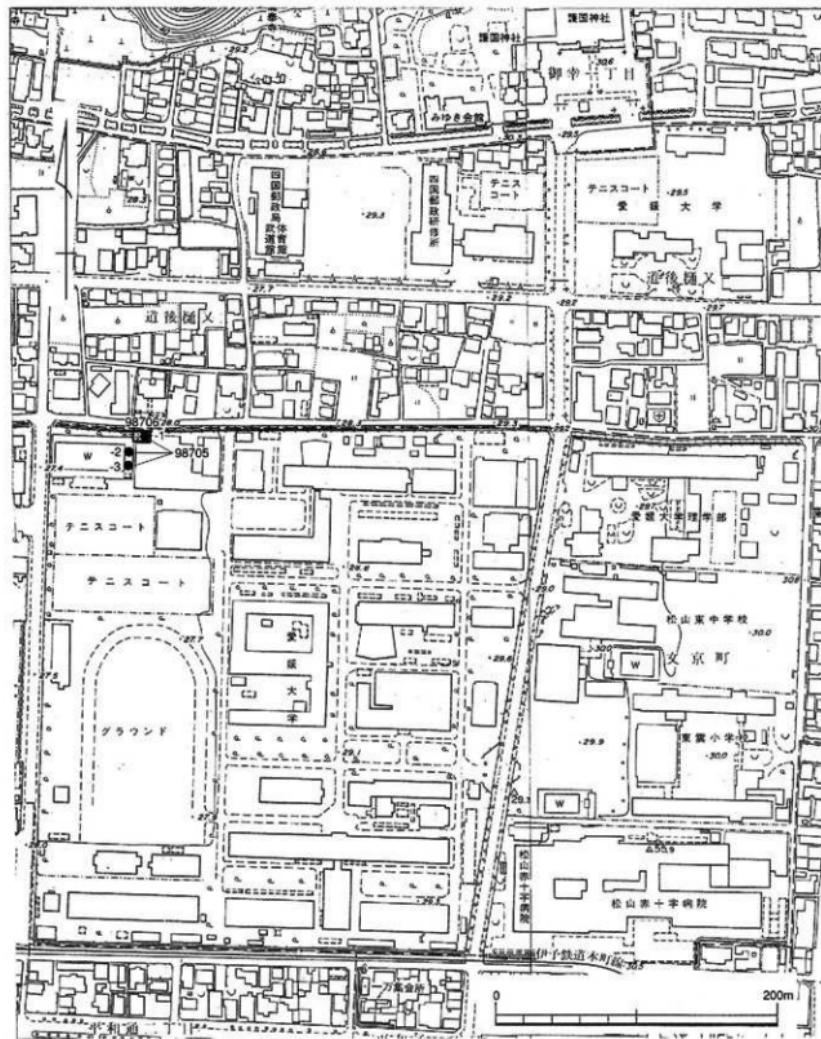


図.9 1987年度 城北団地調査地点 (縮尺 1/3,500)

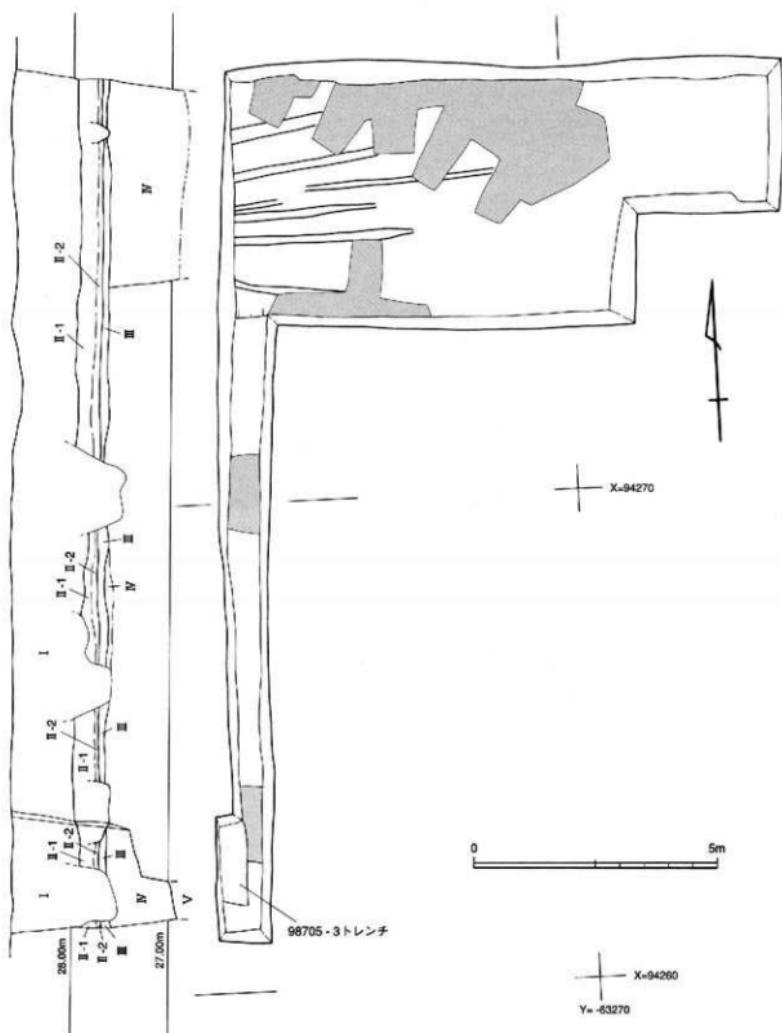


図.10 98706(文京遺跡9次調査)調査区構成配置・土層断面図(縮尺 1/100・1/50)



写真.4 98706(文京遺跡9次調査)北壁土層断面

たる基本層序のIV層の堆積時期を決めることができ、遺跡が営まれた土地環境を知る上でも貴重な資料である。

この他、II-1層中から掘り込まれた溝1条(SD-01)、III層上面で検出した東西にびる溝群などの遺構を調査した。II-1層は近世～近代の遺物を包含することから、SD-01は近代の遺構と考えられる。III層上面で検出した溝群は、

砂質土を含む埋土で、深さはごく浅い。中世段階の耕作に伴うものと考えられる。また、III層に対応する暗茶褐色上層は薄く、遺物も出土していない。

調査の詳細は、愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅱとして刊行された『文京遺跡第8・9・11次調査』に報告されている。

II 1988年度の調査

1988年度には、1000m²をこえる全面調査である文京遺跡10次調査が実施された。しかも、構内各所で実施される諸工事については、10次調査の合間を見て立会調査を行うという前年度にも増した厳しいスケジュールとなった。加えて、

文京遺跡10次調査の開始直後、調査範囲内の載荷試験調査計画が提示された。結果的には、調査を実施したもの、調査地点が1号整穴式住居跡と重なり、調査工程に支障が生じた。計画的な工事設計が必要である。

98801 工学部情報工学科校舎新築工事に伴う調査 (文京遺跡10次調査)

調査地点：松山市文京町3番
城北団地(図11)

調査面積：1075m²

調査期間：1988年9月19日～1989年3月3日

調査の種別：全面調査

調査担当：宮本一夫

調査補助：宮崎直栄

図版編図幅：図幅24(J4-25)

調査地点は、城北団地南西部、運動場の南側に位置する。文京遺跡2次調査(調査番号：98001)地点の西側に隣接している。

城北団地の他の調査地点と同じく、上層からI層の表土層、II層下部の赤褐色上層、III層の暗茶褐色土層が堆積している。III層下には、IV層の黄褐色粘質上層が調査区の中央～西半部にみられるが、東端付近ではIII層の直下にV層上部の灰色砂礫層が盛り上がっている(図12)。

II層からは、古墳時代～中世の遺物が出土した。II層を掘り下げ、III層上面で、古代～中世の遺構を確認した溝3条(SD-01～03)は古代、掘立柱建物2棟(SB-07・08)・柵列1条(SA-01)・土壙3基(SK-01～03)・小穴SP-42は中

世の遺構である。

以上の遺構を調査した後に、人力でIII層を上中下部の3層に人为的に分層して掘り下げた。その過程で、12ヶ所の遺物が集中して出土した部分(SX-01～05・07～13)を確認した。遺物には、弥生時代中期後葉～後期前半の土器に加えて、中国鏡破片・板状鉄製品・鉄鎌・菅笠・分銅形土製品・土錐・ガラス滓などがある。とくに、中国鏡の破片は、北部九州を除く西日本地域でもっとも時期の遅い資料である。

IV層上面では、弥生時代の遺構が検出された(写真5～10)。整穴式住居跡4棟(SB-01～04、うち、円形住居跡2棟、方形住居跡2棟)、高床倉庫と考えられる掘立柱建物2棟(SB-05・06)、溝10条(SD-04～SD-13)、円形周溝遺構1基(SX-14)、土壙6基(SK-04・06・11・13・15・18)がある。いずれも弥生時代中期後葉～後期初頭の遺構である。

その他、調査の詳細については、愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅲとして刊行された『文京遺跡第10次調査』に報告されているので、参照されたい。

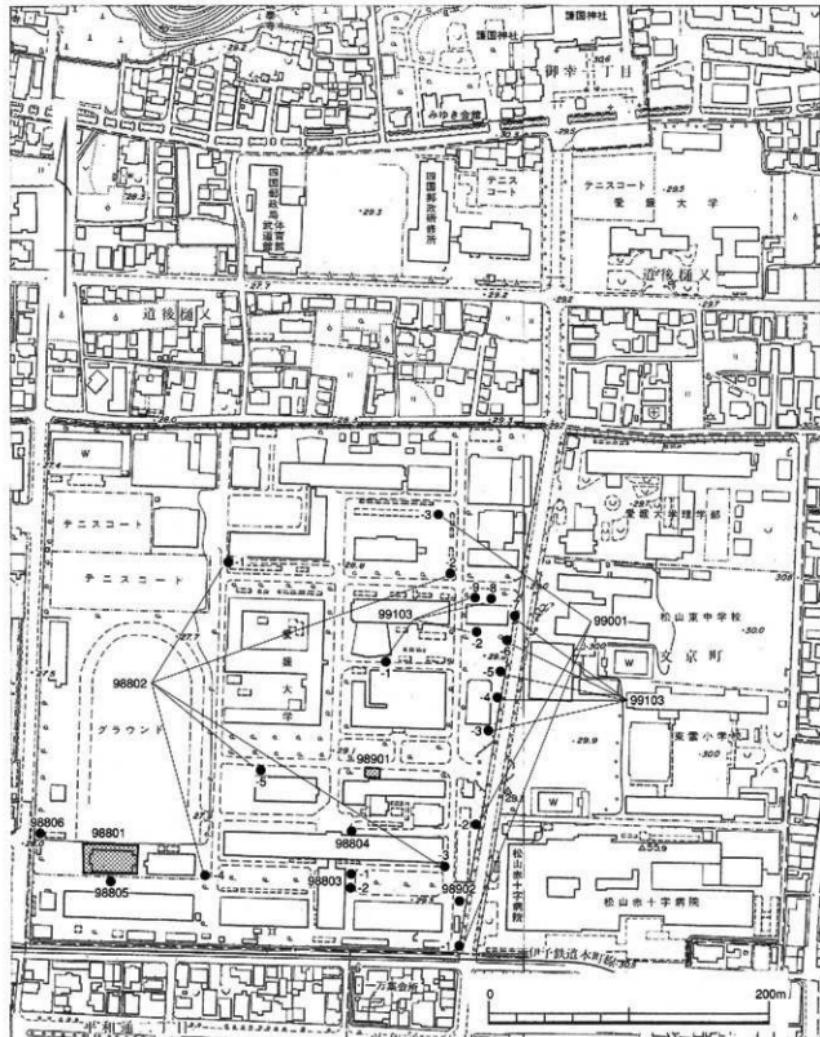


図.11 1988～1991年度 城北団地調査地点（縮尺 1/3,500）

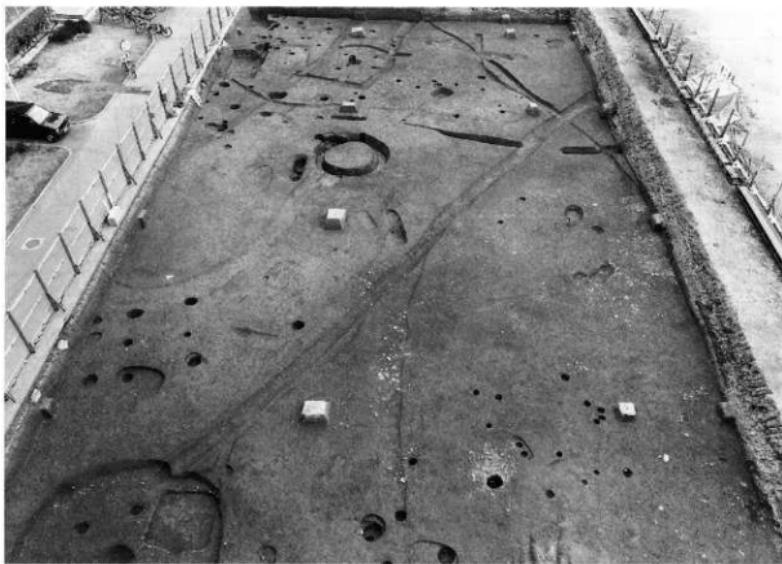


写真.5 98801(文京遺跡10次調査)調査区中央～西半部(東から)



写真.6 98801(文京遺跡10次調査)調査区東半部(東から)

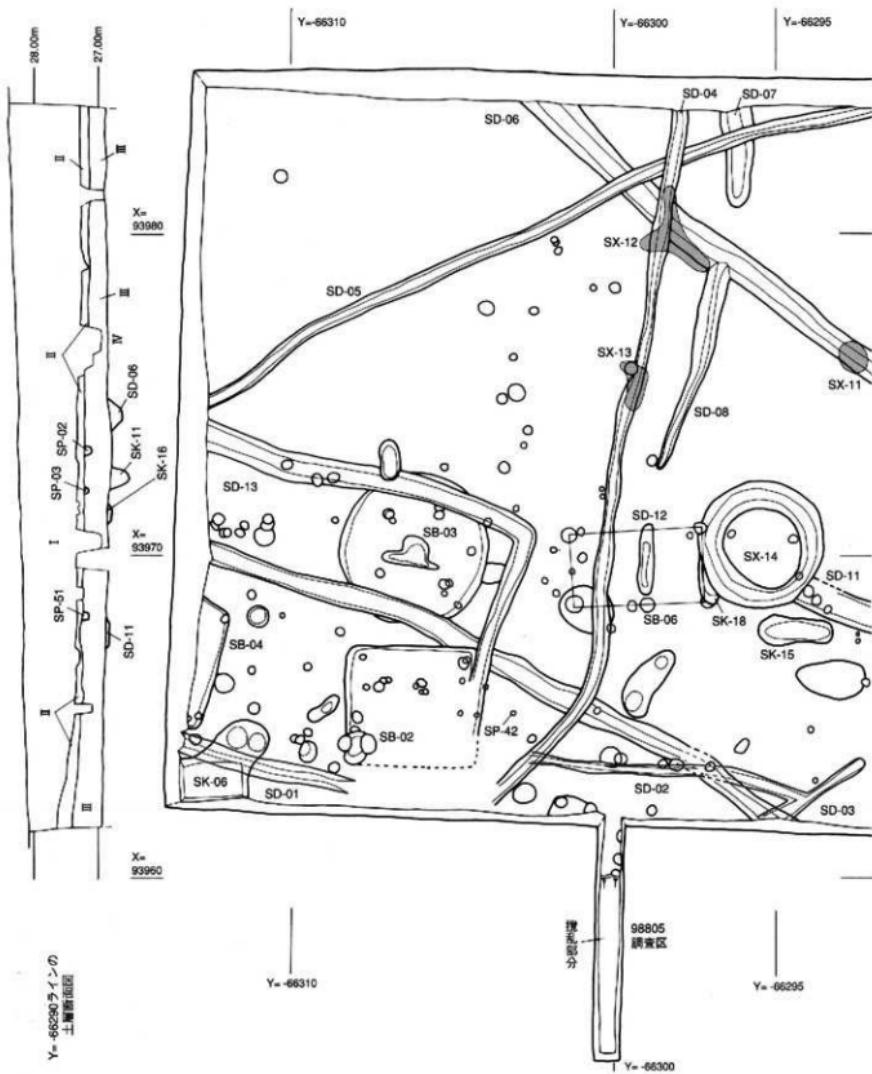
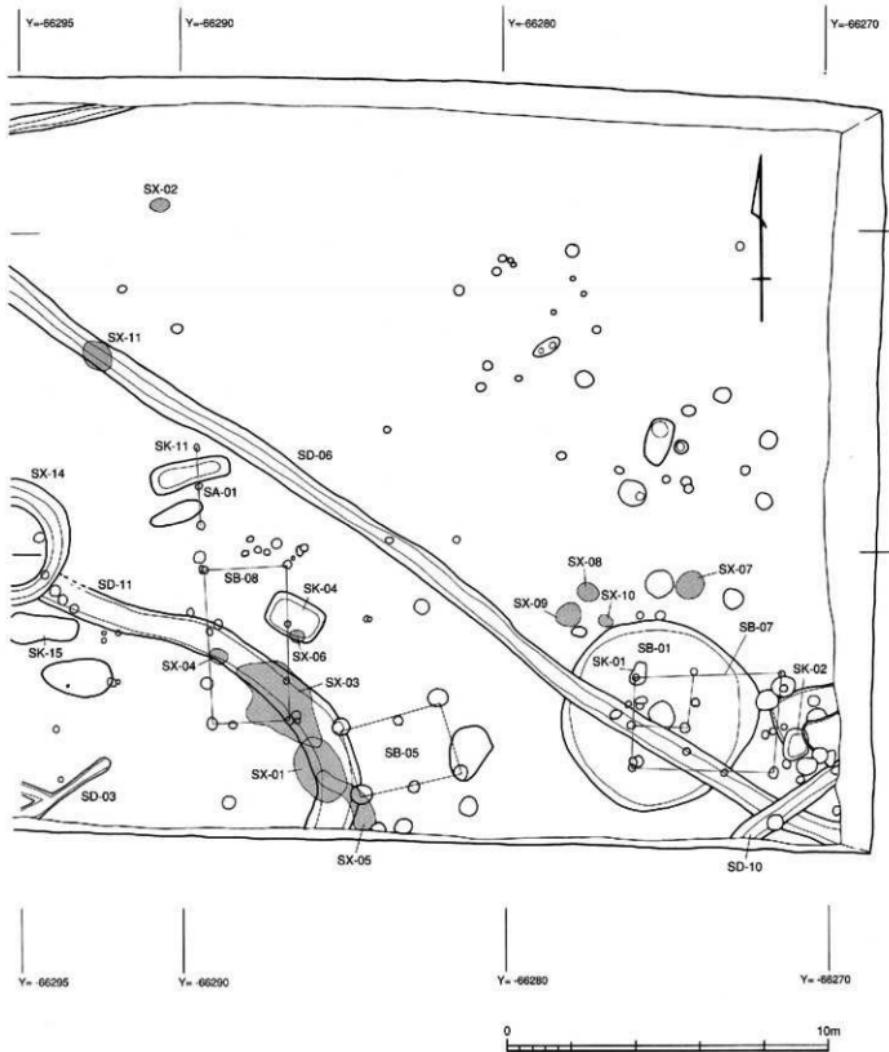


図.12 98801(文京遺跡10次調査)構造配置・土層断面図(縮尺 1/150・1/75)



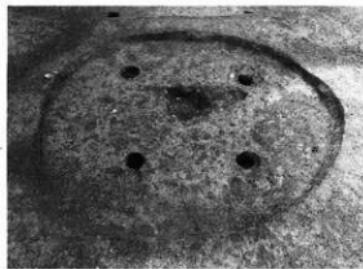


写真.7 98801(文京遺跡10次調査) S C-1 (東から)

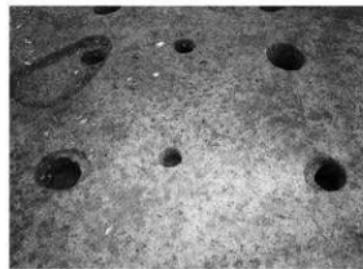


写真.8 98801(文京遺跡10次調査) S B-05 (北西から)



写真.9 98801(文京遺跡10次調査) S K-15 (南から)



写真.10 98801(文京遺跡10次調査) S X-14 (東から)

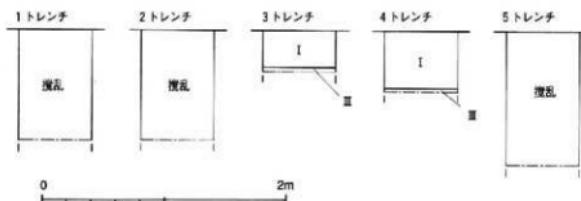


図.13 98802-1~5トレンチ土層柱状図 (縮尺 1/40)

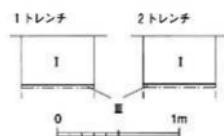


図.14 98803-1・2トレンチ土層柱状図 (縮尺 1/40)

98802 城北地区基準点等設置工事に伴う調査

調査地點：松山市文京町3番

城北団地(図.11)

調査面積：5 m²

調査期間：1988年10月13日

調査の種別：試掘調査

調査担当：宮本一夫

図版篇図幅：図幅18 (J4-20)

図幅24 (J4-25)

城北地区における埋蔵文化財調査のため、国土地標IV系の3級基準点を設置することとなり、事前に試掘調査を実施した。城北団地南半部に位置する3・4トレンチでは基本層序のⅢ層を確認したが、北半部の1・2・5トレンチでは近接する建物の余掘り部分にあたり、いずれも攪乱されていた(図.13)。

98803 工学部講義棟高压ケーブル埋設工事に伴う調査(その1)

調査地點：松山市文京町3番

城北団地(図.11)

調査面積：2 m²

調査期間：1988年12月8日

調査の種別：試掘調査

調査担当：宮本一夫

図版篇図幅：図幅24 (J4-25)

調査地点は、城北団地の南西部、工学部1号館の南側、講義棟の東側に位置する。高压ケーブルが埋設される管路部分の南北端の2ヶ所にトレンチを設定した。北側が1トレンチ、南側が2トレンチである。ともに、現地表下40cmで城北団地の各地点でみられる遺物包含層であるⅢ層の上面を確認した(図.14)。

98804 工学部講義棟高压ケーブル埋設工事に伴う調査(その2)

調査地點：松山市文京町3番

城北団地(図.11)

調査面積：1 m²

調査期間：1988年12月12日

調査の種別：試掘調査

調査担当：宮本一夫

図版篇図幅：図幅24 (J4-25)

調査地点は、城北団地の南西部、工学部1号館正面玄関の北側に位置する。共同溝から1号館へ高压ケーブルを埋設する工事が計画され、工事に先立って事前に試掘調査を実施した。しかし、工学部1号館建設に伴う余掘り部分にあたり、工事地点は遺跡がすでに破壊されているものと判断し、調査を終了した。

98805 工学部情報工学科校舎排水施設取設工事に伴う調査

調査地點：松山市文京町3番

城北団地(図.11)

調査面積：6 m²

調査期間：1989年2月7日

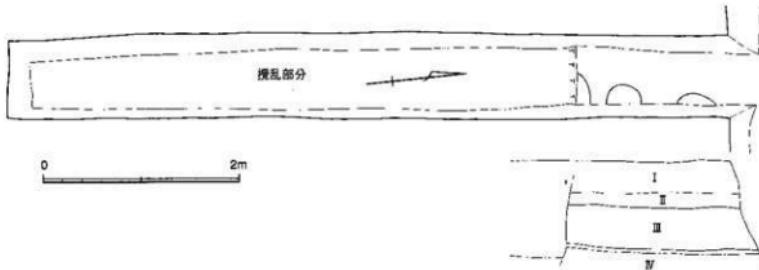


図.15 98805 調査区平面図・土層断面図（縮尺 1/50）

調査の種別：立会調査

調査担当：宮本一夫

図版篇幅：図幅24 (J4-25)

調査地点は、城北団地の南西角近くの工学部4号館(文京遺跡10次調査地点)と2号館をつな

ぐ地点である。文京遺跡10次調査中に、施設部から計画の提示があり、調査の合間を縫って立会調査を実施することになった。北端部分では小穴を3基検出したが、調査区の大部分は共同溝のために、すでに大きく破壊されていた(図.12・15)。

98806 工学部情報工学科校舎給水施設取設工事に伴う調査

調査地点：松山市文京町3番

城北団地(図.11)

調査面積：3 m²

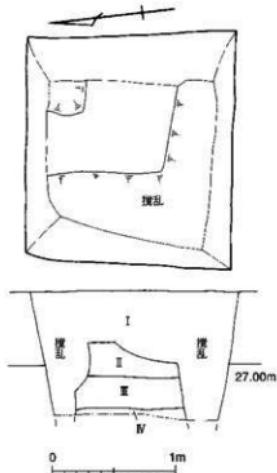
調査期間：1989年2月9日～1989年2月10日

調査の種別：立会調査

調査担当：宮本一夫

図版篇幅：図幅24 (J4-25)

調査地点は城北団地の南西角近くの西門北側に位置する。調査区の大半はすでに擾乱されていたが、現地表下70cmで遺物を包含する暗褐色土層のⅢ層を確認した。工事に伴う掘削が100cmまでおよぶことから、Ⅲ層を精査しながら掘り下げた。下層のⅣ層の上面では、調査範囲が狭く、造構は検出されていない(図.16)。

図.16 98806 調査区平面図・土層断面図
(縮尺 1/40)

III 1989年度の調査

98901 法文学部講義棟身障者用昇高機取設工事に伴う調査 (文京遺跡11次調査)

調査地点: 松山市文京町3番
城北団地(図.11)

調査面積: 85m²

調査期間: 1989年8月1日~1989年8月29日

調査の種別: 全面調査

調査担当: 宮本一夫

調査補助: 宮崎直栄

図版篇図幅: 図幅24 (J4-25)

調査地点は、城北団地の南東部、法文学部2号館北側に位置する。城北団地全域の基本層序に対応するI層(表土層)、II層下部(赤褐色土層)、III層(暗茶褐色土層)、IV層(黄褐色~明褐色の粘質土および砂質土)、V層(灰色砂礫層)が上位から堆積している。IV層は、IV-1層の黄褐色粘質土層、IV-2層の黄褐色砂質土層、IV-3層の明褐色粘質土層、IV-4層の黄白色砂質土層から構成される。ただし、IV-3層は調査区の西



写真.11 98901(文京遺跡11次調査) IV層縄文土器出土状況(西から)

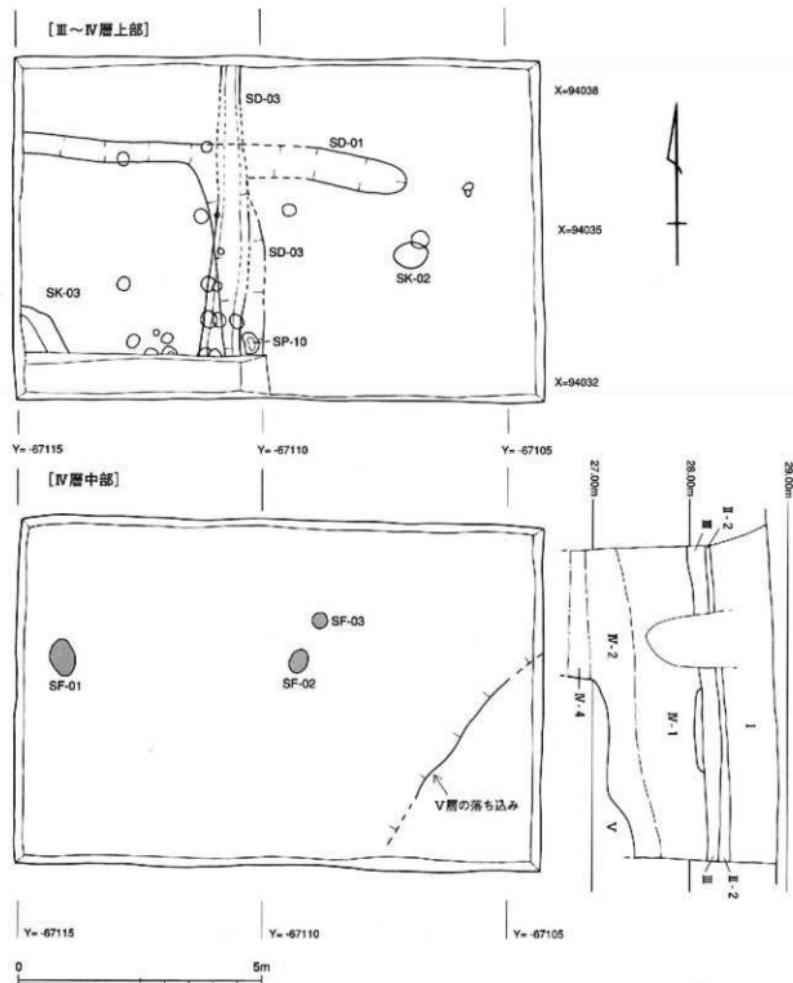


図.17 98901(文京遺跡11次調査)遺構配置・土層断面図(縮尺 1/100・1/50)

半部分にしか堆積していない(図.17)。

調査では、Ⅲ層上面で1・2号溝(SD-01・02)を検出した(写真.11)。ともに、灰色砂で埋まる浅い自然流路である。古墳時代～中世と考えられる須恵器壺の破片が出土した。

Ⅲ層中位～Ⅳ層上面では、弥生時代の遺構を確認した。南北にのびる溝1条(SD-03)、土壙2基(SK-02・03)を主要な遺構として、他に小穴がある(図.17上)。3号土壙(SK-03)からは、弥生時代中期末の土器と共に、分銅形土製品と板状鉄斧が出土した。

Ⅳ-1層下半から縄文時代後期の遺物が出土し始めた。Ⅳ-2層でもっとも多く、Ⅳ-3層には若干の遺物は含まれるもの、Ⅳ-4層には遺物は

含まれていない(図.17下、写真.11)。Ⅳ-2層上面で野外炉1号(SF-01)、Ⅳ-2層中で野外炉2・3号(SF-02・03)を確認した。また、遺物は調査区南東隅のV層(灰色砂礫層)の落ち込みに対応するように、壠り鉢状に埋没していた。出土した縄文土器は、縄文時代後期の津雲A式新段階に属し、南西四国の平城II類に類似した資料が含まれている。その他、石皿・磨石が出土している。

調査の詳細については、愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅱとして刊行された『文京遺跡第8・9・11次調査』に報告されているので、参照されたい。

98902 城北団地電波障害用の外線工事に伴う調査

調査地点：松山市文京町3番

城北団地(図.11)

調査面積：2m²

調査期間：1990年3月3日

調査の種別：立会調査

調査担当：宮本一夫

図版範囲幅：図幅24(J4-25)

電波障害用の外線を城北団地内へ引き込むこととなり、引き込み線の管路部分を立会調査した。調査地点は、団地南東角に位置する。

管路部分の西側は、共同溝の設置工事の際に擾乱を受けている。中央部と東端では、表上の造成土部分であるI-1層の下位に、青灰色土層がみられた。I-2層とした。また、東端部では、

現地表下25cmで、城北団地における基本層序のⅢ層(茶褐色土層)を確認したが、遺物は出土しなかった。さらに、現地表下40cmでⅣ層にあたる黄褐色土層がみられる(図.18)。

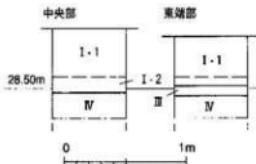


図.18 98902 調査区中央部・東端部
土層柱状図 (縮尺 1/40)

IV 1990年度の調査

99001 城北団地囲障工事及び教育学部自転車置場新設工事に伴う調査

調査地点：松山市文京町3番

城北団地(図11)

調査面積：3m²

調査期間：1990年8月8日

調査の種別：試掘調査

調査担当：宮本一夫

図版編図幅：図幅18(J4-20)

図幅24(J4-25)

城北団地東辺囲障の整備と教育学部自転車置場の新設が計画され、工事に先立って事前に試掘調査を行った。調査地点は3ヶ所で、南から1～3トレンチとした。

1トレンチは、城北団地の南東角に位置する。表土層のI層下には、造成以前の旧水田層の床

土部分にあたる赤褐色土層のII-2層、現地表下50cmで茶褐色土層のIII層上面が確認できた。

2トレンチは団地正門の南に位置する。表土である造成土部分のI層を掘り下げると、現地表下40cmで茶褐色土層のIII層を検出した。

3トレンチは団地北半部の教育学部3号館の南側に位置する。表土のI層直下で茶褐色土層のIII層を確認した。III層上面は現地表下50cmにある(図19)。

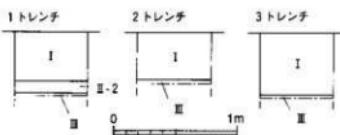


図19 99001-1～3トレンチ土層柱状図(縮尺 1/40)

V 1991年度の調査

99101 農学部研究実験棟新営工事に伴う調査 (樽味遺跡2次調査)

調査地点：松山市樽味3丁目5番7号
樽味団地(図4)

調査面積：506m²

調査期間：1992年1月7日～1992年2月28日
調査の種別：全面調査

調査担当：田崎博之
調査補助：宮崎直栄

農学部では、研究施設の充実をはかるために、農学部3号館の東側に研究実験棟が新営される

こととなり、全面調査を実施した(図.5)。

調査の結果、14～16世紀の中世集落を構成する掘立柱建物12棟(SB-09～20)、横列3条(SA-21～23)、土壙3基(SK-08・25・26)、溝6条(SD-01・02・05～07・24)、水口2ヶ所(SM-03・04)などが発見された(図.20、写真12・13)。

その中で、1号溝(SD-01)は14世紀前半～中期に開削され、3号水口(SM-03)と2号溝(SD-02)が付設される。この溝の北側延長線上にある樽味遺跡1次調査Ⅲ区(調査番号:98704-3)では、幅5m前後の溝(SR-01)が確認されている。2次調査の1号溝と同一の溝と考えられる。

總延長が90mをこえる水路となる。樽味遺跡周辺では13世紀までの遺構がほとんどないことを考えれば、この水路の開削によって、樽味地区の中世の開発が軌道にのったことが伺える。同時に當まれたのは、9・15・19号掘立柱建物(SB-09・15・19)である。

つづく14世紀後半～15世紀に一部かかる時期には、1号溝に4号水口(SM-04)と6号溝(SD-06)が付設される。さらに、5・7号溝(SD-05・07)と21・22号横列(SA-21・22)で南北16.5m、東西20m前後の方形区画が設けられ、10・12・13・16・18号掘立柱建物(SB-10・12・13・16・

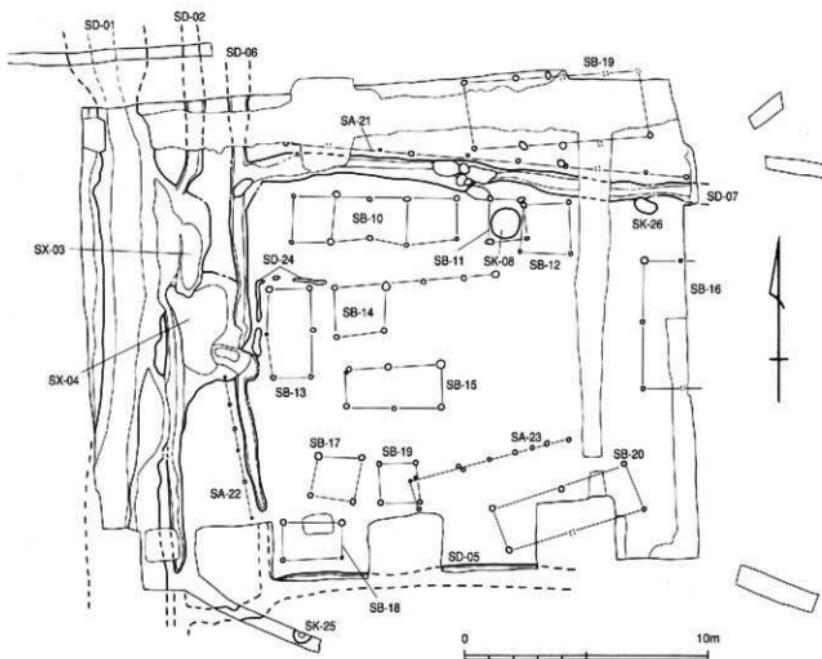


図20 99101(樽味遺跡2次調査)主要遺構配置図(縮尺 1/200)



写真.12 99101(梅味遺跡 2次調査)調査区遠景 (北から)



写真.13 99101(梅味遺跡 2次調査)調査区全景 (西から)

18)が営まれる。1次調査区でもL字形に曲がる溝など同時期の3条の区画溝が調査されている。1次調査区は近代～現代の擾乱が著しく、掘立柱建物などは確認できなかったが、樽味団地全域に広がる複数の方形区画が連結した中世集落の姿を想定できる。

遺構出土の14～16世紀の遺物は、土師器の皿・杯や土鍋・三足付羽釜が大半を占める。他に、龜山焼の大壺、備前焼の擂鉢、東藩系須恵器の

こね鉢、常滑焼の大壺、中国産の白磁・龍泉窯系青磁・同安窯系青磁の皿や碗などがある。また、「治平元寶」「嘉祐元寶」などの中国銭、石硯、獸骨などの自然遺物が出土した。8号土壙(SK-08)からは16世紀代の備前焼大壺・石臼などが出土した。

調査の詳細については、愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅳとして刊行された『樽味遺跡Ⅱ』に報告されているので、参照されたい。

99102 教育学部附属養護学校日常生活訓練施設建設工事に伴う調査

調査地点：松山市北斎院町津田山

津田山団地(図.21)

調査面積：13m²

調査期間：1991年6月8日

調査の種別：試掘調査

調査担当：下條信行

津田山団地において日常生活訓練施設が新営される計画が提示された。しかし、津田山団地では、これまで発掘調査は行われておらず、埋蔵文化財の有無さえ把握されていなかった。そのため、試掘調査を実施することとした。

日常生活訓練施設の建設予定地は、団地が占

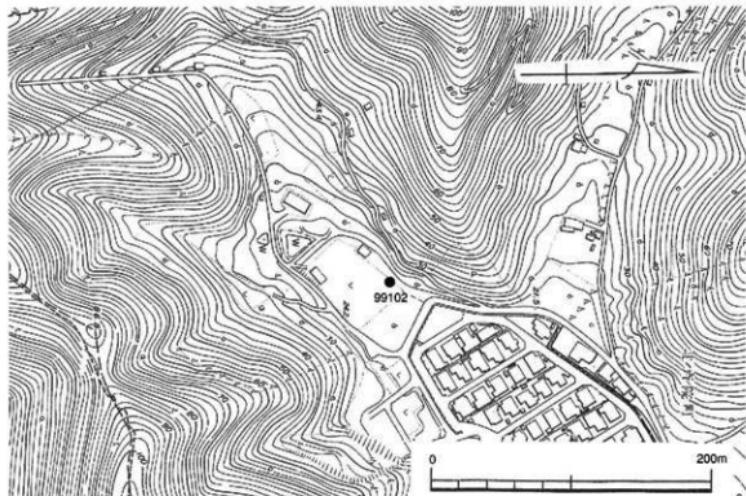


図.21 1991年度 津田山団地調査地点 (縮尺 1/3,500)

める谷の中央部分である。予定地のはば中央に北西—南東方向の長さ12.6m、幅0.7mのトレーニングを設定した。調査の結果、工事に伴う掘削面の現地表下85cmまで盛土部分が続く。確認のた

めに、トレーニングの両端で現地表下1.7mまで深掘りを行ったが、やはり盛土部分が続いている。埋蔵文化財の有無は不明である。

99103 城北団地囲障(Ⅱ期)改修及び外灯改修工事に伴う調査

調査地点: 松山市文京町3番

城北団地(図11)

調査面積: 36m²

調査期間: 1991年8月21日

調査の種別: 試掘調査

調査担当: 下條信行

図版篇図幅: 図幅18(J4-20)

図幅24(J4-25)

1990年に統いて城北団地西辺囲障の改修と外灯の改修工事が計画され、工事に先立って団地西部の附属図書館北側1ヶ所、講堂周辺3ヶ所、課外活動施設周辺5ヶ所の計9ヶ所で試掘調査を実施した。調査順に1~9トレーニングとし、工事の掘削面までの調査を行った。

1トレーニングでは、表層のI層(1-1層: アスファルト舗装部分、1-2層: 客土部分)の下位、

現地表下40cmで茶褐色土層があらわれた。城北団地の基本層序のⅢ層である。2トレーニングでは現地表下40cmで鉄分が沈着した茶褐色土層を確認した。基本層序のⅡ-2層にあたる。3トレーニングでは現地表下50cmで淡褐色砂層があらわれ、下位では鉄分が沈着した茶褐色土層を確認した。

4トレーニングでは現地表下41cmで基本層序のⅢ層に対応する暗褐色土層を検出した。5トレーニングでは表層のI層下、現地表下50cmで漆喰状の白土があらわれた。建物の基礎部分である。6トレーニングでは現地表下33cmまで表層のI層が続く。7トレーニングでは表層のI層下、現地表下35cmで基本層序のⅡ層にあたる褐色土層があらわれ、掘削面の現地表下50cmまで続く。8・9トレーニングでは掘削面の現地表下80cmまで客土部分のI-2層がみられる(図22)。

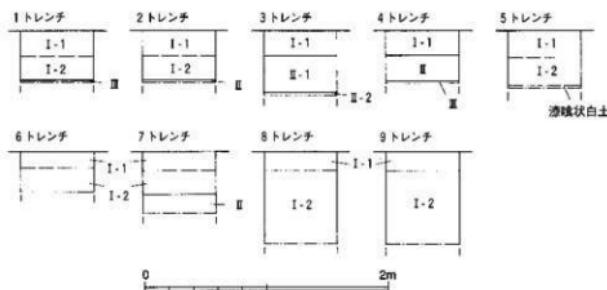


図22 99103-1~9トレーニング土層柱状図(縮尺 1/40)

VI 1992年度の調査

1992年度は、前年度に実施した農学部研究実験棟(農学部3号館)新設工事に伴う樽味遺跡2次調査(調査番号:99101)の整理作業を進めるとともに、構内各所で行われる諸工事に対応して立会調査・試掘調査を計13件行った。団地ごとの内訳は、試掘調査が城北団地1件、樽味団地2件、重信団地3件、立会調査が城北団地3

件、樽味団地3件、持田団地1件である。

また、愛媛大学の敷地は松山市および愛媛県内の各地に所在する。こうした大学敷地における埋蔵文化財の分布状況を把握するため、構内遺跡範囲確認調査を1992年度から実施することになった。今年度には、山越団地と重信団地で各1件の確認調査を行った。

99201 農学部屋外ガス本管改修工事に伴う調査

調査地点: 松山市樽味3丁目5番7号

樽味団地(図24)

調査面積: 6 m²

調査期間: 1992年5月26日

調査の種別: 立会調査

調査担当: 田崎博之

調査補助: 宮崎直栄

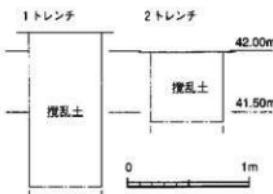


図23 99201-1・2トレンチ土層柱状図(縮尺 1/40)

農学部本館屋外の埋設管からのガス漏れが発見され、急遽、ガス管の改修工事が行われることとなり、立会調査を実施した。調査地点は、樽味団地の北西部の2ヶ所で、東側の工事地点を1地点(トレンチ)、西側を2地点(トレンチ)

として調査にあたった(図5)。しかし、両地点ともに、農学部本館の建設時にすでに擾乱されている部分にあたり、遺構・遺物ともに出土しなかった(図23)。

99202 城北地区東側団地改修工事に伴う調査

調査地点: 松山市文京町3番

城北団地(図25)

調査面積: 3 m²

調査期間: 1992年7月30日

調査の種別: 試掘調査

調査担当: 田崎博之

調査補助: 宮崎直栄

図版篇図幅: 図幅19(J5-16)

城北団地東北角の団地を改修する工事計画が施設部から埋蔵文化財調査室へ提出された。協議の結果、工事に伴う掘削を埋蔵文化財に影響

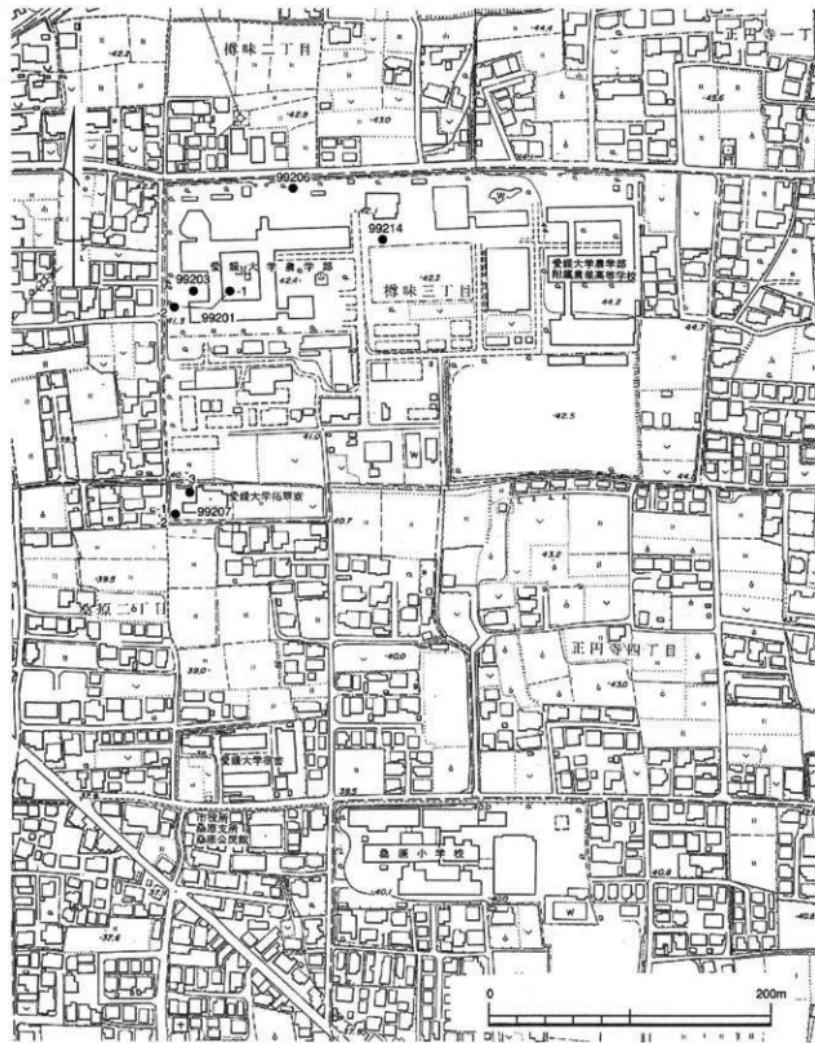


図24 1992年度 櫛味・北吉井団地調査地点（縮尺 1/3,500）

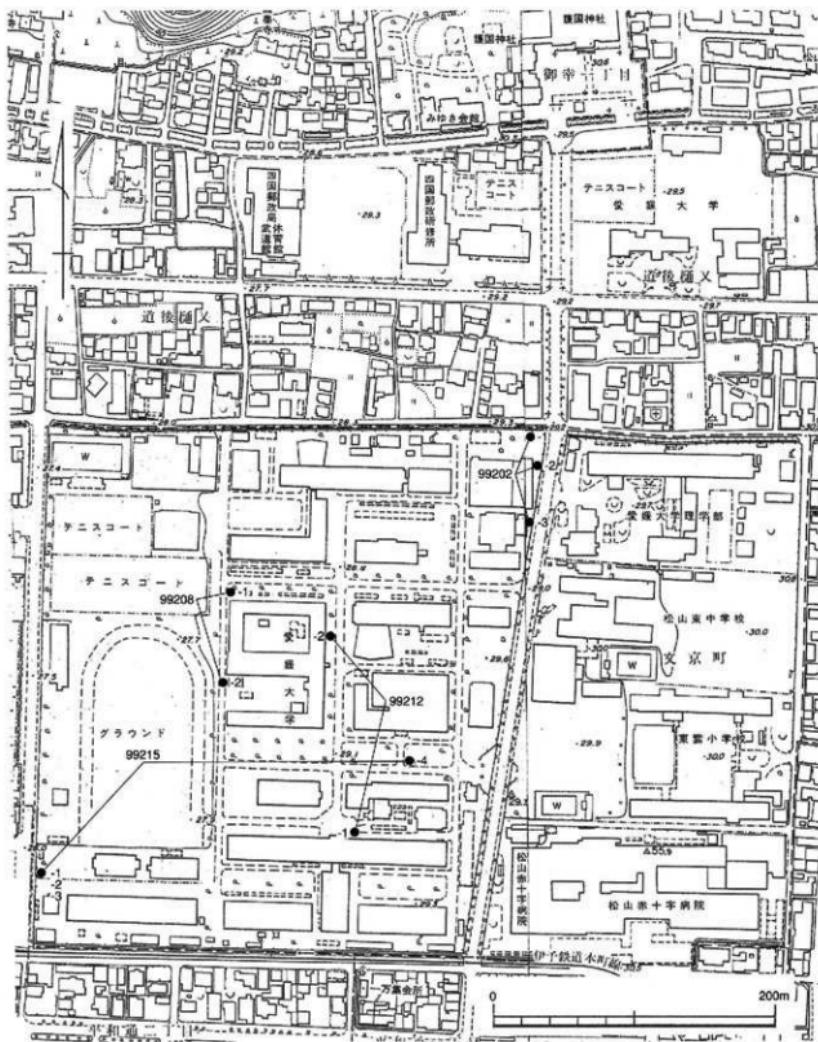


図25 1992年度 城北団地調査地点（縮尺 1/3,500）

がない深度にとどめることとなり、工事に先立つて試掘調査を実施した。

囲障が改修される範囲の南北端2ヶ所と中央部分に調査トレンチを設けた。各トレンチとともに、表土であるI層の造成土を掘り下げるとき、褐色シルト層のII-1層があらわされた。下部には鉄・マンガンが薄く沈着している。II-1層は造成以前の旧水田層である。II-1層下には、淡茶色の砂礫層がみられ、1・2トレンチではさらに下層に灰褐色の砂質土が堆積している。砂礫層をII-2層、砂質土をII-3層としたが、ともに薄いレンズ状の細砂ブロックが互層状態で観察できる。流水による堆積物と考えられる。さらに下層の現地表下45~50cm以下には、暗茶褐色砂質シルトが堆積している。これまで城北団地で調査されてきた弥生時代~古墳時代の遺物を包含する暗褐色~黒褐色土層とは土色・土質ともに異なっている。比較的新しい時期に堆積した土層と考え、II-4層とした(図26)。

工事に伴う掘削深度である現地表下70cmまで掘り下がったが、II-4層が続く。そのために、工事によって埋蔵文化財が破壊されるなど影響は

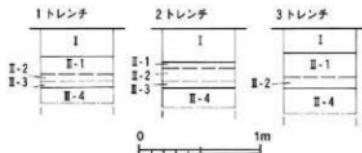


図.26 99202-1~3トレンチ土層柱状図
(縮尺 1/40)



写真.14 99202-2トレンチ土層断面
ないものと判断し、施設部へ慎重工事を申し入れた。

99203 附属図書館農学部分館新営工事に伴う調査

調査地点：松山市樽味3丁目5番7号

樽味団地(図24)

調査面積：1 m²

調査期間：1992年8月26日

調査の種別：試掘調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄

1992年7月に、愛媛大学附属図書館農学部分館の増築計画が1993年度に実施計画されることとなり埋蔵文化財調査室に提示された。農学部

分館がある樽味団地では、1987年に愛媛大学大院連合農学研究科の校舎新営工事に伴う樽味遺跡1次調査(調査番号：98704)、1992年に農学部研究実験棟(農学部3号館)新営工事に伴う2次調査(調査番号：99101)などが行われ、団地周辺でも松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センターにより1987年から試掘調査と本格調査が続き、弥生時代~古墳時代、中世の集落遺跡が断続的に當まれていることが確認され、遺跡の周知化が進んでいる。こうした既往の調査成果から、今回、提示された計画予定地にも何



写真.15 99203トレントン土層断面

らかの遺構が分布する可能性が強い。そこで、事前の試掘調査を実施することとなった。

調査では、計画予定地の南端部分に、試掘トレンチを設定した(図.5)。その結果、表土にあたるⅠ層の造成土、造成以前の旧水田層であるⅡ層(Ⅱ-1層：暗灰黄色シルトの耕作土部分、

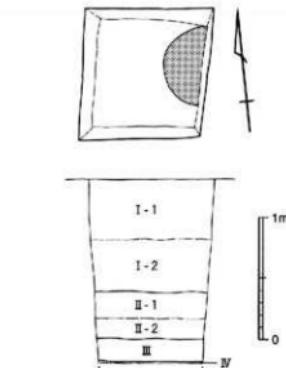


図.27 99203調査区土層断面図 (縮尺 1/40)

Ⅱ-2層：鉄・マンガンが沈着する床土部分)を掘り下げるごと、地表下1.35~1.5mで遺物を含む黒褐色粘質シルト層のⅢ層があらわれた。Ⅲ層下面で柱穴の一部を確認した(図.27、写真.15)。予定地全面には遺構が営まれていることが考えられる。

99204 医学部附属病院病歴室新設工事に伴う調査（その1）

調査地点：温泉都重信町大字志津川

重信団地(図.29)

調査面積：3 m²

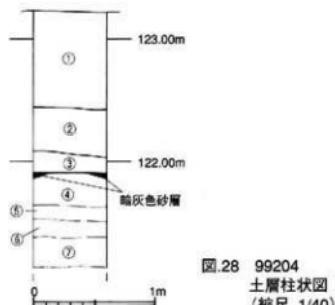
調査期間：1992年8月26日

調査の種別：試掘調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄

の有無さえ把握できておらず、試掘調査を実施することとした。



施設部から埋蔵文化財調査室に医学部附属病院が所在する重信団地に病歴室を新設する計画が提示された。建設予定地は、重信団地北半部の附属病院外来病棟の北西側である。これまで、重信団地では発掘調査が行われておらず、遺跡

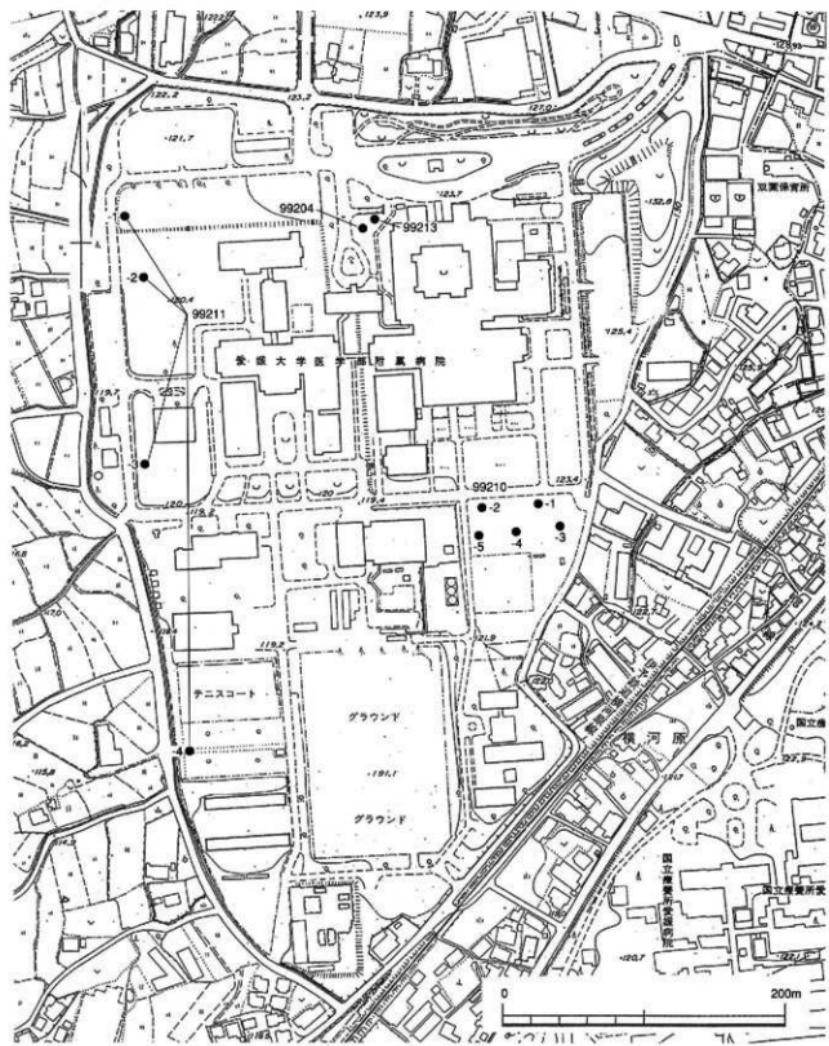


図.29 1992年度 重信団地調査地点 (縮尺 1/3,500)

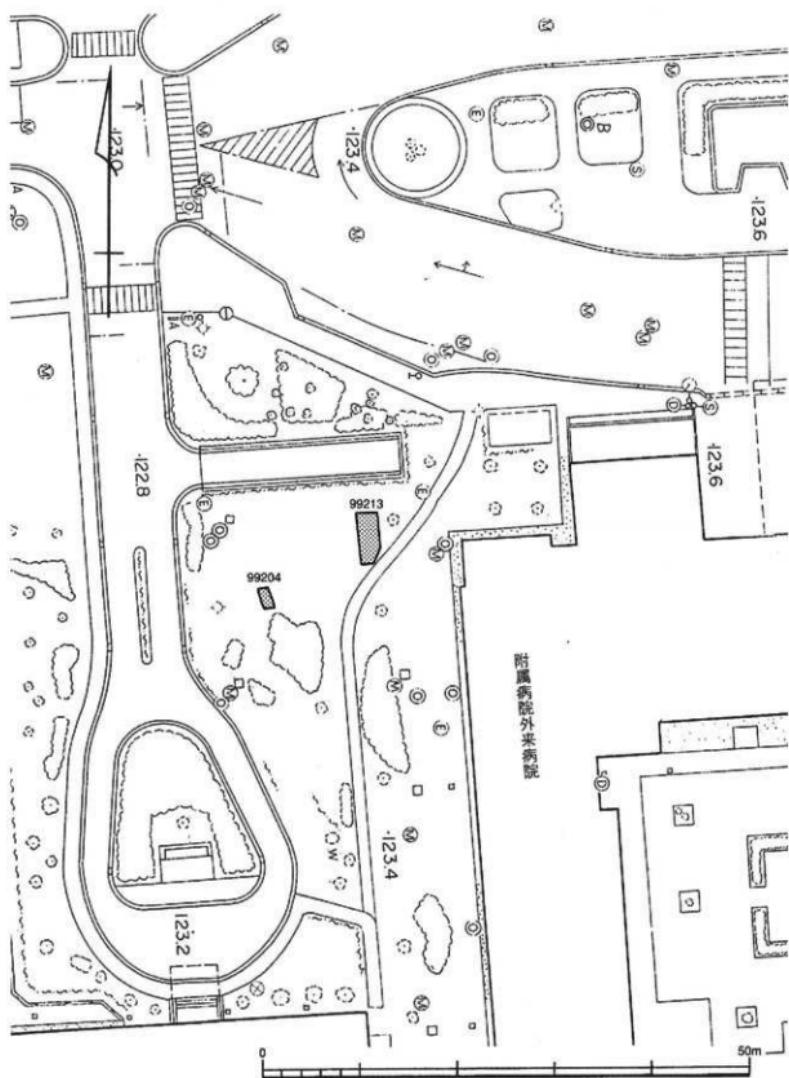


図.30 99204・99213 調査地点位置図（縮尺 1/500）

予定地のほぼ中央に長さ2m、幅1.5mのトレーナーを設定した(図30)。調査の結果、上位から、①層の真砂土層、②層の小石混じりの暗青灰色の粘質シルト層、③層の暗黄褐色粘質土層、④層の小石混じりの茶褐色粘質土層、⑤層の粒の崩れた茶褐色砂礫層、⑥層の灰褐色砂層、⑦層の花崗岩の円錐からなる疊層を確認した。その中で、④層は、小石が混じるが、比較的安定した堆積状態を示し、③層との境界には部分的に

暗灰色砂層が挟まっている。暗灰色砂層は、細砂の薄いレンズ状ブロックからなっており、溝あるいは自然流路であることが考えられた(図28)。しかし、出土遺物もなく、調査面積も狭いため、遺跡の有無は確定できない。

そこで、調査終了後、施設部と協議を行った結果、本年度内に、再度、調査を実施することとした。

99205 1992年度構内遺跡確認調査(その1)

調査地點：松山市山越4丁目11番10号

山越団地(図31)

調査面積：57m²

調査期間：1992年8月28日

調査の種別：確認調査

調査担当：山崎博之

調査補助：宮崎直栄・佐伯美幸

図版篇図幅：図幅02(I4-22)

図幅05(J4-2)

山越団地には、合宿研修施設や球技場・馬場などの課外活動施設が所在する。城北団地の内開発に伴って運動場が手狭になるため、教養教育の体育授業が山越団地で行われることになり、将来的には、体育施設などの建設を考えられる。しかし、これまで山越団地での調査はなく、埋蔵文化財の有無さえ把握できていない。そこで、1992年度から予算化された大学構内における遺跡範囲の確認調査を、まず山越団地を対象として実施することとした。

山越団地は、東側の丘陵部周縁の段丘面から沖積低地への境界部分に位置する。調査が可能な空き地を選び、東から西に向って5ヶ所のトレーナーを設定した。各トレーナーの調査結果は以

下の通りである(図32・33)。

[1トレーナー]

山越団地の入り口部分に設定した。表上部分は客土の真砂土層と、客土・整地を行う以前の水田層からなる。表土部分を①層とし、前者の真砂土部分を①-1層、下層の水田層を①-2層とした。

①層下には、上位から②層とした暗茶褐色の粘質シルト層、③層とした黄灰褐色砂層、④層のやや灰色味を帯びた暗茶褐色ないし灰黃褐色のシルト層、⑤層とした砂層および砂礫層が堆积している。

④層は、上部の暗茶褐色粘質シルトから下部は灰黃褐色砂質シルトへ漸移的に変化する。上部を④-1層、下部を④-2層とした。④-2層は部分的にしかみられない。最下部の⑥層は、黄灰色の細砂層である⑤-1層、直径5~7mmの礫が混じる灰褐色の砂礫層である⑤-2層と⑤-3層、茶褐色の砂礫層の⑤-3層から構成される。

②~④層から遺物が出土している。②層の遺物は、近代の砥部焼きなどの陶磁器片をはじめとする遺物である。③・④層からは、弥生土器ないしは土師器の細片が出土したが、時期を決定できるほどの特徴をもつものはない。

[2 トレンチ]

団地敷地の南東角に設定した。造成土である真砂土部分を①層としたが、以下の堆積物は1トレンチとは異なっている。1トレンチから通しの⑥～⑩層の層位番号を付した。⑥層は、上位から黒灰色のシルト層、直径2～3mmの小礫が混じる黄色味を帯びた暗灰褐色の粘質土層、黄褐色の粘質土層、砂礫を非常に多く含む暗灰褐色の砂質シルト層から構成される。上位から、それぞれ⑥-1層～⑥-4層とした。⑥層からは細片化しているが、弥生土器が出土している。

⑥層下には、黒灰色の粘質土層である⑦層が堆積している。⑦層下部から下位の⑧層上部には、マンガンの沈着が著しい。また、⑦層の上面はほぼ水平であるが、⑥-4層との境界部分は極端な不整合面をなしている(写真16)。トレンチの西端では、高さ5cmほどの⑦層の盛り上がりと、溝状の窪みを確認できた。以上から、

⑦層は水田層であり、確認できた盛り上がりと窪みは畦畔および水路であると考えられる。⑥層からは弥生土器が出土しており、弥生時代に遡る可能性が強い。

⑥層は暗灰青色の粘質シルト層、⑨層は暗灰色の砂礫層である。⑩層から湧水があり、調査区の壁が一部倒壊し始めたので、調査を中止した。遺物は出土していない。

[3 トレンチ]

団地北辺の中央からやや東寄りに設定した。造成土の真砂土部分である①層の下位には、黄灰褐色の砂質シルト層、1トレンチで確認した茶褐色砂質シルト層である②層がみられる。黄灰褐色の砂質シルト層は、層序的には②層の上位にあるので、①-3層とした。

②層以下は、茶褐色の砂質シルト層、黄褐色シルト層がみられる。土質は、城北団地でみられる黄褐色のシルト～砂質シルト(城北団地の

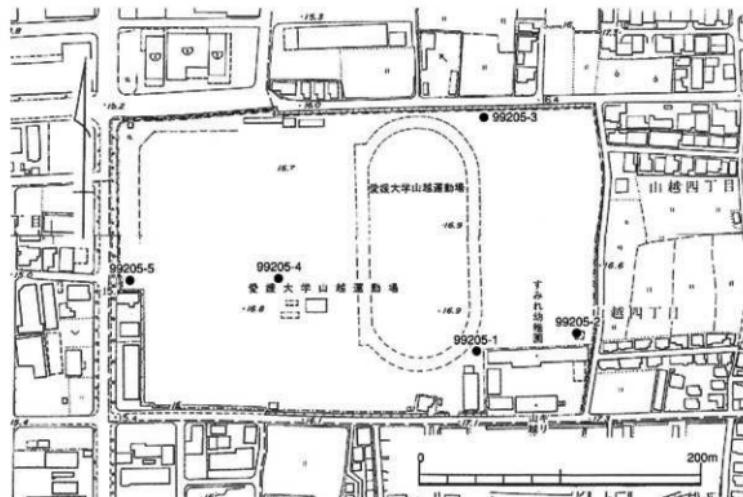


図31 1992年度 山越団地調査地点 (縮尺 1/3,500)

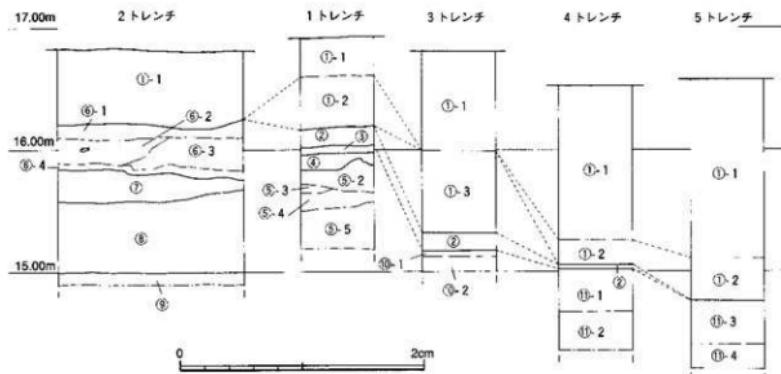


図32 99205-1~5トレンチ土層柱状図（縮尺 1/40）

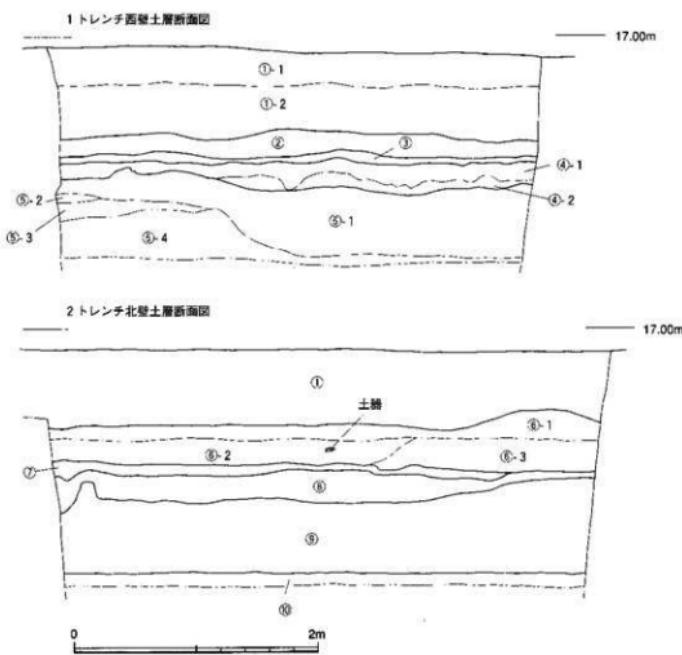


図33 99205-1・2トレンチ土層断面（縮尺 1/40）



写真.16 99205-2 トレンチ土層断面

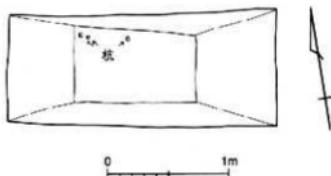


図.34 99205-5 トレンチ出土の杭 (縮尺 1/40)



写真.17 99205-5 トレンチ検出の杭

基本層序IV層)に近似する。上位の砂質シルト層を⑩-1層、下位を⑩-2層とした。

[4 トレンチ]

団地南辺の中央からやや西寄りに設定した。1トレンチの①-1層と①-2層に対応する表上部分を掘り下げると、層厚5cmほどの茶褐色砂質シルト層があらわれた。1・3トレンチの②層と対応する。②層以下は砂礫層である。上部は暗青灰色の砂層、下部は暗灰色の礫層である上部の砂層を⑪-1層、下部の礫層を⑪-2層とした。遺物は出土しなかった。

[5 トレンチ]

団地敷地の西端に設定した。4トレンチと同様に、厚い表上部分である①層以下には、暗褐色の砂礫と暗茶褐色細砂が互層で堆積しており、さらに下層には暗灰色の砂礫層がみられる。層序的には、4トレンチの⑪層と対応するものと考え、上部の砂層を⑪-3層、下部の砂礫層を⑪-4層とした。ともに自然流路を埋める堆積物である。

⑪-4層からは古墳時代後期、6世紀代の須恵器が点々と出土している。自然流路の時期を当該期に求めることができよう。また、⑪-4層の上面で杭を確認した。水利施設の一部である可能性が強い(図.34、写真.17)。

今回の調査では、調査範囲が狭く部分的であったため、明確な構造は確認できなかった。しかし、2トレンチでは弥生時代に遡る可能性をもつ水田層(⑦層)、5トレンチでは6世紀代の自然流路と水利施設の一部と考えられる杭を確認できた。山越団地の敷地全面には、かなり厚い造成・客土が行われている。しかし、今回の調査成果から、今後、掘削深度が深い工事に対して調査を実施する必要がある。

99206 農学部拓翠寮他自転車置場新設工事に伴う調査（その1）

調査地点：松山市樽味3丁目5番7号

樽味団地(図.24)

調査面積：3 m²

調査期間：1992年9月21日

調査の種別：立会調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄・佐伯美幸

工事地点は、樽味団地の東北部、正門の東側にあたり、樽味遺跡1次調査(調査番号：98704)のⅢ区に隣接している。工事予定地付近は、1次調査の結果から、削平が著しく遺物包含層(基本層序Ⅲ層)は失われているものと考えられる。しかし、2次調査(調査番号：99101)地点から直線的にのびる14世紀代の大溝(1号溝)の延長線上の流路であるSR-01の延長部分が予想された。そこで、施設部と協議を行い、掘削深度が深くとらざるをえない自転車置場の支柱部分のみを立会調査することとした。支柱部分は4ヶ所で、東から1～4トレンチとした(図.5)。

表土の造成土部分を掘り下げるに、東側の1・2トレンチでは、現地表下45～55cmで黄褐色砂質シルト層があらわされた。この土層は、1次調査のSR-01、2次調査の1号溝の上面を覆う土層と対応する。工事の中断を指示し、掘削面までを精査したが、遺物は出土しなかった(図.35、写真.18)。

西側の3・4トレンチでは、現地表下30cmで花崗岩の風化砂礫が多く混じる茶褐色粘質シルト層がみられる。基本層序のⅣ層である。4トレンチでは、暗茶褐色シルトを埋土にもつ小穴をⅣ層上面で確認した(図.35、写真.19・20)。



写真.18 99206-1 トレンチ土層断面



写真.19 99206-3 トレンチ土層断面



写真.20 99206-4 トレンチ土層断面

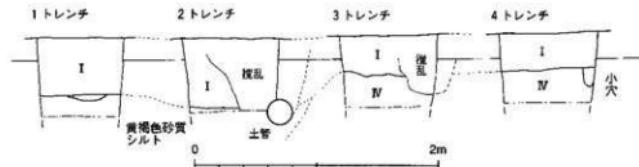


図35 99206-1~4トレンチ土層断面図（縮尺 1/40）

以上から、2次調査地点からのびる1号溝（1次調査のSR-01）は、今回の調査地点で大きく西へ張り出すことが確認できた。しかし、溝

が西に折れるのか、もしくは水口などの水利施設があるのかは、調査範囲が狭いために確定できない。

99207 農学部拓翠寮他自転車置場新設工事に伴う調査（その2）

調査地点：松山市樽味3丁目5番7号

樽味団地（図24）

調査面積：2 m²

調査期間：1992年9月21日

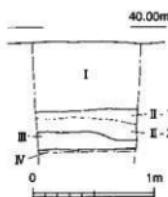
調査の種別：立会調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄・佐伯美幸

調査地点は、樽味団地の南西角にある学生寮の拓翠寮内に位置する（図5）。周辺の水田面と比べて、60cmほどの盛り土が行われていると考えられ、工事による掘削が現地表下60cmまでであり、埋蔵文化財に影響はないものと判断した。しかし、周辺では調査が実施されておらず、今後の工事に対する基礎データを得るために、立会調査を実施することとした。

3ヶ所の自転車置場の支柱部分は、いずれも

図36 99207-1トレンチ
土層断面
(縮尺 1/40)

現地表下60cmまで客土層（I層）と造成以前の旧水田層（II層）であった。1地点（トレンチ）では、深掘りを行い、現地表下70cmで土器の細片をまばらに包含する暗茶褐色粘質土を確認した。樽味遺跡全体の基本層序のIII層であり、炭化物の細片を多く含む。III層を精査しながら掘り下げ、現地表下80~85cmで、基本層序のIV層にあたる黄褐色粘質シルトを確認した。IV層上面で遺構検出に努めたが、調査範囲が狭いこともあり、遺構は出土していない（図36）。

99208 城北団地外灯設備改修工事に伴う調査

調査地点：松山市文京町3番地

城北団地（図25）

調査面積：2 m²

調査期間：1993年10月26日

調査の種別：立会調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄

図版篇図幅：図幅18（J4-20）

城北団地西半部、教養部本館西側の2ヶ所に外灯が設置されることとなり、立会調査を実施した。調査地点北側を1トレンチ、南側を2トレンチとした。

1トレンチは、新旧の配管によって著しく擾乱されていた（写真21）。2トレンチでは、現地表下55cmで灰黄褐色の砂質土層があらわれた。近代の陶磁器片が出土した。類似した土質・土色の土層は、調査番号99305地点、99405地点、そして1996年度に実施した文京遺跡15次調査（確認調査、調査番号：99602）の7トレンチでみられ、城北団地北部に東西にのびる谷状地形の窪地上面に堆積する土層があることを確認している。城北団地全体にわたる基本層序のⅡ層下部に相当する（図37、写真22）。

Ⅱ層下では、砂層と砂礫層が互層状態で堆積している。自然流路の堆積物と考えられ、上面から弥生土器もしくは土師器と考えられる土器の細片がごく少量であるが出土した。同様な流路は、文京遺跡15次調査の5トレンチでも確認されている。



写真21 99208-1トレンチ



写真22 99208-2トレンチ土層断面



図37 99208-2トレンチ土層柱状図 (縮尺 1/40)

99209 教育学部附属小学校給水設備工事に伴う調査

調査地点：松山市持田町1丁目5番22号

持田団地（図38）

調査面積：11m²

調査期間：1993年10月26日

調査の種別：立会調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄

図版篇図幅：図幅32（K5-2）

図幅38（K5-7）

調査地点は、持田団地の教育学部附属小学校本館の北東に位置する。給水管が埋設される現地表下45cmまで工事に立ち会って調査したが、造成土・客土層が続き、遺構・遺物ともに出土しなかった。

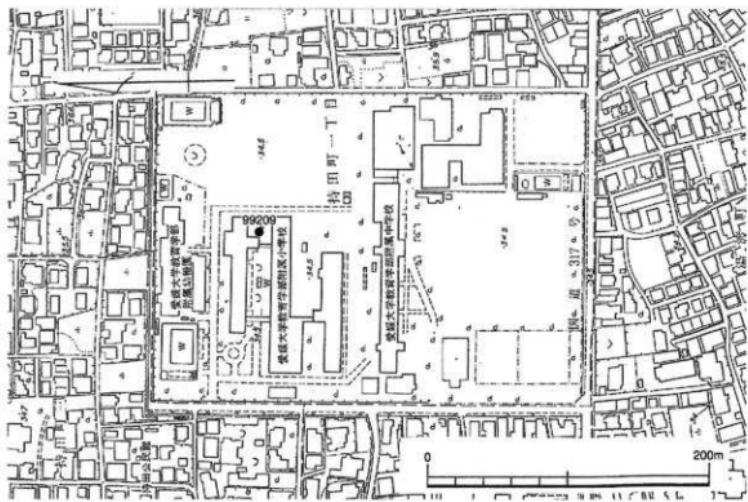


図38 1992年度 持田団地調査地点（縮尺 1/3,500）

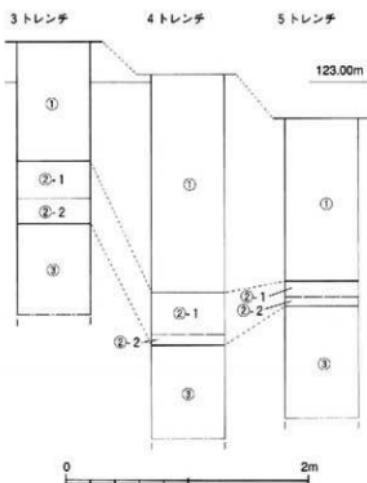


図39 99210-3~5 トレンチ土層柱状図（縮尺 1/40）

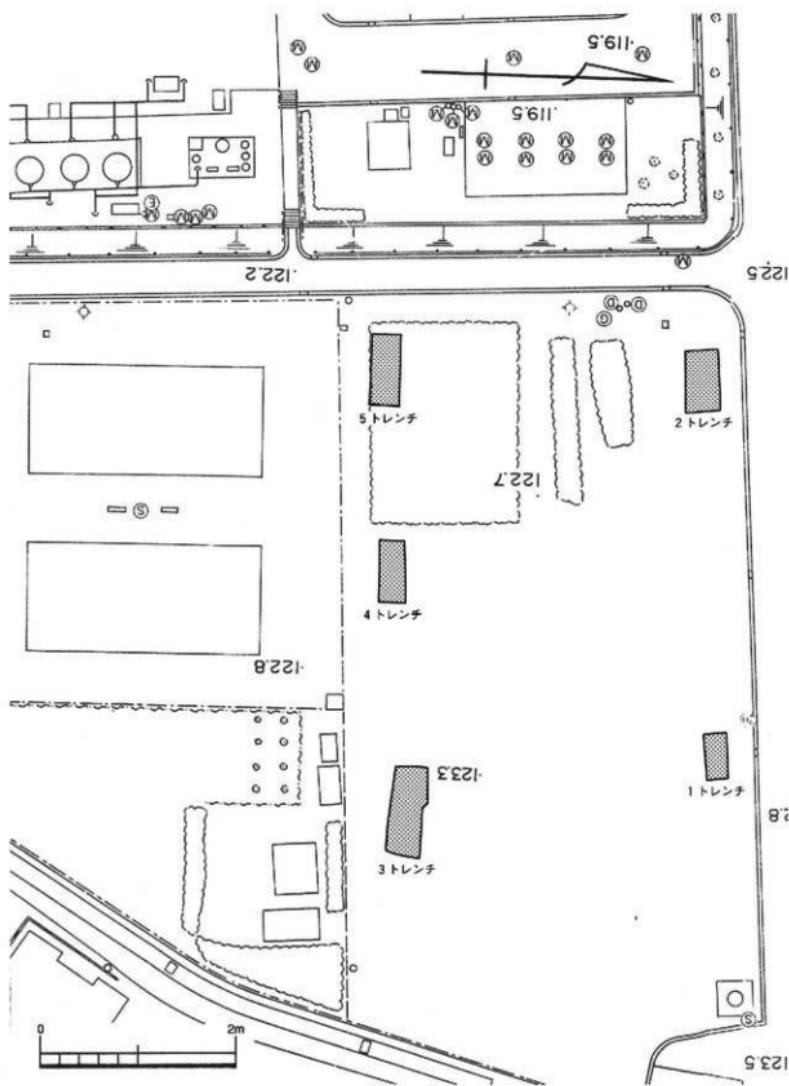


図.40 99210調査地点位置図 (縮尺 1/500)

99210 医学部附属病院駐車場取設工事に伴う調査

調査地点：温泉郡重信町大字志津川

重信団地(図29)

調査面積：40m²

調査期間：1993年10月27日

調査の種別：試掘調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄

重信団地東半部分に設置されている医学部附属病院の駐車場が整備されることとなった。重信団地における既往の調査は、医学部附属病院病歴室新設工事に伴う試掘調査(調査番号：99204)のみであり、埋蔵文化財分布の有無さえ把握できていない。そこで、工事に先立って試掘調査を実施することになった。

駐車場敷地の北辺に2ヶ所、南辺に3ヶ所のトレンチを設定した(図40)。ただし、1・2トレンチでは、配管が埋設されていることから調査を途中で中止せざるを得なかった。

3～5トレンチでは、薄い造成土である表層の①層下に、暗灰色シルト層、黄茶褐色粘質土層がみられる。遺物は出土しなかったが、造成以前の旧水田層と考えられる。②層と一括し、上部の暗灰色シルト層を②-1層、下部の黄茶褐色粘質土層を②-2層とした。②層の下位には、厚い暗灰色の砂礫層が堆積している。拳大的花崗岩の円礫層や砂層が互層でみられる。重信団地が位置する扇状地を構成する礫層である。③層とした(図39、写真23)。

99211 1992年度構内遺跡確認調査(その2)

調査地点：温泉郡重信町大字志津川

重信団地(図29)

調査面積：54.6m²

調査期間：1993年1月20日～1993年1月21日

調査の種別：確認調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄・高原美保

重信団地では、来年度以降、附属病院病歴室の新設工事や、医学部看護学科の校舎建設が計画されている。ところが、団地敷地内の調査は、1992年度に実施された試掘調査(調査番号：99204)と確認調査(調査番号：99210)の2件のみである。調査範囲も狭いために、遺構や遺物は出土していない。99210地点では、造成以前の

旧水田層の直下には扇状地の礫層があらわれる。しかし、99204地点では、扇状地を構成する礫層群の上面に比較的安定した環境を物語る粘質土(99204調査地点の④層)がみられた。その上面では砂層が確認され、水路あるいは自然流路などの遺構であることが考えられる。こうした比較的安定した土層を鍵層として、その広がりを把握することで、一定程度の埋蔵文化財の分布状況を把握できると考えた。そこで、1992年度の大学敷地内における遺跡範囲確認調査として、すでに実施している持山団地に加えて、重信団地の調査を行うこととした。

重信団地の西辺に沿って4ヶ所の調査トレンチを設定し、北から1～4トレンチとした。各トレンチを通じて、土層は、上位から表土の造

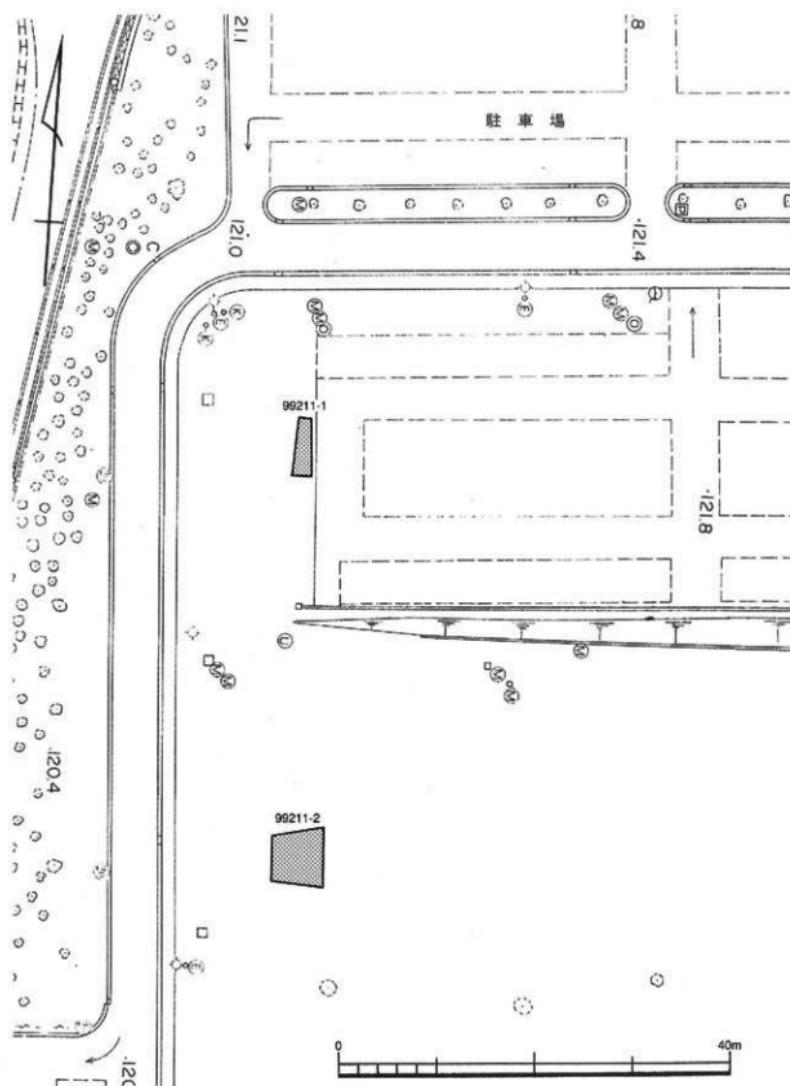


図.41 99211-1・2トレンチ位置図（縮尺 1/500）

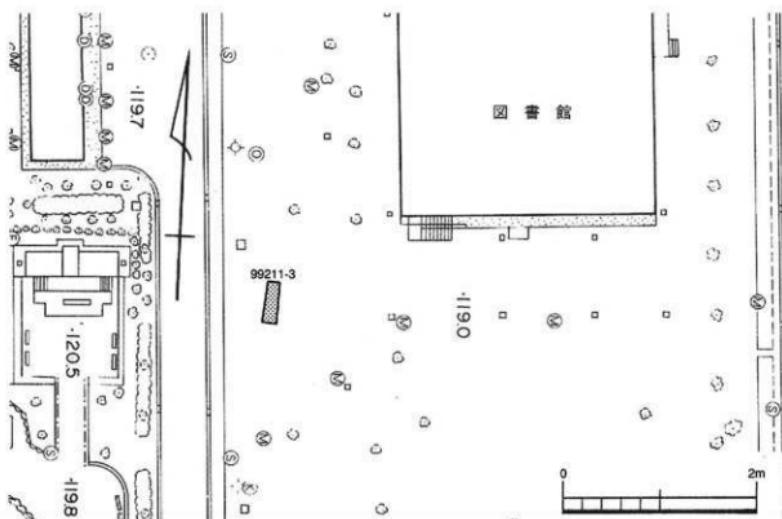


図.42 99211-3 トレンチ位置図 (縮尺 1/500)

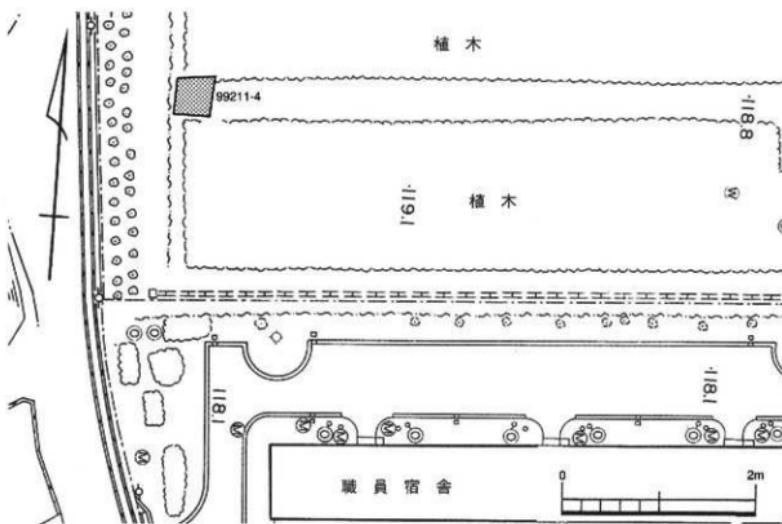


図.43 99211-4 トレンチ位置図 (縮尺 1/500)

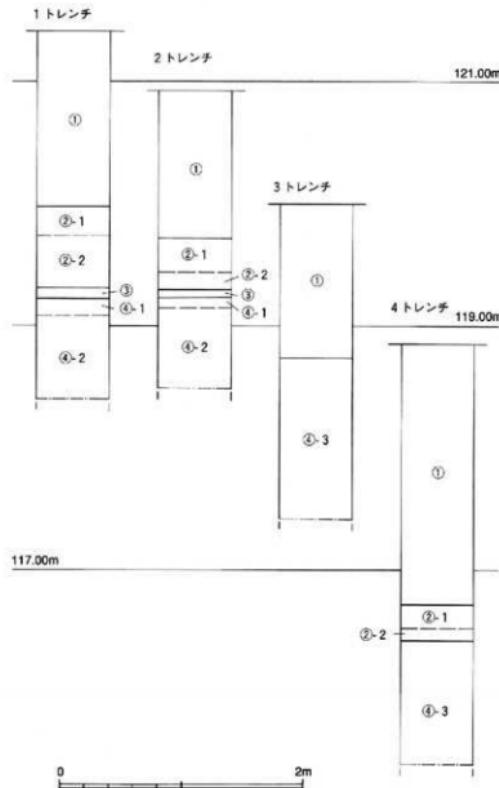


図.44 99211-1~4トレンチ土層柱状図(縮尺 1/40)

成・客土部分の①層、造成以前の旧水田層である②層、比較的安定した環境を示す粘質土の③層、崩状地を構成する礫層の④層に大別できる。以下、この基本層位に沿って、各トレンチでの調査結果を報告する。



写真.24 99211-2トレンチ土層断面



写真.25 99211-4トレンチ土層断面

【1トレンチ】

圃地敷地の北西角に位置する(図.41)。表土部分の①層下には、造成以前の旧水田層の耕作土部分であるオリーブ黒色の粘質上層(②-1層)と、床土部分である礫がほとんど混じらないマンガンが

沈着したオリーブ褐色粘質土層(②-2層)がみられる。②層の下層、現地表下2.2mで、オリーブ褐色の粘質土層の上面を確認した。下層は花崗岩の円礫混じりの土層に変化する。さらに下層には、人頭大～拳大の円礫が多く含む礫層に変化する。しかし、礫がぎっしり詰まった状態ではなく、黒褐色の粘質土が多くまじる。上位のオリーブ褐色の粘質土層を③層、下位の円礫混じりの上層を④-1層、礫層を④-2層とする(図.44)。

[2トレンチ]

1トレンチの南40mほどの地点に設定した(図.41)。表土層の①層、旧水田層の②層を掘り下げるとき、花崗岩の円礫が少量混じるオリーブ褐色の粘質シルト層の③層があらわされた。トレンチを拡張し、遺構の検出を試みた。しかし、遺物・遺構ともに出土しなかった。③層下には、1トレンチの④-1層と比べて黒味を帯びた砂質シルト層、黒褐色の砂礫層が堆積している(図.44、写真.24)。

[3トレンチ]

団地西辺のほぼ中央部分、図書館の北西側に設定した(図.42)。造成・客土部分である①層を掘り下げるとき、拳大～人頭大の花崗岩の円礫からなる礫層があらわされた。1・2トレンチの④-2層と比べて、礫がぎっしり詰まっている。④-3層とした。①層の下面から湧水があり、トレンチの壁が崩れやすくなっているため深堀を中止した(図.44)。

[4トレンチ]

団地敷地の南西角にある職員宿舎の北側に設定した(図.43)。前述の3トレンチでは造成以前の旧水田層である②層はみられなかったが、4トレンチでは現地表下2.1mで②層を確認した。その下層には、1・2トレンチで確認した③層はみられず、人頭大～拳大の花崗岩の円礫がぎっしり詰まつた暗オリーブ褐色の礫層がみられる。3トレンチの④-3層と対応する礫層である(図.44、写真.25)。

今回の調査では、1・2トレンチで標高119.1m前後でオリーブ褐色の粘質土層を検出した。前述したように、比較的安定環境を示す土層である。しかし、今回の調査では、遺構は検出できなかった。3・4トレンチでは、造成以前の旧水田層の直下には氾濫性の礫層が堆積している。これまでの調査では、団地北半部の附属病院外来病棟の北側に位置する99204調査地点で、今回の調査で確認できた崩壊地性の礫層の上面にみられる比較的安定した粘質土層の広がりを確認している。これに対して、団地中央の東寄りに位置する99210調査地点では、この土層はみられず、今回検査の3・4トレンチと同様な堆積がみられる。オリーブ褐色の粘質土層の広がりを遺跡の可能性がある範囲とすれば、附属病院病棟より以南には、埋蔵文化財は分布していないものと考えられる。

99212 城北団地情報通信設備工事に伴う調査

調査地点：松山市文京町3番

城北団地(図.25)

調査面積：11.8m²

調査期間：1993年3月8日～1993年3月9日

調査の種別：立会調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄・高原美保

図版篇図幅：図幅18(J4-20)

図幅24(J4-25)

城北団地における情報通信設備工事に伴って、既設の共同溝から工学部本館と教養部本館へ通信ケーブルを取設することとなった。施設部と協議を行い、工事に伴う掘削深度を埋蔵文化財に影響がないように浅く設定するように申し入れ、掘削深度が深い部分についてのみ立会調査を実施することとなった。

今回の調査地点は、工学部本館北側と教養部本館東側の2ヶ所である。前者の地点を1トレンチ、後者を2トレンチとした。調査結果は以下の通りである。

[1トレンチ]

城北団地の南半部、工学部本館北側に位置する。既設の配管によって、調査範囲の大部分が擾乱されていた。表土である造成土部分の1層を掘り下げるに、トレンチの中央部分で、灰黄褐色砂質シルト層があらわされた。下部にはマンガン・鉄が沈着している。城北団地全体の基本層序のII層にあたる造成以前の旧水田層である。遺物は出土していない。

現地表下60~75cmで、黒褐色砂質シルト層が



写真.26 99212-1トレンチ（北から）

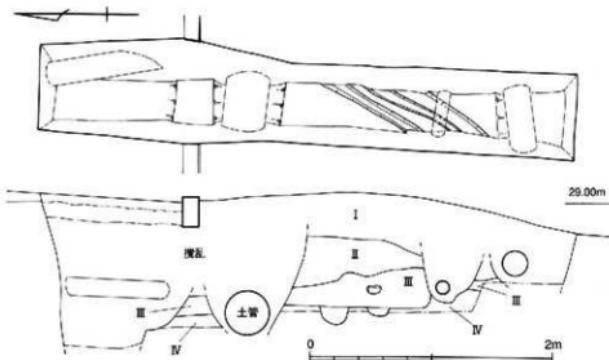


図.45 99212-1トレンチ（縮尺 1/40）

あらわれた。親指大の炭化物を多く含み、弥生土器の細片が含まれている。基本層序のⅢ層に対応する。工事の中断を指示し、人力で精査することとした。上・中・下層に人為的に分層して、現地表下90~95cmまで掘り下げた。上～中層からは弥生時代中期中頃～後半の甕・高壺や凹石などが出土した。大形の破片が目立つ。下層からは磨滅が著しいものの、縄文土器と考えられる破片が出土した。Ⅲ層下は、にぶい黄褐色シルト層で、基本層序のⅣ層である。調査区南端で、にぶい黄褐色シルト層の立ち上がり部分を土層断面で確認し、弧状にのびる幅20cm前後の溝を検出した。円形の堅穴式住居跡の一部と考えられる(図.45、写真.26)。

[2 トレンチ]

教養部本館の東側に位置する。2トレンチも搅乱が著しい。表土層のI層を掘り下げると、現地表下30cmで、黄灰色砂質シルト層があらわれた。近世以降の磁器染め付け碗が出土した。近世以降の旧水田層で、基本層序のII層にあたる。

II層下の現地表下55cm以下は、黄褐色系の砂礫層が続き、98cmでにぶい黄褐色の砂質シルトを確認した。にぶい黄褐色砂質シルト層の上面で、溝状にのびるオリーブ黒色の砂礫層(SX-01)・土壤(SK-02)と小穴(SP-03)を検出した。SP-03の上面から縄文時代晩期末(凸帶土器期)の甕口縁部破片が1点出土した。2トレンチでは工事による掘削面が現地表下1mに設定されているので、西端部のみで造構上面を確



写真.27 99212-2トレンチ (北東から)

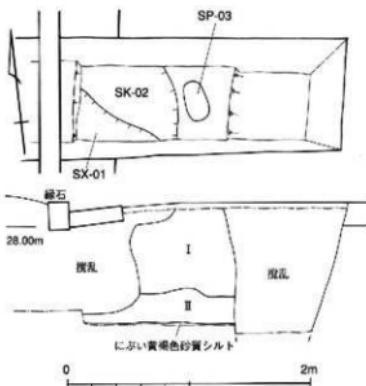


図.46 99212-2トレンチ (縮尺 1/40)

認・記録をとて調査を終了した(図.46、写真.27)。

99213 医学部附属病院病歴室新設工事に伴う調査 (その2)

調査地点：温泉郡重信町大字志津川

重信団地(図.29)

調査面積：6.8m²

調査期間：1993年3月22日

調査の種別：試掘調査

調査担当：田崎博之

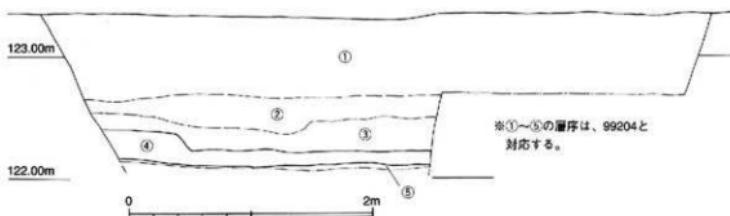


図.47 99213 土層断面図 (縮尺 1/40)

調査補助：宮崎直栄・高原美保

年度当初に実施した医学部附属病院病歴室新設工事に伴う試掘調査(調査番号：99204)の2度目の調査である。今回は、前回設定したトレーンチの北東側に近接して、比較的広く調査範囲を設けて、遺構の有無を確認することに努めた(図.30)。しかし、遺構が存在する可能性をもつ茶褐色粘質上層(調査番号：99204の④層)の上面では、遺構は検出されず、遺物も出土しなかった(図.47、写真28)。

99214 樽味団地自転車置場取設その他工事に伴う調査

調査地点：松山市樽味3丁目5番7号

樽味団地(図.24)

調査面積：3.3m²

調査期間：1993年3月23日

調査の種別：立会調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄・高原美保

樽味団地北半部のテニスコート北側に接して自転車置場が取設されることとなった。工事予定地は、樽味道跡1次調査(調査番号：98704)地点が隣接している(図.5)。調査結果では、

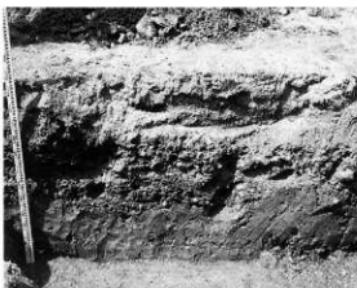


写真.28 99213 調査トレーンチ土層断面

地表下40~50cmに遺物を包含する暗褐色土層が確認されている。施設部と協議を行い、工事に伴う掘削を遺物包含層の上面にとどめることになり、立会調査を実施することとした。

表上の造成上であるⅠ層を掘り下げると、1次調査地点で調査された遺物を包含する暗褐色土層のⅢ層はみられず、Ⅳ層の黄褐色シルト層があらわれた。Ⅳ層の上面の標高44m前後で1次調査で調査された溝の延長部分や小穴を確認した。小穴の埋土は、ほとんどが樽味道跡2次調査の14~15世紀の掘立柱建物の柱穴と近似した土質・土色で、やや灰色味がかった黒褐色粘



写真.29 99214 調査区全景（北西から）



写真.30 99214 調査区（北東から）

質シルトである。1次調査地点でも、やはり14～15世紀のL字形に折れる溝が調査されており、当該期の掘立柱建物の柱となるものが含まれているものと考えられる。しかし、調査範囲が狭いために、建物を復元することはできなかった(図.48、写真.30)。

工事に伴う掘削が遺構検出面以下におよばないことから、調査は遺構の検出だけにとどめ、遺構の調査は行わなかった。

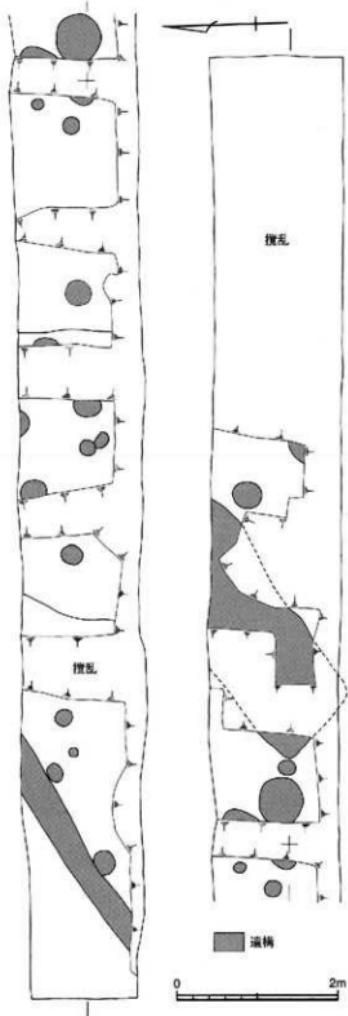


図.48 99214 遺構検出状況 (縮尺 1/60)

99215 城北団地交通規制遮断機取設工事に伴う調査

調査地点：松山市文京町3番

城北団地(図25)

調査面積：2 m²

調査期間：1993年3月24日

調査の種別：立会調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄・高原美保

図版篇図幅：図幅24(図4-25)

交通遮断機等の取設工事に伴って、西門周辺の避難器具用固定環の改修工事が行われることになり、部分的に遺物包含層を掘り下げる可能性が生じたため、立会調査を実施することとなった。

固定環が埋設される3ヶ所を1～3トレンチ

とした。その中で、3トレンチは既設の共同溝部分にあたり搅乱が著しかった。1・2トレンチでは、現地表下55～60cmで、城北団地全体にわたる基本層序のⅢ層である黒褐色シルトの遺物を包含する土層を確認した(図49)。Ⅲ層を工事で破壊しないように、慎重工事を指示して調査を終了した。

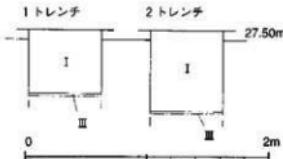


図49 99215-1・2トレンチ土層柱状図 (縮尺 1/40)

VII 1993年度の調査

1993年度に埋蔵文化財調査室が実施した発掘調査は、附属図書館農学部分館新営工事に伴う樽味遺跡3次調査の全面調査1件、1992年度から始められた構内遺跡の確認調査1件、試掘調査・立会調査12件である。確認調査の1件は持田団地で実施した。また、試掘調査・立会調査

の団地別の内訳は、城北団地6件、樽味団地5件、重信団地1件である。

その中で、試掘調査や立会調査という形式をとりながら、実体は小規模な本格的な調査である例がみられるようになり、調査体制や予算的な面などで問題化しつつある。

99301 医学部看護学科校舎新営工事に伴う調査

調査地点：温泉郡重信町大字志津川

重信団地(図.50)

調査面積：20m²

調査期間：1993年5月24日

調査の種別：試掘調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄

医学部看護学科新設のため校舎を新営する計画が埋蔵文化財調査室に提示され、事前の試掘調査を実施することとなった。予定地は、重信団地の北東部、医学部本館と動物実験施設に挟まれた位置にある(図.51)。

調査では、校舎が新営される敷地のほぼ中央部分で東西13.5m、幅約1.5mのトレンチを設定した。表土層の造成土部分である①層を除去すると、現地表下1.17~1.25cmでオリーブ褐色粘質シルトの②層があらわされた。礫をまったく含まず、かなり安定した土層であり、遺構が営まれていることを考え、上面で機械力による掘り下げを中止し、人力で遺構の検出に努めた。しかし、遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。トレンチ西端部で、②層を部分的に掘り抜



写真.31 99301 調査状況

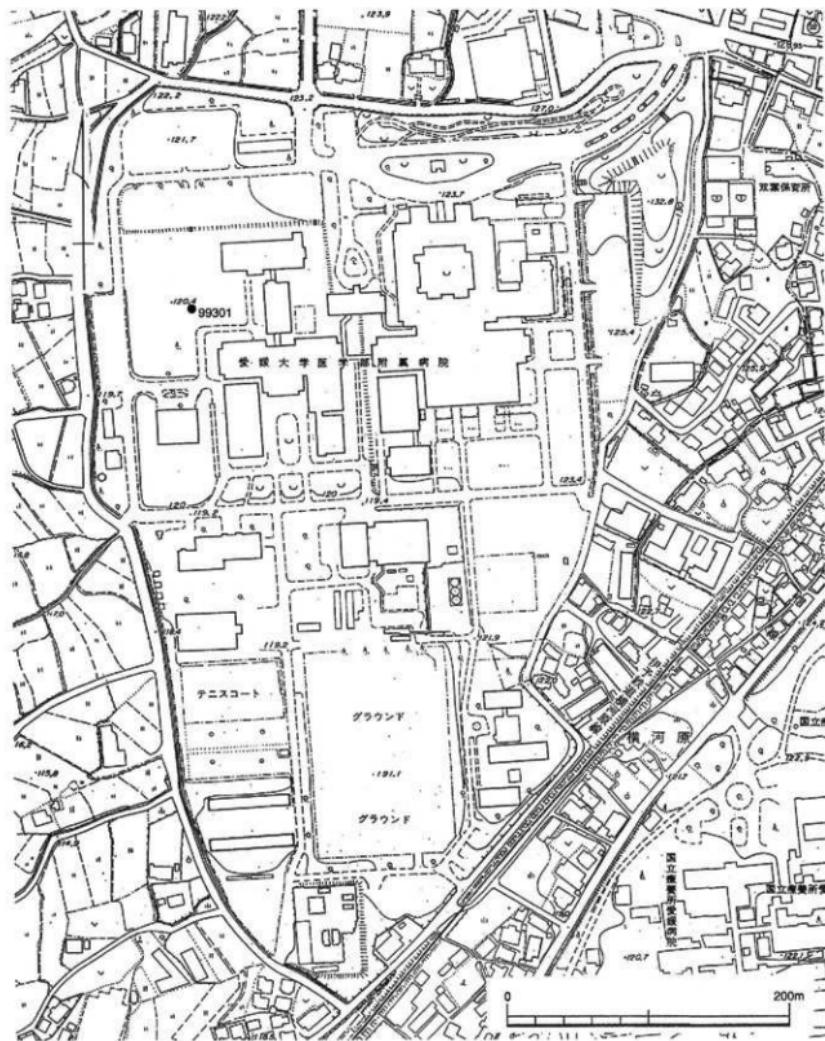
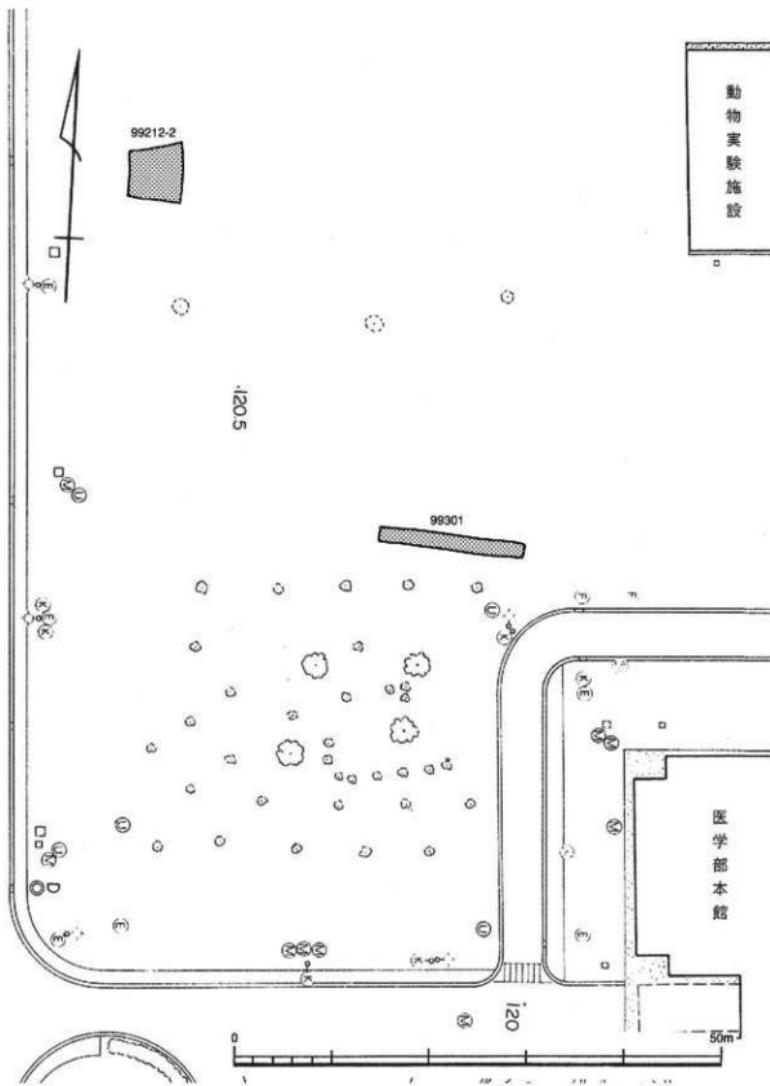


図.50 1993年度 重信団地調査地点 (縮尺 1/3,500)



いた。②層の層厚は約27cmで、その下層には人頭大～拳大の凹疊が混じる黒褐色砂疊層の③層を確認した(図.52)。

今回の調査では、遺構・遺物は出土しなかつた。周辺には、1992年度確認調査(調査番号:99211)の1～3トレンチがあり、やはり、遺構・遺物は確認できていない。したがって、医学部看護学科校舎の新営予定地には、埋蔵文化財は分布していないものと考えられる。

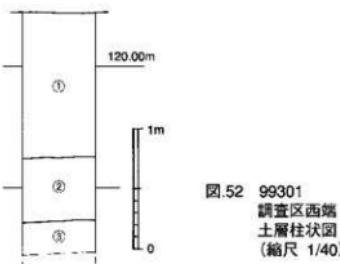


図.52 99301
調査区西端
土層柱状図
(縮尺 1/40)

99302 附属図書館農学部分館新営(樹木移植)工事に伴う調査

調査地点: 松山市梅味3丁目5番7号

梅味団地(図.53)

調査面積: 14m²

調査期間: 1993年6月24日～1993年6月25日

調査の種別: 立会調査

調査担当: 田崎博之

調査補助: 宮崎直栄・高原美保

附属図書館農学部分館の新営予定地には楠が植栽されており、工事に先立って移植が行われることになった。移植先の調査とあわせて立会調査を実施した。移植先を1トレンチ(地点)、予定地内の掘削地点を2トレンチ(地点)とした(図.5)。

[1トレンチ]

移植先は、梅味遺跡2次調査(調査番号:99101)が実施された農学部3号館の北側である(写真.32)。梅味遺跡2次調査では、溝で方形に区画された中世の集落遺跡が調査されていて、集落は、楠の移植先も含めた周辺にひろがっていることが予想された。

調査では、機械力で、土層のI層である造成土部分、下層は造成以前の旧水田層のII層を掘り下げた。調査区内の南寄りと東端で建物の基

礎と考えられる滑状の擾乱部分2ヶ所、北西隅に方形の擾乱壙がある(図.54、写真.33)。

遺物を包含する黒褐色シルトのⅢ層は、現地表下95～100cmで確認した。Ⅲ層は擾乱部分の壁で観察すると2～3cmと非常に薄く、広がりも部分的で、北東隅では不整形の落ち込み状の溜まりがみられた。この時点で、掘削深度を施設部と協議したが、楠を移植するには十分な深度ではないとのことで、急速、Ⅲ層の遺物包含層と、その下層に予想される遺構の調査を行うこととなった。

Ⅲ層からは中世の遺物が少しあった。Ⅲ層下の現地表下100cmで、にぶい黄褐色粘質シルトのIV層があらわれ、上面では小穴が多数検出できた。小穴からは、中世の上器類が少量出土した。埋土の状況から掘立柱建物や欄列を構成すると考えられる小穴もあり、調査地点の位置関係からも2次調査区の中世集落跡と関連する遺構が予想された。しかし、調査範囲が狭いために、掘立柱建物などの確認は出来なかった。埋土の土質・色調の記録をとりながら、遺構の精査作業を行い、遺構実測・写真撮影を行った後に、調査を終了した(図.54、写真.32・33)。

[2トレンチ]

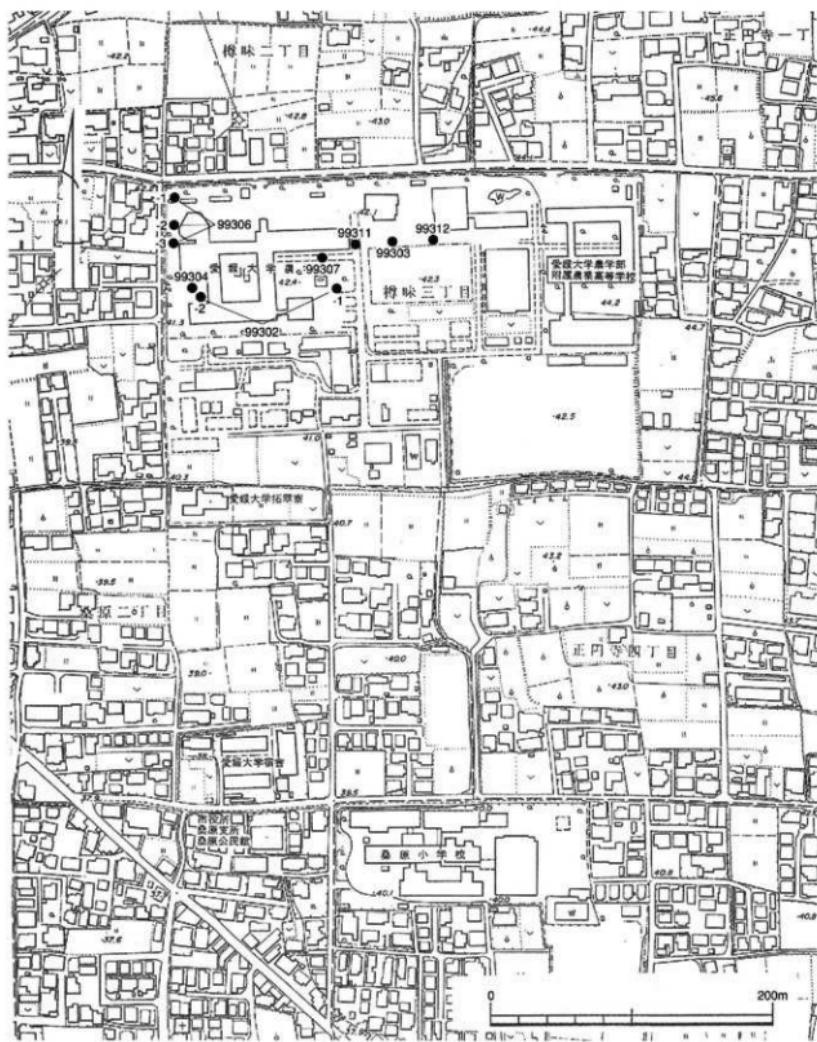


図.53 1993年度 柳味・北吉井団地調査地点（縮尺 1/3,500）



写真.32 99302調査区遠景（南西から）

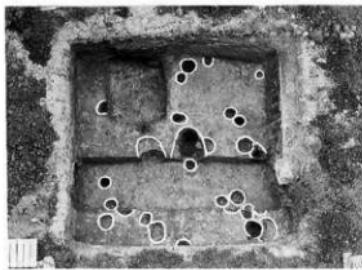


写真.33 99302調査区全景（南から）

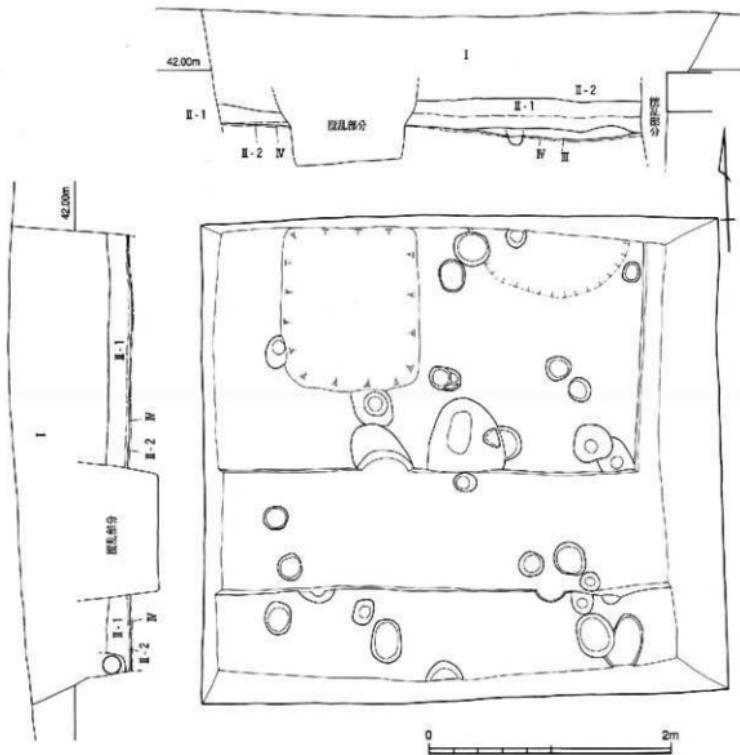


図.54 99302調査地点造構実測図および土層断面図（縮尺 1/40）

現地表下1.5mで、遺物包含層である黒褐色シルトのⅢ層があらわれ、土師器の細片が出土し始めた。農学部の担当者などと協議を行い、根巻作業に伴う掘削をG.L-1.5m前後までとし、

本格的な精査は、8月以降に予定されている本調査で行うこととした。桶を移動した後には、掘削した底面にブルーシートを敷いて埋め戻し、全面調査に備えることとした。

99303 農学部自転車置場取設工事に伴う調査

調査地点：松山市樽味3丁目5番7号

樽味団地(図.53)

調査面積：80.8m²

調査期間：1993年6月27日

調査種別：試掘調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄・高原美保

樽味団地北部のテニスコート北側に設置されている自転車置場を東側へ増設することが計画され、工事に先立って試掘調査を実施した(図.5)。表土層のⅠ層にあたるアスファルト舗装および造成土を掘り下げると、現地表下55~85cmで褐色砂疊層のⅣ層があらわれた。Ⅳ層は西



写真.34 99303調査区全景（東から）

から東へ向かって次第に高くなる(写真.34)。砂疊層上面で遺構の検出に努めたが、遺構・遺物は出土していない。

99304 附属図書館農学部分館新設工事に伴う調査 (樽味遺跡3次調査)

調査地点：松山市樽味3丁目5番7号

樽味団地(図.53)

調査面積：258.5m²

調査期間：1993年8月23日~1993年10月6日

調査種別：全面調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄・高原美保

調査地点は樽味団地の北西部に位置している(図.5)。表土層の造成土と旧水田層を除去し、現地表下1.1~1.2mで遺物を包含する黒色~黒

褐色シルトのⅢ層を確認した。Ⅲ層の広がりは部分的であり、厚さも最大で20cmほどである。弥生時代前期~中世の遺物が出土したが、もっとも量が多いのは、古墳時代の5~6世紀の遺物である。

Ⅲ層を掘り下げ、暗褐色~黄褐色粘質シルト層であるⅣ層の上面で、古墳時代5~6世紀の遺構を検出した。竪穴式住居跡7棟、掘立柱建物跡2棟、溝1条、土壙7基など、調査面積が狭いわりに多くの遺構を確認できた(図.55、写真.35~37)。3次調査地点から西へ120~130m

離れた樽味高木遺跡や樽味四反地遺跡などでも、同時期の堅穴式住居跡や掘立柱建物などが調査されている。これらの地点と同じく、樽味遺跡3次調査地点の遺構の密度は高く、樽味団地西半部を中心として古墳時代の集落遺跡が展開していることが考えられる。

以下、調査の詳細は、1996年度に刊行された愛媛大学埋蔵文化財調査報告書VIである『樽味遺跡Ⅲ』を参照されたい。



写真.35 99304(樽味遺跡3次調査)調査状況

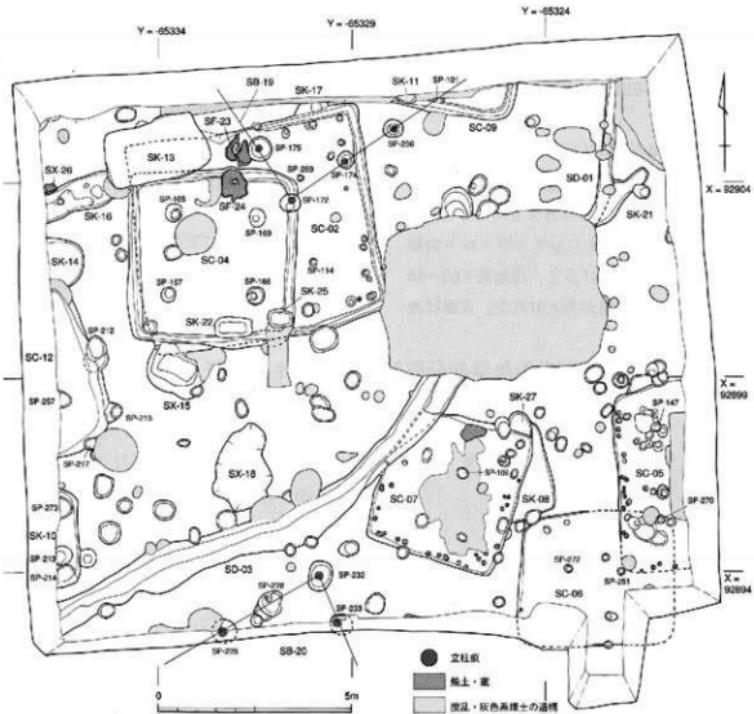


図.55 99304(樽味遺跡3次調査)調査区全体図(縮尺1/250)



写真.36 99304(椿味遺跡 3次調査)調査区全景(南から)



写真.37 99304(椿味遺跡 3次調査)SC-02-04(西から)

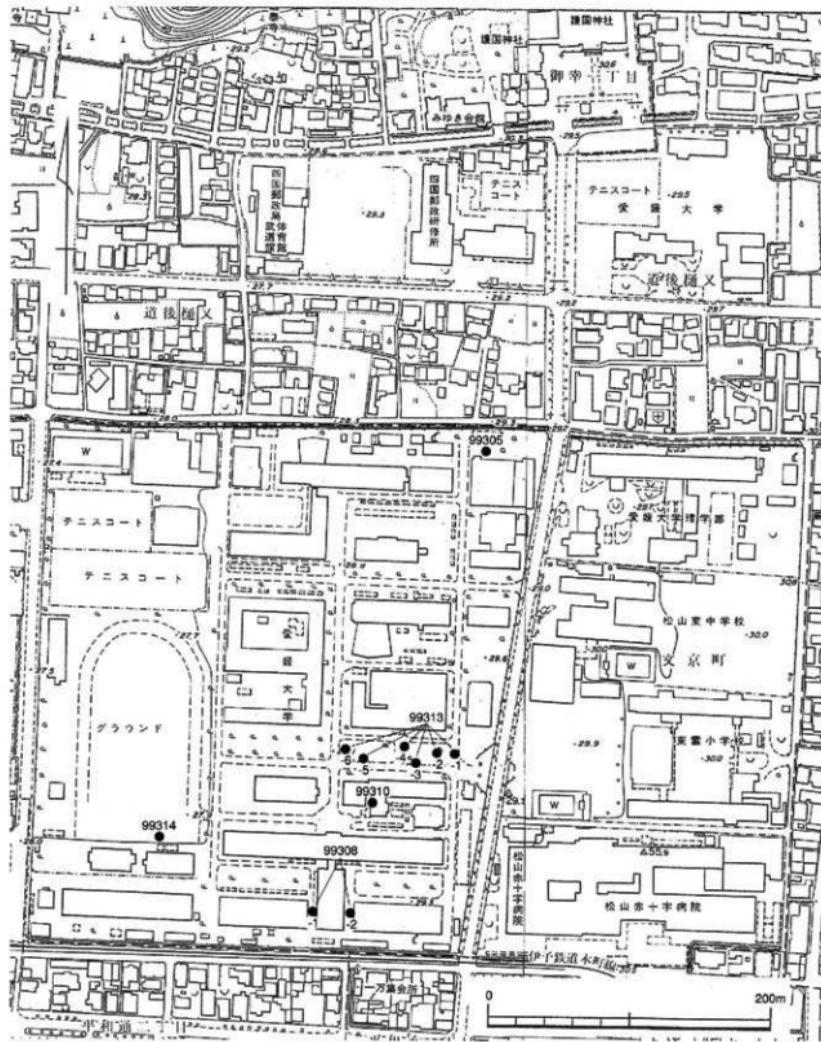


図56 1993年度 城北団地調査地点 (縮尺 1/3,500)

99305 城北団地大学会館廻り道路整備(樹木移植)工事に伴う調査

調査地点: 松山市文京町3番

城北団地(図56)

調査面積: 2 m²

調査期間: 1993年11月9日

調査の種別: 立会調査

調査担当: 田崎博之

調査補助: 宮崎直栄・高原美保

図版篇図幅: 図幅18 (J4-20)

褐色粘質シルト層をII-2層とした。

また、II-1層は①～⑤層に分層できる。①層は、オリーブ褐色の砂質シルト層で、1～2cm大小の小石や炭化物細片をごく少量含む。水田土壤か? 下部の1/4ほどには鉄・マンガンの沈着がみられる。②層は、黄褐色砂質シルト層で、①層と比べて粘性がある。下層の③層へは漸移的に変化する。水田耕作土層か? ③層は、黄褐色の粘質シルト層で、マンガンが沈着する。

大学会館廻り道路整備に伴って樹木が移植されることとなった。移植に際しては、現地表下50～60cmで掘削面が計画されていたが、周辺では既往の調査がなく、埋蔵文化財の分布を判断するデータを収集するために、工事に立ち会って調査を実施することとした。

調査地点は、城北団地の北部、大学会館の北側に位置する。表土にあたるI層は、造成土の真砂土のI-1層と、暗緑灰色の砂質シルトからなる。下層には、小礫を多く含むオリーブ褐色の細砂が薄い縞状に互層で堆積している。5mm大の炭化物片を含む。流水による堆積物と考えられ、I-3層としてI層の中にまとめた。

I層の下層、現地表下55～60cmで、造成以前の旧水田層であるII層を確認した。また、II層の下層には、暗オリーブ褐色の粘質シルト層がみられ、オリーブ褐色の微細砂礫を含む粘質シルト層へと漸移的に変化する。遺物は出土していない。この土層は、1996年度に実施した確認調査(調査番号: 99602)で、城北団地の北半部を東西に走る谷状地形の窪地部分に堆積する土層群であることが確認されている。そこで、造成以前の旧水田層をII-1層、下層の暗オリーブ

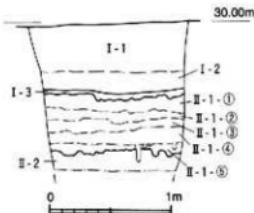


図57 99305土層断面図(縮尺 1/40)



写真38 99305調査地点土層断面

②層の床土部分。④層は、灰オリーブ色の粘質シルト層で、砂礫が下部に混じる。水田層と考える。⑤層は、暗オリーブ褐色の粘質シルト層

で、粘性が強い。以上の観察から、3枚以上の水田層が重なっているものと考えられる。出土遺物はない(図57、写真38)。

99306 附属図書館農学部分館新営(外灯設備管路)工事に伴う調査

調査地點：松山市柳味3丁目5番7号

柳味団地(図53)

調査面積：3m²

調査期間：1993年11月24日

調査の種別：試掘調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄

とした(図5)。

1・2トレンチは外灯設備管路上にあたる。1トレンチでは現地表下88cm、2トレンチでは77cmで、柳味団地全体にわたる基本層序のⅢ層にあたる黒褐色土層の上面を確認した。管路部分の掘削は、現地表下60cmに設定されており、工事によってⅢ層が破壊されないと判断し、慎重工事を指示した。

3トレンチは外灯が設置される地点である。表土にあたる造成土のⅠ層、造成以前の旧水田層であるⅡ層を掘り下げ、現地表下75cmでⅢ層上面を確認した。この部分については、掘削深度が1.4mであるので、Ⅲ層の調査と、下層のにぶい黄褐色のしまった粘質シルト質であるⅣ層上面での遺構の検出に努めた。その結果、遺構の一部と考えられる黒色シルト質土の落ち込

附属図書館農学部分館新営工事に伴って外灯設備が取設されることとなった。取設予定地は、柳味団地の北西角で、隣接する柳味遺跡3次調査(調査番号：99304)の成果から、何らかの遺構が分布することが予想されたので、事前に試掘調査を実施することとなった。

調査地点は、外灯設備管路上および外灯設置地点の3ヶ所で、北から順番に1～3トレンチ

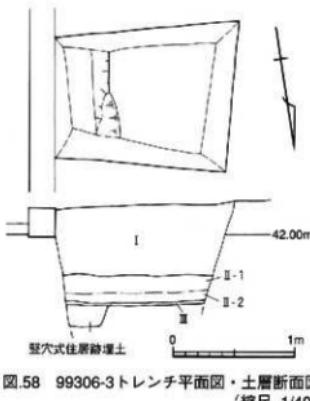


図58 99306-3トレンチ平面図・土層断面図
(縮尺 1/40)



写真39 99306-3トレンチ

みが発見された(図.58、写真.39)。落ち込みは、15~20cmの深さで、炭化物の小塊や拳大~親指先大の風化が進んだ花崗岩の礫石が混じる。土師器の細片が少量出土した。落ち込みの肩部が

直線的であること、底面がほぼ水平で、壁の立ち上がりが垂直に近いことから、樽味遺跡3次調査地点でも発見されている竪穴式住居跡の一部と考える。

99307 城北団地他情報通信電気設備工事に伴う調査（その1）

調査地点：松山市樽味3丁目5番7号

樽味団地(図.53)

調査面積：7m²

調査期間：1993年11月24日

調査の種別：立会調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄

工事地点は、樽味団地北部の農学部本館南側に隣接する地点である(図.5)。工事に伴う掘削作業に立ち会った。掘削は、現地表下面70cmまで行われたが、本館建物を建設する際の余掘り部分にあたるためか、擾乱が著しく、遺構・遺物は出土しなかった。

99308 城北団地他情報通信電気設備工事に伴う調査（その2）

調査地点：松山市文京町3番

城北団地(図.56)

調査面積：7.9m²

調査期間：1993年11月25日

調査の種別：立会調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄

図版編図幅：図幅24(図4-25)

城北団地の南端に近い工学部実習工場に挟まれた講義棟の東西2ヶ所に通信電気管路を設ける工事が行われることとなり、工事に際して立会調査を実施した。講義棟の西側の調査地点を1トレンチ、東側を2トレンチとしたが、1トレンチ部分は、文京遺跡6次調査(調査番号：98601)の2トレンチと交差する。

1トレンチでは、現地表下70cmまでの掘削作業に立ち会ったが、既設の配管などによる最近の擾乱が著しく、遺構・遺物は確認できなかった。



写真.40 99308-2トレンチ西半部分のⅢ層残存状況

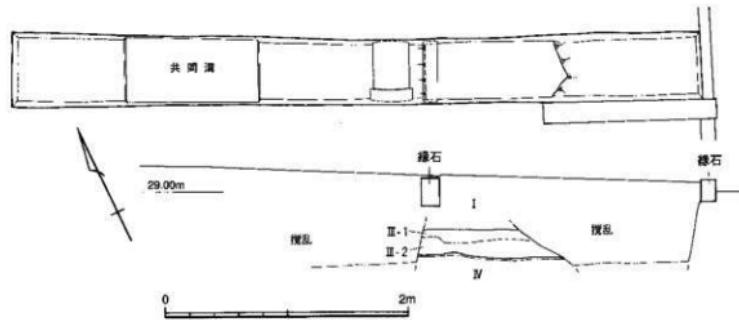


図59 99308-2トレンチ平面図・土層断面図（縮尺 1/40）

2トレンチでは、表土にあたる造成土のI層を掘り下げるとき、城北団地全体にわたる基本層序のII層に相当する灰色系シルトの旧水田層ではなく、暗褐色砂質シルト層があらわれた。しかし、既設の配管設置による擾乱が著しく、トレンチ西半部にしか残存していない（写真40）。この暗褐色砂質シルト層は、城北団地全体にわたる基本層序ではIII層に対応する。工事による掘削が現地表下70cmまでおよぶことから、工事の

中断を指示して、部分的に残るIII層を調査した。III層の上部からは、炭化物や弥生土器の細片が出でた。III層の下部は、小砾を少量含む褐色砂質土へ漸移的に変化し、遺物が混じらなくなる。上部をIII-1層、下部をIII-2層に細分した（図59）。III層の下層は、にぶい黄褐色シルト層のIV層である。上面で遺構の検出に努めたが、その痕跡は確認できなかった。

99309 1993年度構内遺跡確認調査（その1）

調査地点：松山市持田町1丁目5番22号

持田団地（図60）

調査面積：39m²

調査期間：1993年12月24日～1993年12月25日

調査の種別：確認調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄

図版範囲幅：図幅32（K5-2）

図幅38（K5-7）

持田団地では既往の調査は1件のみである。

しかも、立会調査（調査番号：99209）であるために、掘削深度は浅く、埋蔵文化財の有無さえ把握できていない。そこで、1993年度に、持田団地内における埋蔵文化財の分布状況を把握するために、確認調査を実施することになった。

今回の調査では、持田団地西辺で3ヶ所、東辺で3ヶ所に調査トレンチを設定した。西辺の3ヶ所のトレンチには、北から順次1～3トレンチ、東辺でも北から4～6トレンチとした。以下、各トレンチごとに調査結果を報告する（図61、写真41～46）。

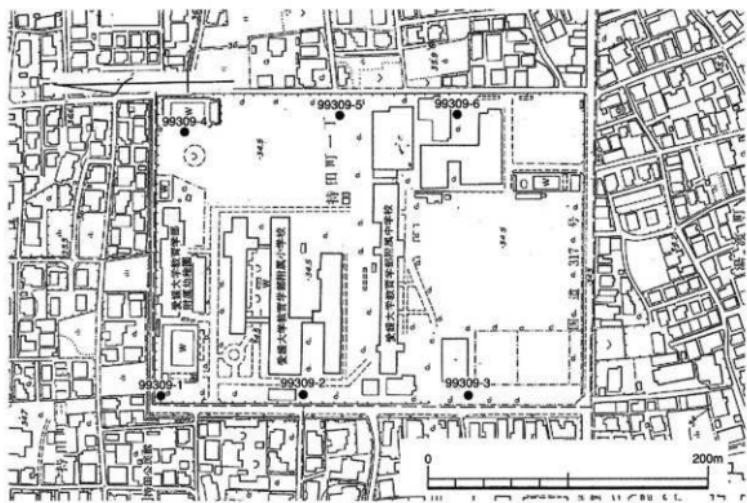


図.60 1993年度 持田団地調査地点（縮尺 1/3,500）



写真.41 99309-1 トレンチ土層



写真.42 99309-2 トレンチ北端土層



写真.43 99309-3 トレンチ土層



写真.44 99309-4 トレンチ土層



写真.45 99309-5 トレンチ土層



写真.46 99309-6 トレンチ土層

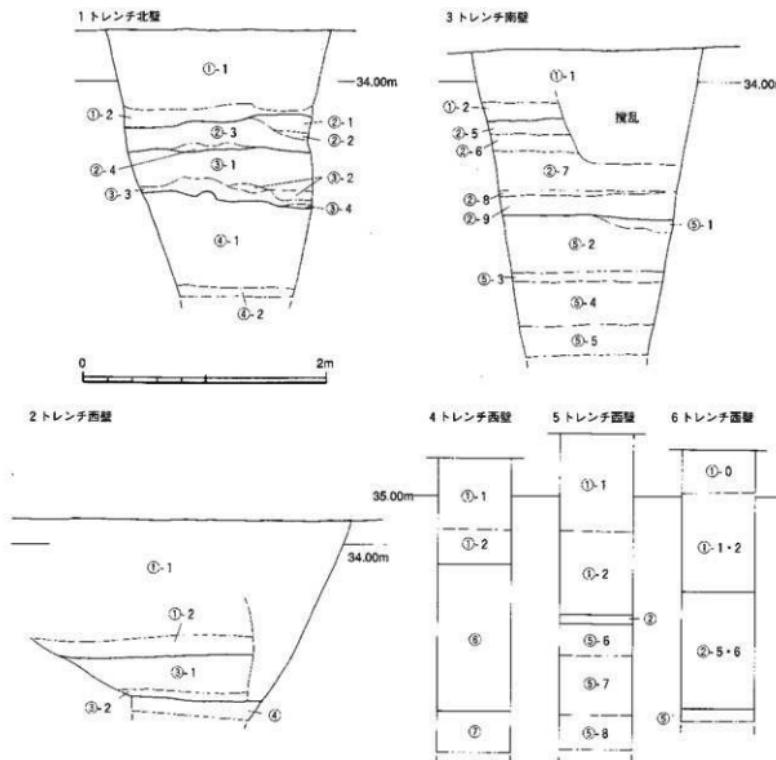


図61 99309-1～6トレンチ土層断面および土層柱状図（縮尺 1/40）

【1 トレンチ】

持田団地の北西角に位置する。堆積上は①～④層に大別できる。①層は表土層である。上部の①-1層とした土層はオリーブ褐色の砂質シルト層、下部の①-2層は黄褐色微細砂層で細かく薄い白色砂のレンズ状ブロックが混じる。

②層は灰黄色～黄褐色の砂質土層で、②-3層とした灰黄色の微細砂、細砂層が互層で堆積する砂質土層の中に、②-1層の暗灰黄色の細・粗

砂層の互層、②-2層とした黄褐色の微細砂層、②-4層とした黄褐色の微細砂層がみられる。

③層は黄褐色の砂質土層である。③-1層とした黄褐色の砂質土層の下位に、③-2層の黄褐色の粗砂層、③-3層の黄褐色の微細砂層と細砂層の互層、③-4層の黄褐色の粗砂層が堆積している。

④層は砂礫層で、④-1層とした上部は明褐色の砂礫層で、親指先大～人頭大の花崗岩の円礫

が混じる。また、鉄分の沈着が著しい。下部の④-2層は、黒褐色の砂礫層で、基本的な構成は④-1層と共通するが、しまりは弱い。

[2 トレンチ]

団地西辺のほぼ中央に位置する。トレンチの北端部分を深掘りして、1トレンチと対応する①・③・④層の堆積土層が確認できたが、②層は確認されなかった。

[3 トレンチ]

団地西辺の南側に位置する。3トレンチでは、表土層の①層と、1・2トレンチで確認した砾層の間に、灰白色の粗砂・砂礫層の2層が挟まる。1トレンチの②層に近い灰黄色砂質土が含まれているので、上部から②-5層～②-9層とした。これに対応する土層は、5・6トレンチでも確認された。

①層は、オリーブ褐色の砂質土層で、下部ほど砂質が強くなる。それぞれ1トレンチの①-1層と①-2層に対応する。

②-5層は灰白色粗砂層、②-6層は黄褐色の砂礫層である。②-7層は黄褐色の砂質土層で、砂礫を多く含む。砂礫は上層の②-6層から巻き込まれたものと考えられる。②-6層下からは砂礫を多く含む砂質土があらわれた。上層の②-5層および②-6層に近い堆積物で、②-7層とした。さらに下層にも、黄褐色砂が混じる②-8層、部分的に灰白色的粗砂層がブロックで混じる黄褐色砂層である②-9層が堆積している。

②層に下層には1・2トレンチで確認できた③層や④層はみられず、旧河道内の堆積物と考えられる砂礫層や砂層が互層状態で堆積していく。⑤層と一括した。上位から⑤-1～⑤-2層に細分できる。⑤-1層は微細なにぶい黄褐色の砂層と灰白色粗砂層の互層、⑤-2層は砂礫を多く含み、部分的に下層の⑤-3層の灰白色粗砂層と同質のブロックを含む。⑤-3層は灰白色粗砂層、

⑤-4層は親指先大～20cm大の石礫を含む砂礫層、⑤-5層は淡黄灰色細砂層である。

[4 トレンチ]

持田団地の北東角に位置する。1～3トレンチと比べると、様相が異なっている。表土層の①層の下層では、1.2mの厚さで、微細砂・粗砂・粘質土が互層となって堆積物があらわれた。レンズ状のブロックが縦状に堆積し、流水による堆積物である。⑥層とした。さらに下層の現地表下2.1m前後以下では、にぶい黄褐色、灰白・白色の粗・細砂層の互層がみられる。親指先大～人頭大の礫石がぎっしりつまっている。堆積状況は、1・2トレンチの④層に近いが、しまりがない。⑦層とした。

[5 トレンチ]

表土層は他のトレンチの①-1・①-2層と対応する砂質土層であるが、かなり厚い。①層下には、やや薄いが、細・粗砂や礫層が縦状に互層をなす。質感は1・3トレンチの②層に近く対応するものと考えられる。さらに下位には、3トレンチの⑤層に対応する堆積物がみられる。上位から、⑤-6層は微細砂と細砂が互層をなす。礫はほとんど含まれない。鉄・マンガンの沈着が認められる。⑤-7層は灰白色の粗・細砂や小礫の互層で、⑤-8層は小指先大～人頭大の礫石を多く含む砂礫層である。

[6 トレンチ]

団地南東角に位置する。他のトレンチでみられた表土の砂質土である②-1・②-2層の上部に造成土の真砂土がみられる。真砂土部分を①-0層とした。①-1・2層の下層には、灰白色の粗・細砂や小礫の互層状態で堆積していた。3トレンチの②-5層あるいは②-6層と対応する。さらに下層は、親指先大～人頭大の礫石を多く含む砂礫層である。しまりはほとんどない。かなり新しい河川堆積物と考えられる。層序的には3

トレンチの③層と対応する。

以上、各トレンチの表土層である①層からは近現代の陶磁片が出土した。また、1996年に実施した立会調査(調査番号:99606)では、②層と対応する暗灰黄色の砂質土から、近代の底部焼きの高台付皿の破片が出土している。①・②層は近代以降の堆積物と考えられる。また、3・5・6トレンチの②層下で確認された⑤層は、かなり新しい時期の堆積物である可能性が強い。昭和22年に板東米空軍が撮影した航空写真を観察すると、石手川の氾濫原が持田団地の南半分以上を占めている。①・②・⑤層は、こ

うした石手川の氾濫原を構成するものと考えられる。

しかし、1・2トレンチでみられた③層については、砂質土層といつても、かなり土壤化の進んだ土層である。団地北東角近くでは、松山市埋蔵文化財センターが1996年度に調査した外環状線道路部分(岩崎遺跡)で中世の水田が確認されている。中世水田の耕作土層は、1・2トレンチの③層と層序的に対応する。③層は水田層であると考えられる。持田団地の北半部分には、こうした中世の水田域が展開している可能性が強い。

99310 城北団地情報機器更新電源容量増設工事に伴う調査

調査地点: 松山市文京町3番

図版篇図幅: 図幅24 (J4-25)

城北団地(図56)

調査面積: 3.7m²

調査期間: 1994年1月18日

調査の種別: 立会調査

調査担当: 田崎博之

調査補助: 宮崎直栄・三神恵美香

調査地点は、城北団地南半部の法文学館2号館と変電室の間に設置される配管路部分である。調査区の東西端は大きく擾乱されていたが、中央部分で、遺物を含むする暗褐色シルト層を確認し、下面では遺構を部分的にではあるが検

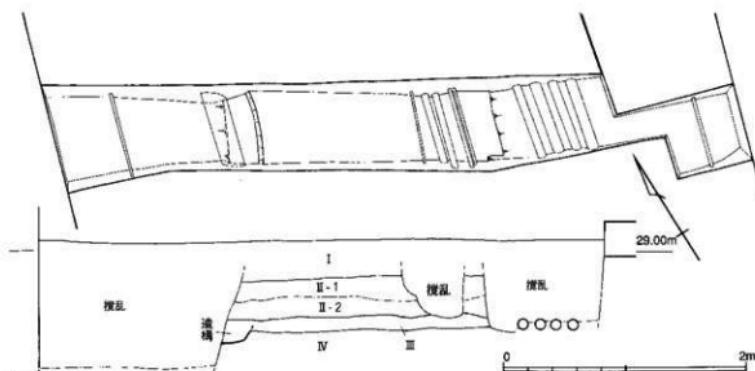


図 62 99310調査区平面図および土層断面図 (縮尺 1/40)



写真.47 99310調査区全景



写真.48 99310調査区土層断面

出し調査を行った。

I層の表土層にあたる造成土部分、II層の灰黄褐色で小砾や砂が混じるシルト層の旧水田層（II-1層は耕作土部分、II-2層は床上部分）を掘り下げ、III層の暗褐色シルト層を確認した。III層中には、数mm～小指大の炭化物片が多く混じり、弥生時代中期後葉～後期の凹線文土器の壺や壺などの破片が、調査区の中央と東側に集中

して出土した。また、西側ではIII層が15～20cm落ち込んだ部分を検出した。落ち込みの立ち上がり方から、遺構の一部分であると判断した。落ち込み部分からは、弥生土器の細片が出土した。III層の下層には、黒褐色の砂質シルトに黄褐色の砂質土を散漫に含む土層が堆積している。城北団地における基本層序のIV層を構成する土層群の一つである（図.62、写真47・48）。

99311 農学部附属図書館新館(排水管理設)工事に伴う調査

調査地点：松山市樟味3丁目5番7号

樟味団地（図.53）

調査面積：19.8m²

調査期間：1994年2月8日・1994年2月15日

調査の種別：立会調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄・高原美保

調査地点は、樟味団地北部、テニスコート北側に位置する（図.5）。排水管路部分では、既

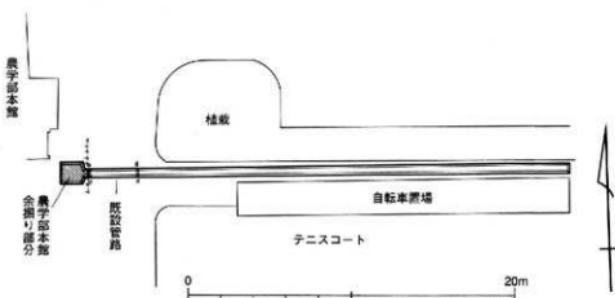


図.63 99311調査全体図

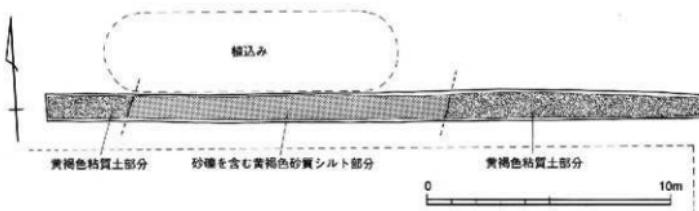


図.64 99312調査区内IV層の変化 (縮尺 1/200)

設の配管が工事中にみつかり、掘削を現地表下40cmまでにとどめることとなり、排水栓が設置される部分のみを立会調査することとなった。

しかし、排水栓部分も大部分が、農学部本館建設に伴う余掘りで搅乱されており、その範囲を確認して調査を終了した(図.63)。

99312 農学部自転車置場排水管路工事に伴う調査

調査地点：松山市樽味3丁目5番7号

樽味団地(図.53)

調査面積：29.7m²

調査期間：1994年2月8日

調査種別：立会調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄・高原美保

調査地点は、樽味団地北部、テニスコート北側に位置する(図.5)。既往の調査(調査番号：

99214、99303、99311)の結果では、遺物包含層や構造物が現地表下40~50cmであらわれる。そこで、自転車置場取設工事に伴う掘削を40~45cmにおさめることとなり、工事に際して立会調査を実施するだけとした。調査では、表土層を掘り下げると、現地表下47cmで褐色~黄褐色の砂礫質のシルトがあらわれた。この土層は樽味遺跡全体における基本層序のIV層に相当する。IV層上面では構造物は検出できなかった。周辺は削平を受けている可能性が高い。

99313 城北団地基幹整備(屋外環境)工事に伴う調査

調査地点：松山市文京町3番

城北団地(図.56)

調査面積：14.8m²

調査期間：1994年2月9日・2月10日・

2月16日

調査の種別：試掘調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄・高原美保

図版篇図幅：図幅24(J4-25)

城北団地南半部、法文学部講義棟と附属図書館に挟まれた範囲の屋外環境整備計画が埋蔵文化財調査室に提示され、施設部と協議を行い、埋設管の多くを盛り土内に設置することなどの設計計画に変更された。しかし、掘削深度が深

い給水管埋設部分の1ヶ所、外灯基礎部分の5カ所については、工事に先立って調査することとなった(写真.49・50)。

調査地点を東から1～6トレンチとして調査を進めた。以下、各トレンチでは、城北団地全体にわたる基本層序と共通する堆積状況を確認できた(図.65・66)。

I層は表層のアスファルト舗装部分、砂利や真砂土などの造成土部分。

II層は造成以前の旧水田層、下部にはマンガン・鉄分の沈着が著しい床土部分を確認できた。上部の耕作土部分をII-1層、下部の床土部をII-2層とした。

III層は造物を包含する暗褐色粘質シルト層である。4・5トレンチでは、にぶい黄褐色の細



写真.49 99313-1・2トレンチ (南から)



写真.50 99313-3～6トレンチ (南東から)

砂層の中に暗褐色粘質シルトの小塊が混じる部分(III-2層)がみられる。とくに、5トレンチでは、III-2層下に、何らかの構造と考えられる灰褐色の砂礫部分(III-3層)を確認した(写真53)。しかし、III-2・III-3層からは遺物は出土していない。

IV層はIV-1～IV-4層の土層群から構成される。下層ほど砂質が強くなり、各層は漸移的に変化し、境界は不明瞭である。IV-1層にはぶい黄褐色の粘質シルト層。IV-2層はオリーブ褐色

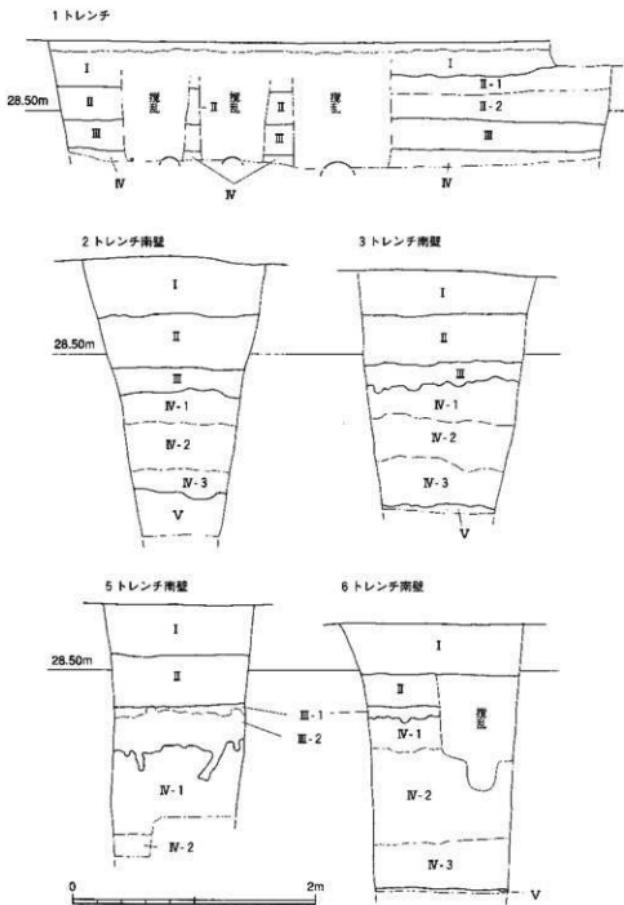


図65 99313-1～3・5・6トレンチ土層断面図（縮尺 1/40）



写真.51 99313-1 トレンチⅢ層検出状況（西から）



写真.52 99313-2 トレンチSD-01検出状況（南から）



写真.53 99313-3 トレンチ南壁土層断面



写真.54 99313-6 トレンチ南壁土層断面

の砂質シルト層。近接する文京遺跡11次調査地点(調査番号:98901)では、IV-1層とIV-2層の境界部分を中心として縄文時代後期の遺物が出土している。IV-3層は灰オリーブ色の砂質が非常に強い砂質シルトあるいは砂質土。IV-4層は2トレンチ内で検出した落ち込み内の土層である(図.67)。IV-3層と土質や色調は変化なく、わずかに砂質が強い程度である。

V層は、2トレンチで黒褐色、3トレンチでは暗灰黄色、5トレンチでは暗赤褐色、文京遺跡11次調査地点では灰色の粗砂と直径2~5cmの大円礫からなる砂礫層である。

以下、各トレンチごとの状況を報告する。

[1トレンチ]

既設の低圧電線管などの配管工事によって一

部搅乱を受けていた(写真.51)。III-1層から土器の細片が数点出土したが、遺構は検出されなかった。IV層は上半部分で掘り下げを中止したこともあり、遺構・遺物は出土しなかった。

[2トレンチ]

III-1層下面で北西-南東方向の溝(SD-01)を検出した(図.66、写真.52)。土層断面の観察で、III-1層の中位から掘り込まれていることを確認できた。幅60cm、深さ15cmをはかる。埋土は暗灰褐色の粗砂・細砂、III-1層と同じ暗褐色の粘質シルトが薄いレンズ状の互層状態で堆積し、流水の痕跡をとどめる。

V層上面でIV層部分の落ち込みを確認した(写真.55)。同様の落ち込みは、文京遺跡11次調査地点でも発見されており、一連のものと考

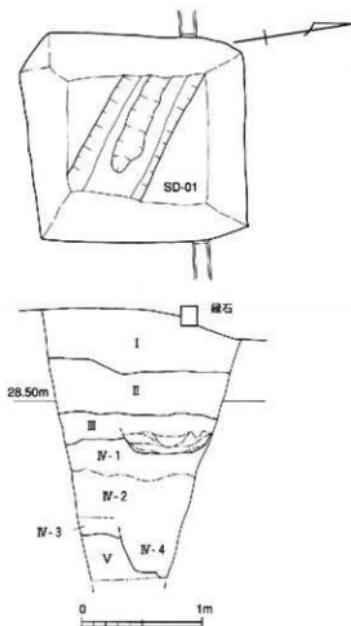


図.66 99313-2トレンチSD-01および土層断面
(縮尺 1/40)



写真.55 99313-2トレンチ西壁土層断面

えられる。落ち込み内の土層をIV-4層としたが、IV-3層とは土質や色調は変化なく、わずかに砂質が強い程度である。

III-1層で弥生土器と考えられる細片が数点出土した以外、他に遺物は出土していない。

[3トレンチ]

III-1層で弥生土器と考えられる細片が数点出土した以外、遺構・遺物は出土していない(写真53)。

[4トレンチ]

III-1層は検出できず、II層の底面にIII-2層とIII-3層が堆積している。IV-1層とIV-2層の境界部分から親指先大の円碟や炭化物の小塊、縄文土器が出土した(図.67)。前述したように、II

次調査地点で同一層準から縄文時代後期の土器や炉跡が出土している。他に遺構・遺物は出土していない。

[5トレンチ]

III-1層は厚さ5~7cmと薄く、砂が比較的多く含まれる。下層のIII-2層にはIII-1層が小ブロックとして含まれる。遺構・遺物は出土していない(図.67)。

[6トレンチ]

西側の1/3程度を近代の溝で搅乱されていた。搅乱上内から縄文土器と考えられる細片が2点出土したのみで、他に遺構・遺物は出土していない(写真54)。

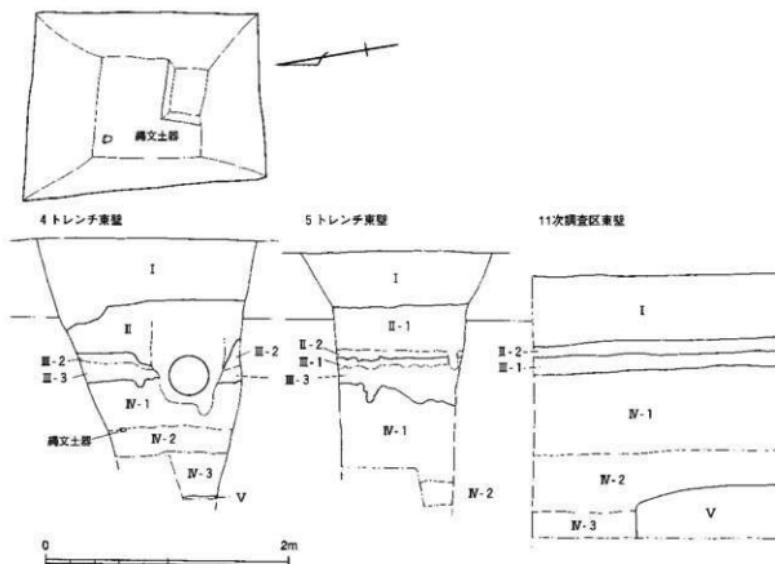


図.67 99313-4・5トレンチおよび文京遺跡11次調査の土層対応関係 (縮尺 1/40)

99314 工学部研究実験棟の建設に伴う調査

調査地点：松山市文京町3番

城北団地(図56)

調査面積：37.9m²

調査期間：1994年3月29日

調査の種別：試掘調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄・高原美保

図版篇図幅：図幅24(図4-25)

1994年度以降、城北団地の南西部の運動場では、工学部研究実験棟の建設が計画されている。周辺では、文京遺跡1次調査(調査番号：97501)、2次調査(調査番号：98001)、10次調査(調査番号：98801)が実施され、弥生時代中期後葉を中心とする竪穴式住居跡・掘立柱建物・円形周溝遺構などが確認されている。予定されている工学部校舎の建設予定地内にも集落遺跡が広がっ

ているものと考えられる。その広がりを確認するため、試掘調査を実施した。

運動場のほぼ中央に南北長37m、幅1.3mの試掘トレンチを設定した。表土にあたる造成土部分のⅠ層、造成以前の旧水田層であるⅡ層を掘り下げ、現地表下45~50cmで、遺物を包含する暗褐色の粘質をやや帶びるシルト層であるⅢ層を検出した。上面だけの観察ではあるが、弥生土器の大形破片や炭化物が大量に含まれ、南側ほど量が多い。また、土質は北側ほど砂質が強くなる。4ヶ所擾乱部分のうち2ヶ所を掘り下げたところ、遺物包含層の保存状態は良好である。Ⅲ層下のにぶい黄褐色の砂質シルトであるⅣ層まで掘り込まれた遺構を確認できた(図68)。

工学部校舎建設にあたっては、全面調査が必要である。

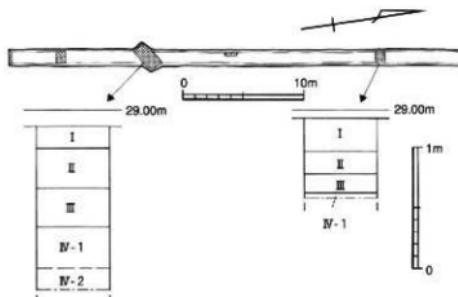


図68 99314調査擾乱 sondageの
土層柱状図
(縮尺 1/400・1/40)

VIII 1994年度の調査

1994年度には、城北団地で工学部校舎新設(I期)工事に伴う本格的な全面調査である文京遺跡12次調査(調査番号:99410)が実施された。加えて、城北団地で6件、東長戸団地で1件、梅林団地で1件、北吉井団地で1件、津田山団地で1件、計10件の試掘・立会調査を行った。

11月以降に文京遺跡12次調査の本格的な全面調査が予定されているため、年度前半に試掘・立会調査が集中することとなった。こうした調査が続き、1993年度に実施された柳味遺跡3次調査の整理作業は中断され停滞することとなっ

た。また、1992年度から大学構内の遺跡の有無や範囲を把握するための確認調査についても、1994年度は中止せざるを得なかつた。

試掘・立会調査の中では、北吉井団地の調査は、立会調査の形式をとったが、溝・柱穴などの遺構が予想以上に確認され、調査期間も6日間を要し、予算・人員・期間の面で十分な対応がとれない状況が生じた。工事予定地の全面調査だけではなく、事前の試掘・立会調査においても、調査体制の充実、状況に即した施設部との協議方法が検討課題として残される。

99401 東長戸他環境整備(駐車場整備・配管設置)工事に伴う調査 (その1)

調査地点: 松山市桑原2丁目9番8号

北吉井団地(図7.0)

調査面積: 54.5m²

調査期間: 1994年5月10日~1994年5月13日

1994年5月16日・18日

調査の種別: 立会調査

調査担当: 山崎博之

調査補助: 宮崎直栄・高原美保

北吉井団地では、これまで発掘調査は行われていなかった。しかし、周辺では松山市埋蔵文化財センターによって、弥生時代~古墳時代の集落遺跡が断続的に営まれていることが確認されている。駐車場整備に伴う舗装工事は掘削面が浅いため、掘削深度が比較的深い排水管杭部分と管路部分を調査することとした。排水管が埋設される宿舎建物に挟まれた部分を1トレン

チ、敷地南側の自転車置場に沿った部分を2トレンチとした(図7.3)。

1・2トレンチとともに、柳味遺跡の基本層序と共通した大別層位が確認できた(図7.4・7.5)。I層は表土層にあたる造成土、II層は造成以前の旧水山層である。2トレンチでは、耕作土層のII-1層と、床土層にあたるII-2層に細分できる。II-1層は暗灰黄褐色シルト。II-2層はオリーブ褐色ないし褐色シルトである。

III層は黒褐色シルト質土層で、細片化した遺物を包含する。部分的にしか残存していない。2トレンチでは、1トレンチや柳味遺跡2・3次調査と比べて、II層はやや明るい色調を帯びる。IV層は鈍い黄褐色粘質シルト質土層で、上面で造構を確認した。V層とVI層は、2トレンチの東端、SD-23の下層で確認した砂礫層である(写真59)。全体によくしまっている。V層

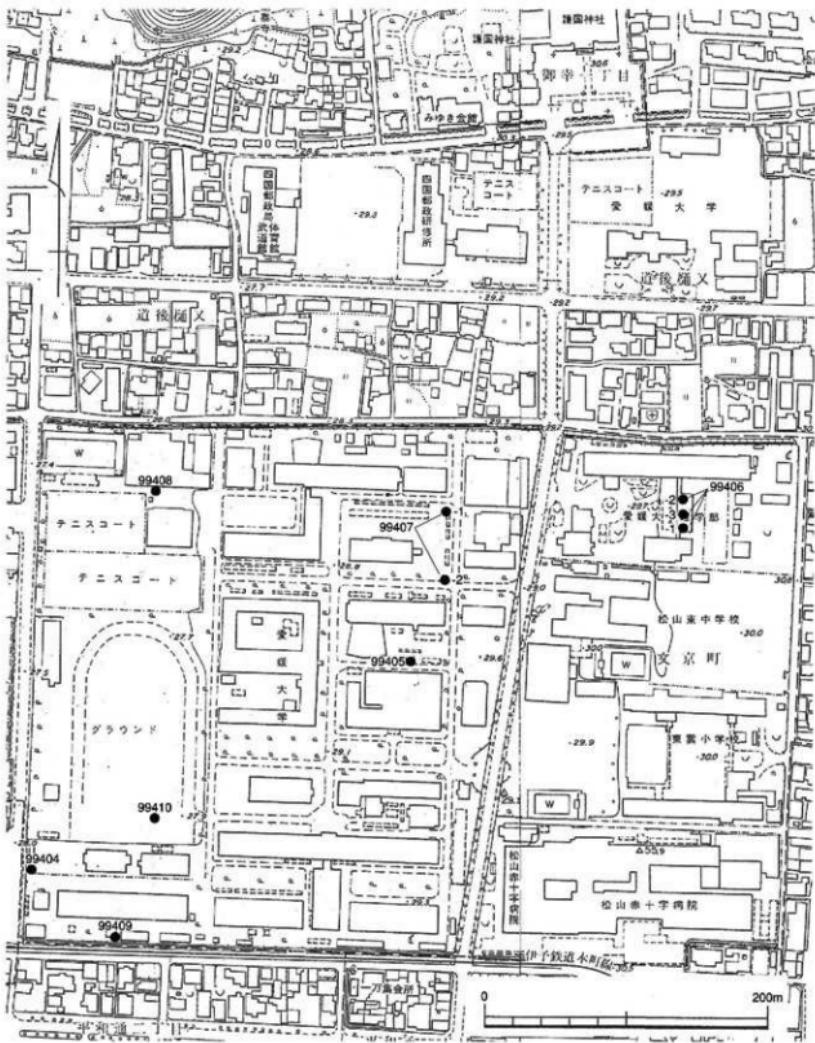


図69 1994年度 城北団地調査地点 (縮尺 1/3,500)

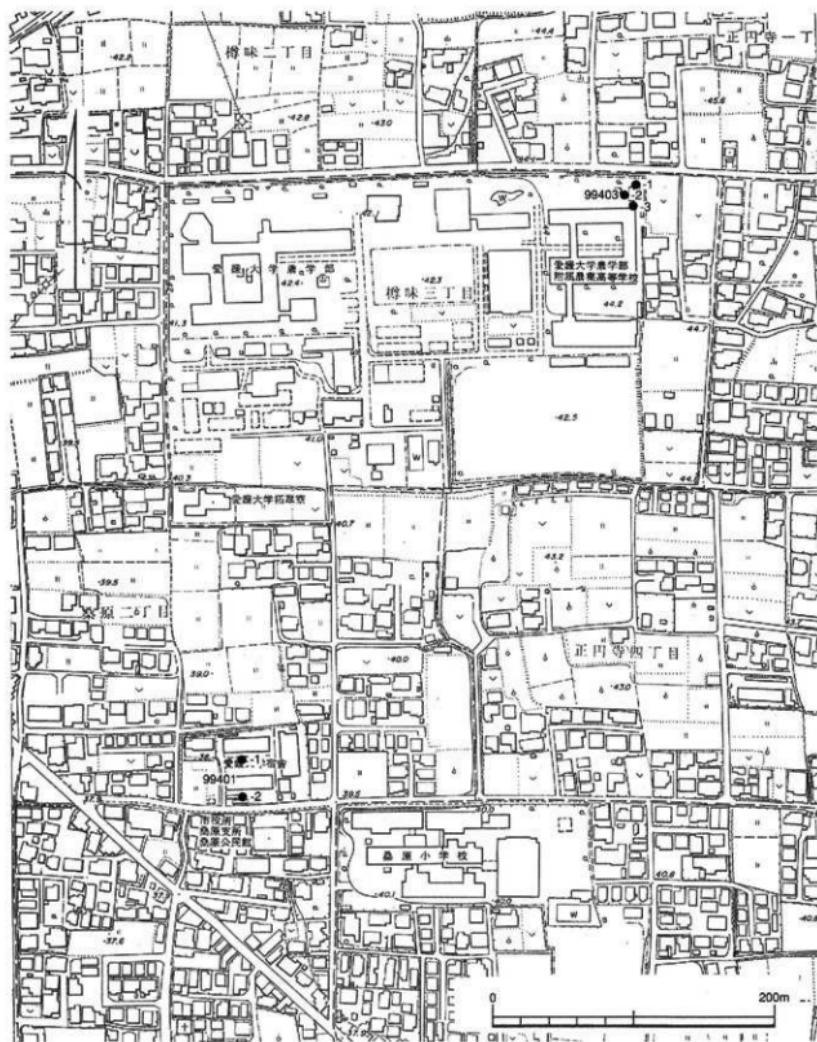


図.70 1994年度樽味・北吉井団地調査地点（縮尺 1/3,500）

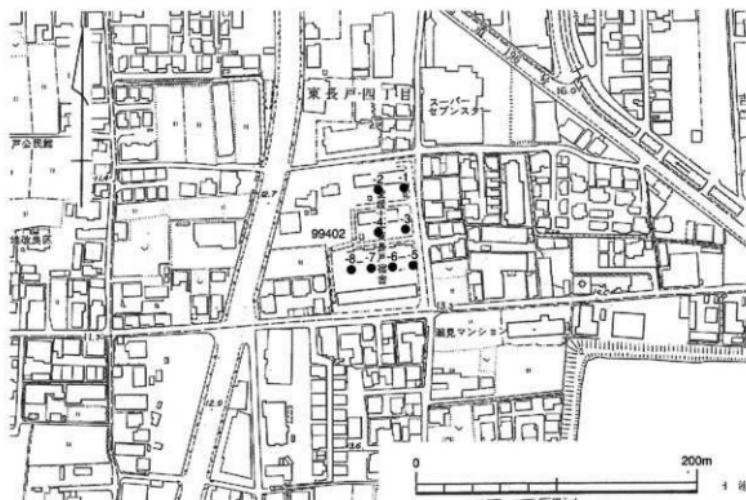


図.71 1994年度東長戸団地調査地点（縮尺 1/3,500）



図.72 1994年度津田山団地調査地点（縮尺 1/3,500）

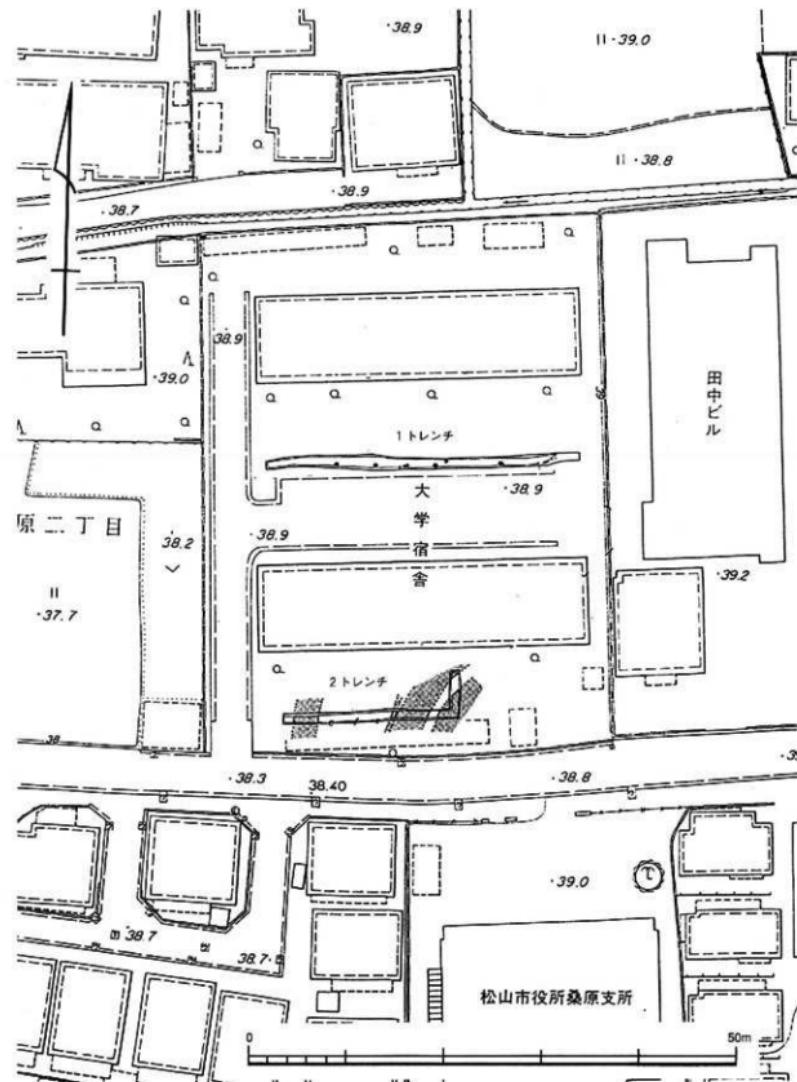


図.73 99401トレンチ位置図 (縮尺 1/500)



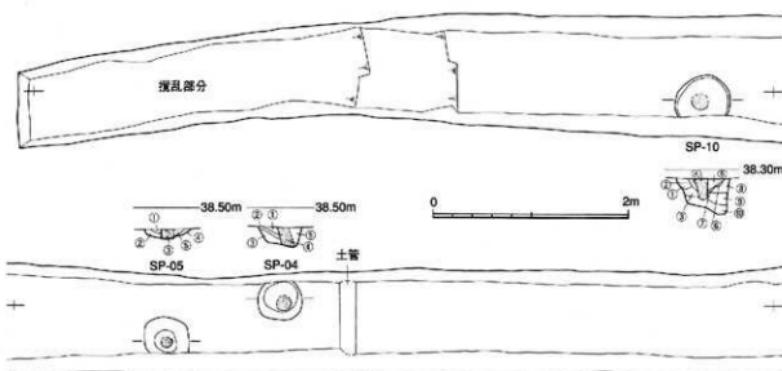
写真.56 99401-1トレンチ（東から）



写真.57 99401-2トレンチ（東から）



写真.58 99401-2トレンチ（北西から）



SP-03

① 黒色粘質シルトに褐色粘質シルトを多く含む。
② ①と同じ土質・土色であるが、炭化物を少量含む。
③ 黒褐色粘質シルトに褐色粘質シルトが混じり、一部薄いレンズ状ブロックとなっている。1cm大の炭化物が少量出土。
④ 黒色粘質シルトに褐色粘質シルトが多く混じる。土器細片が出土。

SP-04

① 黒色粘質シルトに暗褐色粘質シルトが少量混じる。
② 黒色粘質シルトに暗褐色粘質シルトの小塊が混じる。
③ 黑褐色粘質シルトで、純い黄褐色シルトの幅2cmほどのレンズ状ブロックが少量混じる。炭化物の細片が少量出土。
④ 柱痕跡。純い黄褐色シルトで、暗褐色シルトの小塊が少量混じる。
⑤ 黑色粘質シルトで、暗褐色や黒褐色の粘質シルトが散漫に混ざり込む。

SP-05

① 黒色粘質シルトで暗褐色粘質シルトの小塊が多い。
② 黒色粘質シルトで、暗褐色粘質シルトを少量含む。
③ 柱痕跡。黒色粘質シルト、暗褐色粘質シルトを少量含む。
④ 黑色粘質シルトで、暗褐色粘質シルトの小さな塊が多い。
⑤ 黑色粘質シルトで、暗褐色粘質シルトの小塊を少量含む。

SP-06

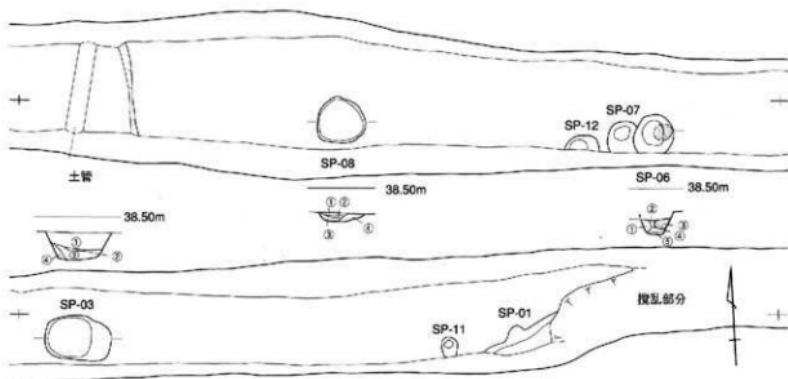
全体の土層に1cm大の炭化物をごく少量含む。
① 黒色粘質シルト、黒褐色シルトの小塊を少量含む。
② 黑色粘質シルト、暗褐色シルトの小塊が少々含む。
③ 柱痕跡。黒色粘質シルトで、暗褐色シルトを少量含む。土器片が出土。
④ 純い黄褐色砂質シルトに黑色粘質シルトの小塊を少量含む。
⑤ 黑色粘質シルトで、純い黄褐色砂質シルトが流れ込む。

図74 99401-1 トレンチ遺構実測図（縮尺 1/50）

は4層に細分でき、いずれもほぼ水平に堆積している。V-1層は黄褐色砂礫層。純い黄褐色シルトが混ざり合う。風化が進む花崗岩の円礫を多く含む。V-2層は純い黄褐色砂礫層。V-3層は灰黄褐色粗砂層。V-4層とは礫石をほとんど含まない点が異なる。V-4層は白色粗砂層で、礫石を多く含む。VI層は純い黄褐色粘質シルト質上層である。

IV層上面で検出した遺構は、1トレンチで柱穴を含む小穴11基、2トレンチで溝4条と柱穴を含む小穴3基である。出土遺物は、主として2トレンチの溝からコンテナ(容量 30%)2箱分が出土した。いずれも古墳時代6世紀後半の土師器・須恵器で、検出した遺構も当該期のものと考えられる。

1トレンチの遺構の中で、SP-01は溝または



SP-07

黒色粘質シルトを主体として、黒褐色粘質シルトの1cm層はどの薄いレンズ状ブロックが多く含まれる。土器細片が出土。

SP-08

土器の細片・炭化物細片が該らに出土。

①黒色粘質シルトで、純い黄褐色シルトの薄いレンズ状ブロックが多く含まれる。

②黒色粘質シルト。

③濃色粘質シルトで、純い黄褐色シルトのレンズ状ブロックが少量混じる。

④黒色粘質シルトで、純い黄褐色シルトの小塊が少量混じる。

SP-10

埋土には万遍なく1cm大の炭化物片が少量含まれ、土器の細片が出土。

⑤黒色粘質シルトで、純い黄褐色粘質シルトの小指先大の丸い塊が少量混じる。

⑥黒色粘質シルト。

⑦褐色粘質シルト。

⑧柱痕跡。黒色粘質シルトに、純い黄褐色シルトの小指先大の丸い塊が混じる。土器細片が出土。

⑨黒色粘質シルト。土器片が出土。

⑩⑪同質の土質。黒色粘質シルトで、黄褐色粘質シルトの塊が混じる。

⑫黒色粘質シルト、純い黄褐色粘質シルトの2cm大の塊を少量含む。

⑬黒色粘質シルトで、純い黄褐色粘質シルトの1cm大のレンズ状ブロックを少量含む。

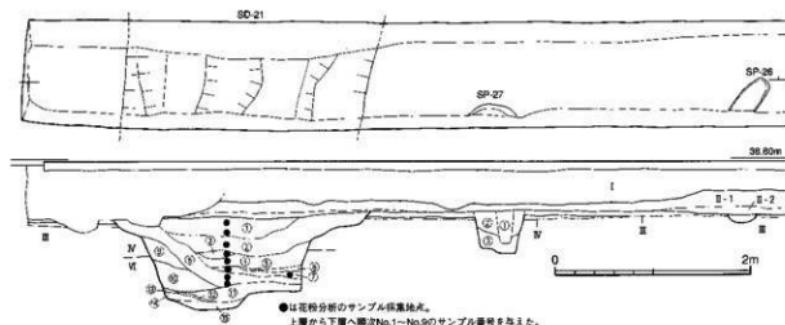
⑭黒色(7.YR1.7/1)粘質シルト。

土壤状の造構で、黒色～黒褐色粘質シルトの埋土をもち、小指先大の炭化物、土器の細片が出土した。SP-04～06・10では、枕もしくは柱の痕跡を確認した。SP-03・07～09・11・12は小穴で、SP-11・12の埋土は黒色～黒褐色である。SP-02は欠番である。

2トレンチでは、水路と考えられるSD-21～24の3条(SD-23・24は同一の溝と考えられ

る)、水路沿いの幅の狭い溝であるSD-28の1条、立柱痕跡をもつSP-27、小穴のSP-25・26を調査した。

SD-21の埋土上部はシルト質土で、VI層の純い黄褐色粘質シルトの塊が混じる。下底付近には流水によると考えられる縞状の砂疊層が堆積している。SD-22の埋土最下層にも流水による砂疊層が堆積する。埋土の中でも、図.75-①



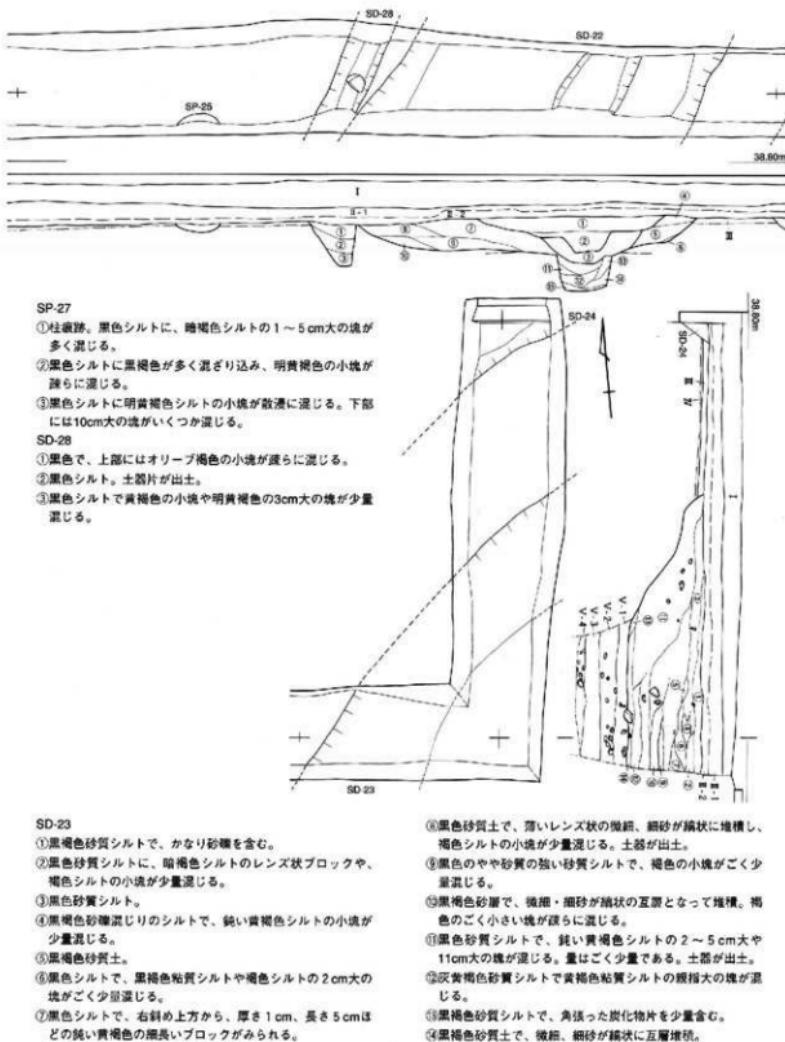
SD-21

- ① 黒褐色シルト。黄褐色シルトの小粒大の丸い、直徑2~3mmほどの塊をごく少量含む。
- ② 黒色シルト。①と比べてやや砂っぽい。鈍い黄褐色の小塊を疊らに含む。2~3mmの礫石が全体にごく少量混じる。土器の細片が出土。
- ③ 黒色シルトを主体に、鈍い黄褐色の小塊をごく少量含む。炭化物の細片がごく少量出土。
- ④ 黒色シルトで、黒褐色の2cm大の丸い塊をごく少量含む。土器片が出土。
- ⑤ 鮎褐色粘質シルトで、全体に黄褐色が強い。
- ⑥ 鮎褐色粘質シルトに、黒色が少し混ざり込む。
- ⑦ 黒色シルトに、鮎褐色の薄いレンズ状ブロックを含む。
- ⑧ 黒色のやや粘質の強いシルトで、褐色シルト質の小塊を少く含み、炭化物細片が疊らに出土。また、多くの土器片が出土。
- ⑨ 黒色シルトで、褐色シルトの小粒先大の丸い塊をごく少量含む。炭化物の細片が疊らに出土。土器片が出土。
- ⑩ 褐色砂質シルトを主体に、褐色の0.5cmの粒状ブロックを疊らに含む。土器片、炭化物片が疊らに混じる。
- ⑪ 黒褐色砂堆層。下部ほど砂質が強く、黒色の薄いレンズ状ブロックをごく少量含む。砾石、土器、炭化物片がごく少量出土。
- ⑫ 鮎褐色細砂質土で、5cm幅の薄いレンズ状ブロックを少く含む。下部から1cm大の角張った炭化物の塊が少量出土。
- ⑬ 鈍い黄褐色の細砂質土。
- ⑭ 黒褐色細砂質土。
- ⑮ 鮎褐色砂堆層で、鈍い黄褐色シルトの1~2cm幅の薄いレンズ状ブロックが多く混じる。

SD-22

- ① 黒褐色砂質シルトに黄褐色の小塊が疊らに混じる。
- ② 黒色砂質シルトに鈍い黄褐色の3cm大の楕円形の塊がごく少量混じる。
- ③ 黒褐色砂質シルトに明黄褐色の小塊がごく少量混じる。
- ④ 黑褐色シルト。
- ⑤ 鮎褐色砂質シルトに、黄褐色シルトの薄いレンズ状ブロックが多く混じる。
- ⑥ 鈍い黄褐色シルト。
- ⑦ 明黄褐色砂質シルトに明黄褐色の2cm大の塊が混じる。
- ⑧ 黒色砂質シルトに黄褐色シルトの5cm大の塊が混じる。
- ⑨ 黑褐色砂質シルトで明黄褐色の2cm大の楕円形の塊がごく少量混じる。
- ⑩ 黑褐色砂質シルトで黄褐色シルトの10cm大の塊が混じる。
- ⑪ 黑褐色シルト。
- ⑫ 黑褐色砂質シルトを主体として明黄褐色(10YR6/6)の小塊が疊らに混じる。
- ⑬ 黑褐色シルト。
- ⑭ 黑褐色砂質シルトに黄褐色の2cm大の丸い塊がごく少量混じる。
- ⑮ 鈍い黄褐色シルト。

図.75 99401-2トレンチ遺構・土層断面実測図（縮尺 1/50）



～⑦・⑨・⑩・⑪は、砂礫を多く含む砂質シルトで、IV層の黄褐色粘質シルトのブロックが混じる。土層の堆積状態から2度ほどの掘り直しを確認できた。SD-23は全体に砂質が強い埋土をもつ。いくつかの土層では、流水を物語る砂層が縞状に互層状態で堆積している。SD-28の埋土はシルト質土で、流水を示す砂層などは検出されなかった。この他、SP-27の立柱痕跡は平面で検出できず、土層断面で確認した。SP-25・26は黒色～黒褐色シルトの埋土をもつ。

今回は、北吉井団地における最初の発掘調査である。樽味遺跡3次調査や周辺の調査では、

古墳時代5～6世紀の竪穴式住居跡や掘立柱建物が調査されている。今回調査した遺構も、こうした古墳時代集落の一部と考えられる。



写真.59 99401-2 トレンチSD-23土層断面

99402 東長戸他環境整備(駐車場整備・配管設置)工事に伴う調査 (その2)

調査地点：松山市東長戸4丁目3番1号

東長戸団地(図.71)

調査面積：9m²

調査期間：1994年5月17日

調査の種別：立会調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄・高原美保

東長戸団地では、既往の発掘調査ではなく、埋蔵文化財の有無さえ把握されていない。しかし、団地敷地は、周囲の現水田面と比べて40～50cm高い。そのため、掘削面が浅い駐車場の舗装と排水管路部分の工事は、表土にあたる造成土までしかおよばないと判断した。しかし、駐車場整備に伴って埋設される排水管路の埋設部分には、現地表下1mまで掘削されるため、立会調査することとした(図.76)。

排水管路が設置される箇所は8ヶ所で、北側から1～8のトレンチ(地点)名を与えた。各地点ともに、以下I～V層の土層堆積が認められた(図.77)。

I層は造成土である真砂土層で、II層は造成以前の旧水田層で、各トレンチで確認した。II層は、II-1層の耕作土層と、II-2層の床上層に細分できる。

III層は遺物包含層で、1～4・6トレンチで調査した。5トレンチでは、III層はみられず、II-2層下には、後述するIV層が堆積している。7・8トレンチではIII層は確認できていない。III層は、上部の黒褐色粘質シルト層と、下部の極暗褐色シルト層に細分できる。上部をIII-1層、下部をIII-2層とした。遺物はIII-1層から土器が出土したが、器面の磨滅が著しい細片である。また、炭化物片が多く混じる。III-2層からは土器は出土しておらず、炭化物も少ない。

4・5トレンチではIII層の下層でIV層の砂礫層を確認した。IV-1・IV-2層に細分できる。IV-1層は暗褐色～鈍い黄褐色の砂礫が縞状の互層で堆積している。5トレンチでは、親指先大の円礫が混じる。IV-2層はオリーブ褐色の細砂層で、礫は含まれない。

団地全体での土層の堆積状況をみると、東南

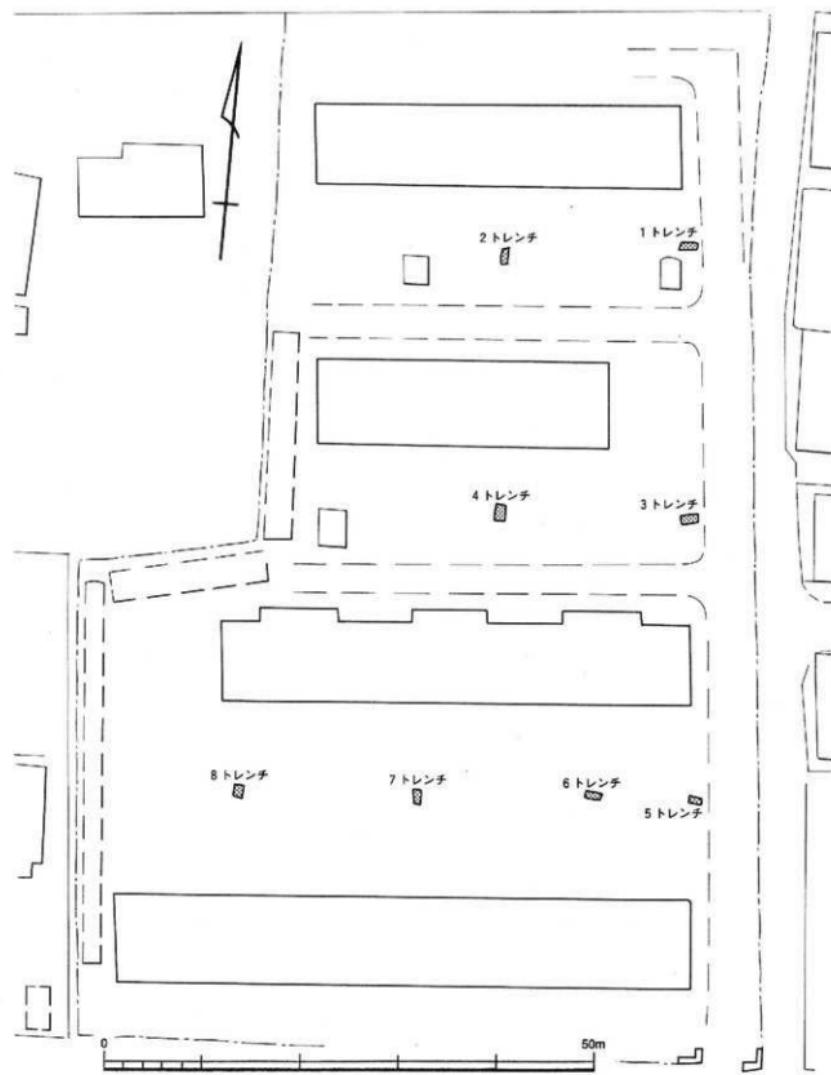


図.76 994021~8トレンチ位置図（縮尺 1/500）

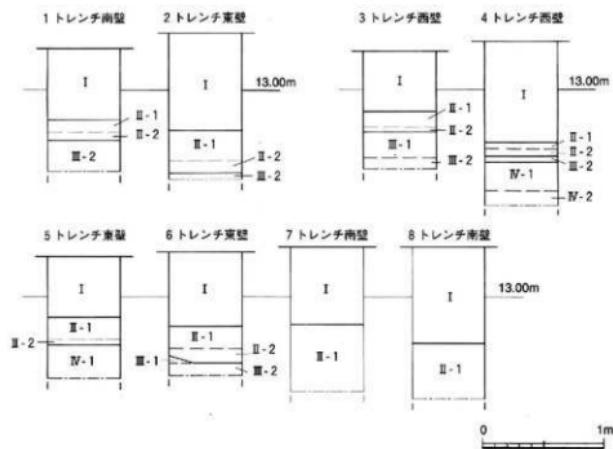


図.77 99402-1～8 トレンチ土層柱状図（縮尺 1/40）



部の1・3トレンチでは遺物包含層であるⅢ層が比較的厚く堆積し、2・4・6トレンチでは層厚は薄い。とくに、6トレンチではⅢ層の検出面は、他のトレンチと比べて低く、堆積も部分的である。また、南西部の7・8トレンチでは現地表下1.2mまで掘り下げたが、Ⅲ層は確

認できていない。以上から、東長戸団地の北東側からのびる微高地に遺物包含層が形成されていると考えられる。また、4・5トレンチで確認されたV層は河川堆積物である。微高地沿いの水利関連の遺構が営まれている可能性が残されている。

99403 榛味団地環境整備(附属農業高等学校他自転車置場取設) 工事に伴う調査

調査地点：松山市榛味町3丁目5番7号

榛味団地(図.70)

調査面積：7.8m²

調査期間：1994年5月24日

調査の種別：試掘調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄・高原美保

工事の対象地となった地点は、榛味団地の附属農業高等学校の北東角に位置し、周辺の既往の調査はない(図.5)。そのため、自転車置場整備に伴う排水管路と排水沟が設置される3ヶ所について、事前に試掘調査を実施して埋蔵文化財の有無を確認することとなった。工事の対象範囲は舗装もしくは植栽されており、間隙をぬって3ヶ所に試掘トレンチを設定した。各トレンチには北側から1～3の番号を付している。

序説で述べたように、榛味団地では既往の調査成果から、I～V層の基本層序を設定している。今回の調査では、1～3トレンチのいずれにおいても、表土層のI層と旧水田層のII層が確認できたが、II層の直下では、基本層序のIV層に対応する褐色シルト質土層があらわれ、遺物を包含するⅢ層はみられない。北側に隣接する水田面と比べて、工事対象地は50～80cmほど

低く、附属農業高等学校の敷地を造成する際に削平を受けたものと考えられる。

各トレンチの上層の特徴は、I層は表土層にあたる舗装部分(I-1層)、造成土部分(I-2層)、II層は造成以前の旧水田層である灰色系のシルト層である。IV層は褐色シルト質土層で、1トレンチでは下部が漸移的に同色の砂礫層に変化する。IV層の上面で精査したが、調査範囲が狭



写真.62 99403-1トレンチ (西から)



写真.63 99403-2トレンチ (東から)

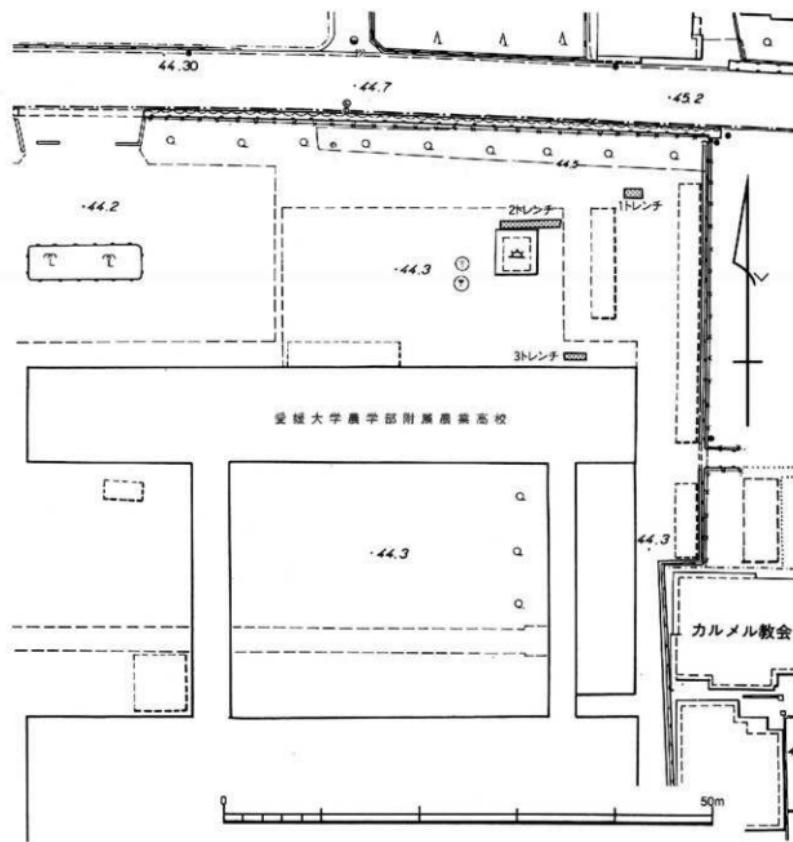
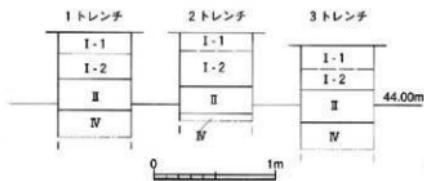


図.78 99403-1~3トレンチ位置図（縮尺 1/500）

図.79 99403-1~3トレンチ
土層柱状図（縮尺 1/40）

いこともあって、遺構・遺物ともに出土しなかった。しかし、工事対象範囲には遺構が残存している可能性も残っている。

そこで、調査終了後、施設部との協議を行い、

もっとも掘削面が深い排水管路と排水枠の掘削深度を、IV層上面があらわれる現地表下0.6~0.65mまでにとどめるとの設計変更を行うことで慎重工事を指示した。

99404 城北団地他環境整備(単車置場整備)工事に伴う調査

調査地点：松山市文京町3番

城北団地(図69)

調査面積：1.4m²

調査期間：1994年6月7日

調査の種別：立会調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄・高原美保

図版篇図幅：図幅24(1/4-25)

たが、調査範囲が極端に狭いために確証を得ることはできなかった(図80、写真64)。

今回の排水枠設置工事に伴う掘削面が、遺物包含層のⅢ層直上に設定されているので、埋蔵文化財への影響はないものと判断し、慎重工事を指示して調査を終了した。

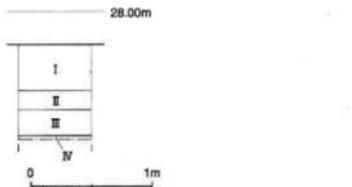


図80 99404土層柱状図(縮尺 1/40)

単車置場が整備される地点は、城北団地の西門に隣接する位置にある。工学部4号館の建設に伴って、70~100cmほど盛り土されている。単車置場の舗装工事に伴う掘削は20cmほどで、埋蔵文化財に影響ないものと考えられる。ただし、単車置場の西側に設置される排水管路部分は50cmほどの掘削が行われるため、この部分についてのみ立会調査を実施することとした。

表土層にあたる砂利および造成土のI層、造成以前の旧水田層であるII層を掘り下げ、現地表下55cmで遺物包含層にあたるIII層があらわれた。III層は暗褐色砂質シルトで、小さな炭化物片が多く含む。20cm以上の厚さが予想されたため、上下に人工的に分層しながら精査した。上部からは弥生時代中期後葉~末の臺・分銅形土製品、下部からは甕・壺などの胴部の細片が少量出土した。III層中に炭化物を含むことから、竪穴式住居跡などの遺構の埋土部分である可能性が強い。そこで、III層を掘り下げた後に、褐色砂質シルトのIV層上面で、遺構の検出を試み



写真64 99404 調査地点(東から)

99405 城北団地他環境整備(自転車置場設置)工事に伴う調査

調査地点: 松山市文京町3番

城北団地(図.69)

調査面積: 81.3m²

調査期間: 1994年6月8日

調査の種別: 試掘調査

調査担当: 田崎博之

調査補助: 宮崎直栄・高原美保

図版範囲幅: 図幅18(J4-20)

今回の自転車置場の設置地点は、城北団地中央部の東より部分である。周辺では松山市教育委員会による立会調査(調査番号: 98301)があるが、調査結果のデータが残されておらず、工事の直前に、試掘調査を実施することとした。工事部分である東西長32.5m、幅2.5mの範囲の中で、東西端の2カ所で、自転車置場の屋根の支柱を設置するために掘削する現地表下60cmまで掘り下げた(図.81、写真.65・66)。

I層の表土層にあたる造成土の下層からは、城北団地における基本層序のII層にあたる暗灰黄色～灰黄褐色の砂質シルト層があらわれた。とくに、西端部では、II層中に縞状にマンガンや鉄分の薄い集積層が観察された。幾層かの水田層が重なった土層群である。既往の調査では、II層の旧水田層の時期を出土遺物から判断できないでいたが、今回の調査でII層中位から近世～近代の染付碗破片などが出土し、近世以降の水田であることを確定できた。

II層は、西端部では現地表下0.95m前後まで続く。東端部では0.7m前後までII層がみられ、その下層は、暗灰色の粗細砂および小砾が縞状に互層堆積した砂礫層である。堆積状況から旧流路の堆積物と考えられる。流れの方向から3層に細分できるが、ほとんど質の変化はみられない。

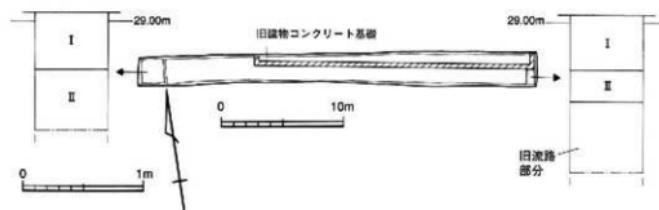


図.81 99405 トレチ実測図および土層柱状図 (縮尺 1/400・1/40)



写真.65 99405 調査区西端土層断面

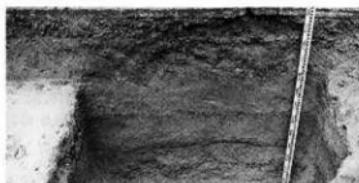


写真.66 99405 調査区東端土層断面

99406 城北団地他環境整備(自転車置場・排水管設置) 工事に伴う調査

調査地点: 松山市文京町2番

城北団地(図69)

調査面積: 5.3m²

調査期間: 1994年6月10日

調査の種別: 立会調査

調査担当: 田崎博之

調査補助: 宮崎直栄・高原美保

図版篇図幅: 図幅19(J5-16)

調査地点は城北団地地理学部敷地のほぼ中央に位置する。これまで理学部敷地内では、文京遺跡8次調査(調査番号: 98603)が行われている。その調査結果から自転車置場の整備工事について埋蔵文化財に影響がないものと判断できた。ただし、排水管路は掘削面が深いために、立会調査を実施することとした。

排水管路には両端の排水栓が設置される。そのため、南端部分を1トレンチ、北端を2トレンチとし、その中间の管路部分に3トレンチを設定した(写真67)。各トレンチとも擾乱が著しかったが、黒褐色の遺物包含層(Ⅲ層)が部分

的に残存していた。排水栓部分の1・2トレンチでは調査を続けたが、管路部分については、施設部との協議の上、掘削深度を遺物包含層(Ⅲ層)上面までにとどめることで、Ⅲ層上面を確認した段階で調査を終了した。

各トレンチの層序は、表土層にあたる造成土部分のⅠ層、造成以前の旧水田層であるⅢ層の下層、現地表下60cmで遺物を包含する黒褐色シルト層があらわれた。砂礫をほとんど含まない土層で、土器の細片がごく少量出土した。Ⅲ層の層厚は10~15cmほどで、その下層には、にぶい黄褐色シルト層が堆積している。城北団地における基本層序のⅣ層である。1トレンチの下層では、3~5cm大の花崗岩の円礫の集中する部分を挟み、部分的に細砂の小さく薄いレンズ状ブロックが混じる白っぽい砂質土層が確認できた。にぶい黄褐色シルト層をⅣ-1層、1トレンチの白っぽい砂質土層をⅣ-2層とした。Ⅳ-1層に縄文時代後期の遺物が含まれている可能性を考え精査したが、遺物は出土しなかった(図82、写真68~70)。

99407 城北団地他環境整備(排水栓及び管路取設) 工事に伴う調査

調査地点: 松山市文京町3番

城北団地(図69)

調査面積: 5.9m²

調査期間: 1994年8月1日

調査の種別: 試掘調査

調査担当: 田崎博之

調査補助: 宮崎直栄・高原美保

図版篇図幅: 図幅18(J4-20)

調査地点は、城北団地の北西部に位置し、学生部と教育学部4号館の間に位置する。計画されている排水管路の両端を事前に試掘調査した。北側の調査地点を1トレンチ、南側を2トレンチとした。1トレンチでは、現地表下60cm

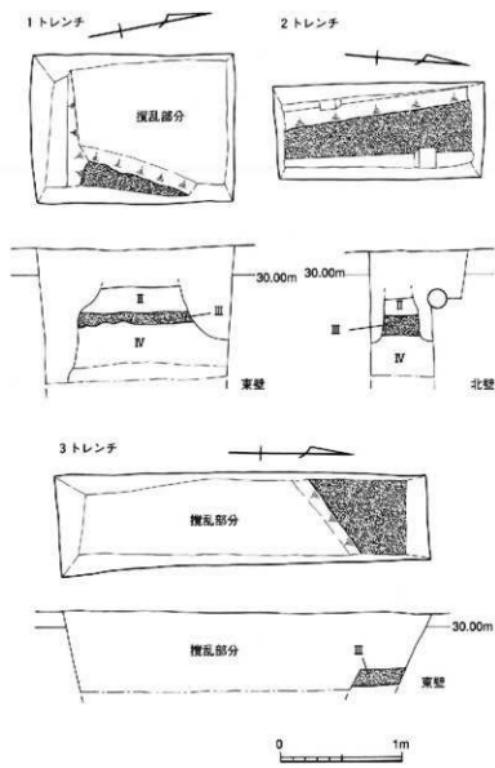


図.82 99406-1～3トレンチ実測図（縮尺 1/40）



写真.67 99406-1～3トレンチ



写真.68 99406-3トレンチ



写真.69 99406-1トレンチ土層断面



写真.70 99406-2トレンチ土層断面

で配水管、2トレンチでも40cmで電気通信線があらわれたため、掘削面が浅く変更されることになり、埋蔵文化財への影響がないと判断して調査を終了した。

ただし、1トレンチの北端を若干深く掘り下げた。その結果、表土層であるI層下に、黒褐色砂質土を確認した。鉄釘などが出土し、擾乱層と考えられる。さらに、現地表下63cmで、にぶい黄褐色砂礫層のIV層があらわれた。IV層に

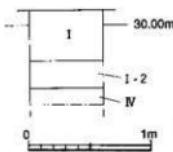


図.83 99407-1トレンチ
土層柱状図
(縮尺 1/40)

は、小さく破碎した花崗岩の小円礫が混じる(図.83)。

99408 城北団地他環境整備(電気配管路取設)工事に伴う調査

調査地点: 松山市文京町3番

城北団地(図.69)

調査面積: 3.2m²

調査期間: 1994年8月1日

調査の種別: 試掘調査

調査担当: 田崎博之

調査補助: 宮崎直栄・高原美保

図版篇図幅: 図幅18 (J4-20)

城北団地の北西部に位置する第1体育館前への電気通信線の設置が計画され、事前に試掘調

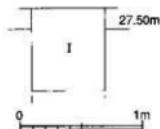


図.84 99408土層柱状図
(縮尺 1/40)

査を実施した。しかし、現地表下75cmまで造成土が堆積しており、さらに既設の電気通信線があらわれた(図.84)。そのため、掘削深度が変更されたので、調査を終了した。

99409 工学部岩盤切削試験機設置工事に伴う調査

調査地点: 松山市文京町3番

城北団地(図.69)

調査面積: 1.1m²

調査期間: 1994年9月27日

調査の種別: 立会調査

調査担当: 田崎博之

調査補助: 宮崎直栄

図版篇図幅: 図幅24 (J4-25)

調査地点は、城北団地の南西角近くに位置す

る。東側の文京遺跡5次調査地点(調査番号: 98401)の成果から、当該地点での遺物包含層の上面は現地表面下40cmより深いものと推測された。そこで、掘削面の深い電線埋設部分の立会調査を実施することとした。

表土部分の瓦礫と瓦礫上からなる造成土が厚く堆積し、造成土下には擾乱されたと考えられる砂礫混じりの褐色砂質シルトがみられる。造成土部分をI-1層、擾乱部分をI-2層とした。

電線の埋設工事に伴う掘削はI層中におさま

る。しかし、埋蔵文化財分布のデータをえるために、現地表下110~115cmまで深掘りを行い、遺物包含層であるⅢ層の上面を確認した。この地点では、Ⅲ層は暗褐色の砂質シルトである。Ⅲ層の上面を一部掘り下げたが、弥生土器の細片が少量出土した(図.85)。

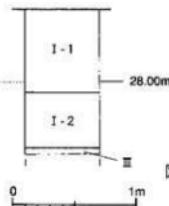


図.85 99409土層柱状図
(縮尺 1/40)

99410 工学部校舎新営(I期)工事に伴う調査(文京遺跡12次調査)

調査地点: 松山市文京町3番

城北団地(図.69)

調査面積: 1,183m²

調査期間: 1994年11月10日~1995年7月26日

調査種別: 全面調査

調査担当: 山崎博之

調査補助: 宮崎直栄・高原美保

図版篇図幅: 図版24(J4-25)

調査地点は、城北団地の南西部、工学部3・4号館の北側、運動場の南半部に位置する。工学部では、大学院博士課程の設置と研究施設の充実に向けて、実験研究棟を3期に分けて建設することになった。今回の調査は、その第I期工事に伴う調査である。事前試掘調査(調査番号: 99314)を1993年度に実施したが、Ⅲ層上面を検出した時点で、工事予定地には遺構が密集していることが予想された。調査結果では、予想に違わず、弥生時代中期後葉~後期中頃と古墳時代6世紀後半の竪穴式住居跡・掘立柱建物・貯蔵穴・溝・土壙などの遺構が幾重にも重なり密集する状況が確認できた(図.86、写真.71・72)。

時期別にみると、弥生時代の遺構には、竪穴式住居跡30棟、掘立柱建物5棟以上、貯蔵穴14

基、溝2条、大小の土壙60基以上がある。竪穴式住居跡には、直径5~6mほどの円形住居(写真.73)と、一辺3m前後の小型の方形住居(写真.74)が同時に営まれている。また、北側の3基の貯蔵穴からは大量の炭化米が出土した(写真.78)。貯蔵穴は、壁が倒壊すると、ゴミ穴に利用されており、大量の土器が出土している(写真.77)。掘立柱建物は1×2間で高床式倉庫と考えられる(写真.75・76)。この他、粘土を貯蔵した土壙(写真.80)などがある。出土遺物には、石包丁・打製石鎌・片刃石斧や土錐、鋸造鉄斧などがある。土器の中には、焼成時に粘土に含まれる構造水分が失われる際に、器面が破裂した痕跡をもつものや、破裂した土器剥片がみられる。

古墳時代(6世紀後半)の遺構は少なく、竪穴式住居跡2棟、溝2条などがある。調査区を東西に横断する溝には馬の下顎が投棄されていた(写真.81)。

遺構の分布状況から、集落は調査区の北側へ広がることが予想される。1996年度から実施されている工学部校舎新営II期工事に伴う文京遺跡14次調査では、より密集した状況で竪穴式住居跡などの遺構が調査されつつある。

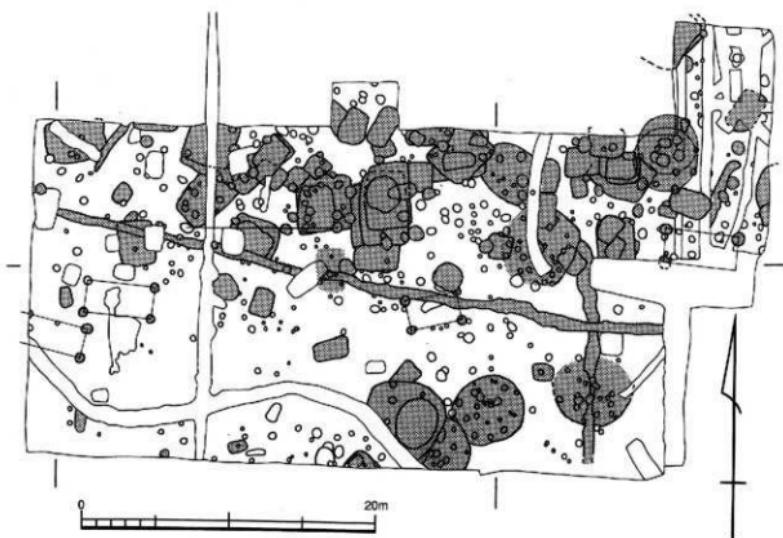


図.86 99410(文京遺跡12次調査)調査区全体図

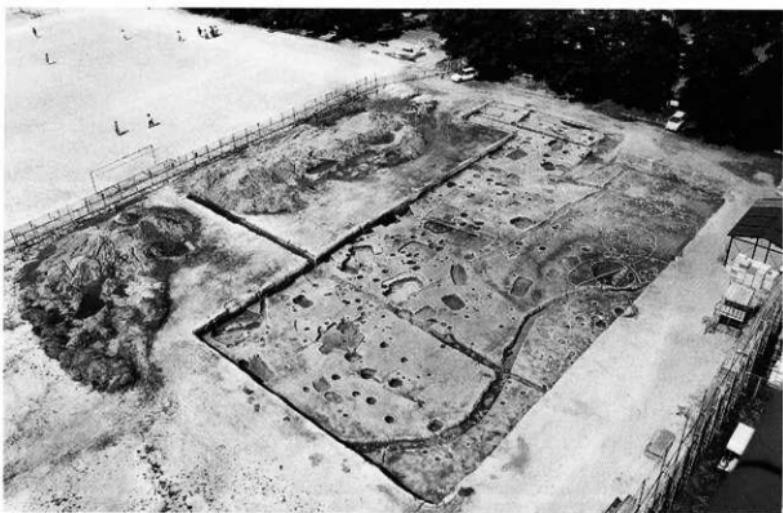


写真.71 99410(文京遺跡12次調査)調査区全景(南西から)



写真.72 99410(文京遺跡12次調査)調査区北半部の遺構の重複状況



写真.73 99410(文京遺跡12次調査)SC-27



写真.74 99410(文京遺跡12次調査)SC-62

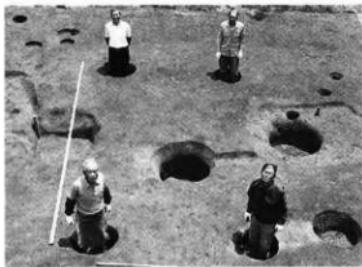


写真.75 99410(文京遺跡12次調査)掘立柱建物

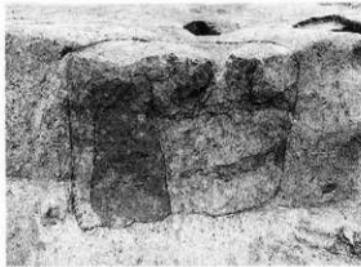


写真.76 99410(文京遺跡12次調査)掘立柱建物
柱穴断面



写真.77 99410(文京遺跡12次調査)SU-375



写真.78 99410(文京遺跡12次調査)SU-33



写真.79 99410(文京遺跡12次調査)SK-387



写真.80 99410(文京遺跡12次調査)SK-81



写真.81 99410(文京遺跡12次調査)SD-06
馬齒出土状況



写真.82 99410(文京遺跡12次調査)現地説明会

99411 教育学部附属養護学校野外施設(東屋)設置工事に伴う調査

調査地点：松山市北斎院町津田山

津田山団地(図.72)

調査面積：33m²

調査期間：1995年1月27日

調査の種別：試掘調査

調査担当：田崎博之

調査補助：宮崎直栄

附属養護学校の野外施設(東屋)が設置される予定地は、津田山団地の丘陵南斜面に位置する(写真.83)。工事に先立って、事前に試掘調査を実施することとした。まず、工事予定地の南北西部分に、丘陵斜面に平行する長さ5.5m、幅

1 mのトレンチを設定した。調査の結果、造構・遺物は出土しなかった。その後、工事予定地の全面を掘削面まで掘り下げ、造構がないことを確認し調査を終了した。

東南部のトレンチ壁では、以下の土層の堆積が観察できた(図.87)。表土層の①層は真砂土からなる造成土である。②層は灰色粘質土層で、土質は軟らかい。③層は暗黒褐色粘質土に和泉砂岩の小指大の角礫を多く含む。②・③層は丘陵斜面の流土部分と考えられる。④層は丘陵の岩盤にあたり、灰褐色粘質土に小指～拳大の和泉砂岩の角礫を多く含む。



写真.83 99411調査地点遠景（北東から）

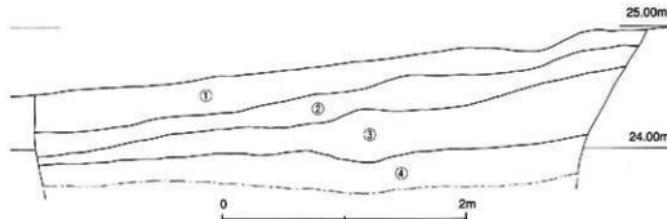


図.87 99411土層断面図（縮尺 1/40）

卷 末 表

1. 愛媛大学構内における調査一覧
 2. 道後・城北遺跡群における調査一覧
- 参考文献・註

1. 愛媛大学構内における調査一覧 (1997年3月現在)

調査番号	遺跡名 次数	所在地	工事調査名	調査種別	調査機関(調査担当者)	面積 (m ²)	調査期間	出版用図	参考文献
EU-97501	文京遺跡1次	城北	工学部海洋工学科新宿舎工事に伴う調査	全面	松山市教育委員会(西尾李則)	750	1975/8/01 ~1975/8/21	24	6
EU-98001	文京遺跡2次	城北	工学部資源科学科新宿舎工事に伴う調査	全面	松山市教育委員会(西尾李則)	600	1980/7/8 ~1980/9/30	24	23
EU-98101	文京遺跡3次	城北	法文学部校舎新宿舎工事に伴う調査	全面	松山市教育委員会(西尾李則)	800	1982/10/10 ~1982/10/25	24	23
EU-98301	文京遺跡	城北	雨水管・污水管・ガス管理設工事に伴う調査	立会	松山市教育委員会(西尾李則)	1,374	— 1983年	18	18・24
98302	文京遺跡	城北	教育部校舎建設工事に伴う調査	立会	松山市教育委員会(西尾李則)	18	1984/10/26 ~1984/10/28	24	23
EU-98401	文京遺跡5次	城北	工学部危険物貯蔵庫新宿舎工事に伴う調査	全面	長山市教育委員会(西尾李則)	—	—	—	—
EU-98601	文京遺跡6次	城北	城北地区基盤整備工事に伴う調査	全面	人間考古学研究室(下條吉行)	99	1986/10/00	18・24	21.
98602	文京遺跡7次	城北	法文学部校舎増築工事に伴う調査	全面	人間考古学研究室(下條吉行)	142	1986/6/600 ~1986/9/00	24	21.
98603	文京遺跡8次	城北	城北地区基盤整備事業に伴う調査	全面	人間考古学研究室(下條吉行)	854	1986/1/25 ~1987/2/18	19	18
98604	梅味遺跡	梅味	連合農学研究科新宿舎工事に伴う調査	試掘	人間考古学研究室(下條吉行)	5	1987/10/9	—	—
98605	庵子遺跡	庵子	国際交流会館新宿舎工事に伴う調査	試掘	人間考古学研究室(下條吉行)	47	1987/10/16	—	—
EU-98701	庵子遺跡1次	庵子	国際交流会館新宿舎工事に伴う調査	全面	周邊文化財調査室(宮本一夫)	962	1987/7/20 ~1987/9/20	16	本書5~8頁
98702	梅味遺跡	梅味	連合農学研究科新宿舎工事に伴う調査	試掘	周邊文化財調査室(下條吉行)	18	1987/8/20 ~1987/10/21	—	本書8~12頁
98703	桜味遺跡	桜味	附属小学校運動施設新宿舎工事に伴う調査	試掘	周邊文化財調査室(下條吉行)	6	1987/6/20	—	本書12・13頁

調査番号	通路名 次数	団地	1. 幹 調査 名	調査種別	調査機関(調査担当者)	面積 (m ²)	調査期間	出版 回数	参考文献
EU-98704	梅味道跡 1 次	梅味	通合農学研究科新庁舎新工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	684	19871028 ~19871217	16 本書13~15頁 本書15頁	
98705	文京道跡	城北	城北地区ゾール通り浮化装置増設工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	2	19871113	18	本書15頁
98706	文京道跡 9 次	城北	城北地区ゾール通り浮化装置増設工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	62	19880111 ~19880129	18 本書15~18頁	
EU-98801	文京道跡 10 次	城北	工部情報工学科舍新工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	1,075	19880119 ~19890303	24 本書19~24頁	
98802	文京道跡	城北	城北地区新横浜駅改築工事に伴う調査	試掘 試掘	埋蔵文化財調査室(宮本一夫) 埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	5 2	19881013 19881208	18·24 本書25頁 本書25頁	
98803	文京道跡	城北	工部情報工学科舍新工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	1	19881212	24	本書25頁
98804	文京道跡	城北	工部情報工学科舍新工事に伴う調査(その1)	立会	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	6	19890207	24	本書25~26頁
98805	文京道跡	城北	工部情報工学科舍新工事に伴う調査(その2)	立会	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	3	19890209 ~19890210	24 本書26頁	
98806	文京道跡	城北	工部情報工学科舍新工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	85	19890601 ~19890629	24	本書27~29頁 本書29頁
EU-98901	文京道跡 11 次	城北	法文学部附属養老身障者用高機能施設工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	2	19900315	24	本書30頁
98902	文京道跡	城北	城北川地外流導管工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(宮本一夫)	3	19900808	18·24	本書30頁
EU-99001	文京道跡	城北	城北附属幼稚園・及び教育学部自転車置場新設工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	506	19920107 ~19920228	28 本書30~33頁 本書33~34頁	
EU-99101	梅味道跡 2 次	梅味	農学部新分室新棟新工事に伴う調査	全面	埋蔵文化財調査室(下條信行)	13	19910618	13	本書34頁
99102		津川山	教育学部附属養老学校日常生活調査施設建設工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(下條信行)	36	19910821	18·24	本書35頁
99103	文京道跡	城北	城北地区周辺開発(Ⅱ期)改修及び外改修工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	6	19920626 19920730	19	本書35頁 本書35~38頁
EU-99201	梅味道跡	梅味	農学部屋外ガスストリーム改修工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	3			
99202	文京道跡	城北	城北地区東側開発改修工事に伴う調査	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)				

調査番号	選跡名 次数	田地	上事調査名	調査 種別	調査機関(調査担当者)	面積 (m ²)	調査期間	図版 図幅	参考文献	
EU-99203 99204	梅味遺跡	梅味 重信	附属図書館農学部附属新宿工事に伴う調査 (その1)	試掘 試掘 確認	埋蔵文化財調査室(出崎博之) 埋蔵文化財調査室(出崎博之)	1 3	1992/08/26 1992/08/26		本書38・39頁 本書39~42頁	
99205	山越		1992年度構内遺物確認調査(その1)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎裕之)	57	1992/08/28	2・5	本書42~45頁	
99206	梅味遺跡	梅味	農学部石器界地自販亭新設工事に伴う 調査(その1)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎裕之)	3	1992/09/1		本書46・47頁 本書47頁	
99207	梅味遺跡	梅味	黒字部石器界地自販亭新設工事に伴う 調査(その2)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎裕之)	2	1992/09/1			
99208 99209	文京遺跡 持田・岩崎遺跡	城北 持出	北四谷地外設施改修工事に伴う調査 教学校附属小学校給水設備工事に伴う調 査	立会 立会	埋蔵文化財調査室(田崎裕之) 埋蔵文化財調査室(田崎裕之)	2 11	1993/01/26 1993/01/26	18 32	本書47・48頁 本書48・49頁	
99210	東信		医学部附属病院駐車場取扱工事に伴う調査 1992年度構内遺物確認調査(その2)	試掘 確認	埋蔵文化財調査室(出崎博之) 埋蔵文化財調査室(出崎博之)	40 5.6	1992/10/27 1993/01/20		本書49~51頁 本書51~55頁	
99211			城北	城北4丁地古跡通信設備工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎裕之)	11.8	1993/03/08	24	本書55~57頁
99212	文京遺跡		医学部附属病院附属新宿工事に伴う調査 (その2)	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎裕之)	6.8	1993/03/22		本書57・58頁	
99213			柿谷団地日軒車庫取扱工事に伴う調査 調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎裕之)	33.3	1993/03/23		本書58・59頁	
99214	梅味遺跡	梅味	城北4丁地交通規制遮断機取扱工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎裕之)	2	1993/03/24	24	本書60頁	
99215	文京遺跡									
EU-99301 99302	重信 梅味遺跡	重信 梅味	医学部看護学校校舎新設工工事に伴う調査 附属図書館農学部分館新設工事(樹木移植)	試掘 立会	埋蔵文化財調査室(出崎博之) 埋蔵文化財調査室(出崎博之)	20 14	1993/05/24 1993/06/24		本書61~64頁 本書64~67頁	
99303 99304	梅味遺跡 梅味遺跡3次	梅味 梅味	農学部白金車庫取扱工事に伴う調査 附属図書館農学部分館新設工事に伴う調査	試掘 全面	埋蔵文化財調査室(田崎博之) 埋蔵文化財調査室(田崎博之)	80.8 258.5	1993/06/25 ~1993/06/23 ~1993/10/06		本書67頁	
99305	文京遺跡	城北	城北4丁地大学公認通り遮断機(樹木移植) 附属図書館農学部分館新設工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(出崎博之)	2	1993/11/09	18	本書67~69頁 本書71・72頁	
99306	梅味遺跡	梅味	工事に伴う調査 附属図書館農学部分館新設工事(外灯設置作業)	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	3	1993/11/24		本書72・73頁	
99307	梅味遺跡	梅味	城北4丁地地盤強化電気掘削工事に伴う調査 (その1)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	7	1993/11/24		本書73頁	

調査番号	調査名 火数	調査地	調査内容 名	調査 種別	調査機関(調査担当者)	面積 (m ²)	調査期間	国図 国編	参考文献
EU-99308	文京遺跡	城北 (その2)	城北防護地帯内鉄道電気設備工事に伴う調査	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	7.9	1993/11/25	24	本書73・74頁
99309	持田・岩崎遺跡	持田	1990年度熊内盆地電源開発調査 地盤文化財調査室(田崎博之)	確認	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	39	1993/12/24 ~1993/12/25	32・38	本書74~79頁
99310	文京遺跡	城北	城北防護地帯電源開発工事に伴う調査 地盤文化財調査室(田崎博之)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	3.7	1994/01/18 ~1994/01/19	24	本書79・80頁
99311	梅味遺跡	梅味	地学部附属開拓技術研究所(排水水管管理統)工事に伴う調査 地盤文化財調査室(田崎博之)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	19.8	1994/02/06 ~1994/02/15	本書80・81頁	4本書1頁
99312	梅味遺跡	梅味	農学部附属開拓技術研究所(白軒車置場)工事に伴う調査 地盤文化財調査室(田崎博之)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	29.7	1994/02/08 ~1994/02/08	24	本書82~85頁
99313	文京遺跡	城北	城北防護地帯電源開発(近外環境)工事に伴う調査 地盤文化財調査室(田崎博之)	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	14.8	1994/02/09 ~1994/02/10	24	本書82~85頁
99314	文京遺跡	城北	工学部研究実験棟の建設に伴う調査 地盤文化財調査室(田崎博之)	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	37.9	1994/02/29 ~1994/02/26	24	本書87頁
EU-99401	梅味・文京遺跡	北吉井	東長戸 東長戸(他)環境整備(駐車場整備・配管設置)工事に伴う調査(その1)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	54.5	1994/03/10 ~1994/03/13 ~1994/03/16 ~1994/03/18	本書88~90・ 92~96頁	本書88~90・ 92~96頁
99402	梅味遺跡	東長戸 東長戸(他)環境整備(駐車場整備)工事に伴う調査(その2)	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	7.8	1994/03/24	24	本書88~90・ 92~96頁	本書88~90・ 92~96頁
99403	梅味遺跡	城北	城北防護地帯電源開発(単立車置場整備)工事に伴う調査 地盤文化財調査室(田崎博之)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	1.4	1994/06/07	24	本書101~103頁
99404	文京遺跡	城北	城北防護地帯電源開発(単立車置場整備)工事に伴う調査 地盤文化財調査室(田崎博之)	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	81.3	1994/06/08	18	本書104頁
99405	文京遺跡	城北	城北防護地帯電源開発(単立車置場整備)工事に伴う調査 地盤文化財調査室(田崎博之)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	5.3	1994/06/10	19	本書105頁
99406	文京遺跡	城北	城北防護地帯電源開発(単立車置場整備)工事に伴う調査 地盤文化財調査室(田崎博之)	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	5.9	1994/06/01	18	本書105~107頁
99407	文京遺跡	城北	城北防護地帯電源開発(単立車置場整備)工事に伴う調査 地盤文化財調査室(田崎博之)	試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	3.2	1994/06/01	18	本書107頁
99408	文京遺跡	城北	上部岩盤削除施設設置工事に伴う調査 地盤文化財調査室(田崎博之)	立会	埋蔵文化財調査室(田崎博之)	1.1	1994/06/27	24	本書107~108頁
99409	文京遺跡	城北							

調査番号	道跡名	所在地	丁・半・調査名	調査種別	調査機関(調査担当者)	面積 (m ²)	測量期間	図版 図幅	参考文献
EU-98410 99411	文京道跡12次 津川山	城北 城北	丁字部校舍新宮(1期)に伴う調査 教育学部附属農業学科野外実験施設(東京)設置工事に伴う調査	全而 試掘	埋蔵文化財調査室(田崎博之) 埋藏文化財調査室(田崎博之)	1,183 33	1994/11/10 ~1995/07/26 1995/01/27	24 4書168~111頁 本書112頁	
	文京道跡	城北	教育学部池袋構内敷地移設工事に伴う調査	立会 試掘	埋藏文化財調査室(田崎博之)	48	1995/04/11 ~1995/04/12		
EU-98501 99502 99503 99504	文京道跡 文京道跡 文京道跡 文京道跡	城北 城北 城北 川越 城北	教育学部ニースコート(事務局北側)改修工事に伴う調査 工部局附属工事に伴う調査 理学部構内井戸工事に伴う調査 防災ネット取扱工事に伴う調査	立会 試掘	埋藏文化財調査室(田崎博之) 埋藏文化財調査室(田崎博之)	9	1995/08/01		
	文京道跡13次 梅味 梅味・桑原道跡 文京道跡 文京道跡	梅味 北吉井 城北 城北	農学部公芸下水桝取設工事に伴う調査 北吉井宿管公共下水桝取設工事に伴う調査 城北付近(西)通町門改修工事に伴う調査 城北付近(下水桝取設)工事に伴う調査	立会 試掘	埋藏文化財調査室(田崎博之) 埋藏文化財調査室(田崎博之)	3	1995/08/02		
99505 99506 99507 99508 99509 99510 99511	文京道跡 梅味道跡 梅味・桑原道跡 文京道跡 文京道跡 文京道跡	梅味 北吉井 城北 城北 城北	農学部公芸下水桝取設工事に伴う調査 北吉井宿管公共下水桝取設工事に伴う調査 城北付近(西)通町門改修工事に伴う調査 城北付近(下水桝取設)工事に伴う調査 城北付近(下水桝取設)工事に伴う調査	立会 試掘	埋藏文化財調査室(田崎博之)	4	1995/08/02		
	文京道跡 梅味道跡 梅味 梅味道跡 梅味道跡 梅味	梅味 北吉井 城北 城北 持田	農学部附属高等学校新宮工事に伴う調査 農学部附属高等学校新宮工事に伴う調査 ATMネットワーク工事に伴う調査 附属小学校がスケッチ、附属幼稚園電源改修工事に伴う調査	立会 試掘	埋藏文化財調査室(田崎博之)	7	1995/08/02 890	1995/10/17 ~1996/04/12	
EU-99601 99602 99603 99604 99605 99606	文京道跡14次 文京道跡15次 梅味道跡 梅味道跡 梅味道跡 梅味道跡	城北 城北 梅味 梅味 梅味 持田	上学部校舎新宮(1期)工事に伴う調査 1996年度櫛川遊歩道整備調査 農学部附属高等学校新宮工事に伴う調査 農学部附属高等学校新宮工事に伴う調査 ATMネットワーク工事に伴う調査 附属小学校がスケッチ、附属幼稚園電源改修工事に伴う調査	立会 試掘	埋藏文化財調査室(吉田秀夫) 埋藏文化財調査室(田崎博之)	1,249 225	1996/05/20 ~1997/03/31 1996/11/13 ~1996/12/20		
	文京道跡 梅味道跡 梅味道跡 梅味道跡 梅味道跡 梅味道跡	梅味 梅味 梅味 梅味 梅味 梅味	農学部附属高等学校新宮工事に伴う調査 ATMネットワーク工事に伴う調査 附属小学校がスケッチ、附属幼稚園電源改修工事に伴う調査	試掘 試掘 試掘	埋藏文化財調査室(田崎博之) 埋藏文化財調査室(田崎博之)	21.7 5 1 3.6	1996/11/28 ~1996/12/11 1996/11/29 1997/02/01		

2. 道後・城北遺跡群における調査一覧 (1994年6月までの松山市教育委員会・埋蔵文化財センター、愛媛県埋蔵文化財センターの調査一覧)

調査番号	遺跡名	所在地	調査種別	調査概要	国版監査帳	参考文献
MC-47003	東雲遺跡	丸之内、東雲神社境内	一	後世の心境と神社による禮品が著しいが、弥生時代中期の円形土器を確認。学生上器の中には鶴の線刻画あり。S.48に松山市が購入。→E.P-0891に対応。	30	13 15
MC-48004	綾白遺跡	道後緑台10番地	立会	「綾白遺跡」、弥生時代の夥々火候・遺物が出土。遺物にはは宝生時代中明の壺が完形品を含めて11点ある。	13-14	
MC-50005	文京遺跡 1次	文京町3番、愛媛大学構内	全面	「袖火元縄文式立陶・遺物包合地(文京遺跡)」、弥生時代中期後葉を中心とする堅穴式立陶・土器などを露呈。→EU-U-97501に対応。	24	6
50007	文京遺跡	文京町1番、日本赤十字病院	全面	「袖火元縄文式立陶・遺物包合地(文京遺跡)」、弥生時代の遺物包合層を解説。溝・柱穴を削除。出土遺物には焼付土器がある。	25	15
MC-52003	松山城跡	城之内13、国立病院四国幹セナ附属高等学校・倉庫、城之内13、国立病院四国幹セナ	立会	「堀之内遺物包合地」、レンチ調査が実施されたが、調査の詳細なデータは不明。	28	
52007	松山城跡	松山城跡	立会	「堀之内遺物包合地」、松山第22連隊兵営施設によって、大きく擾乱を受け、松山城跡周辺の遺構・遺物は出土していない。	28	
MC-53004	松山城跡	城之内13、国立病院四国幹セナター、受水槽・汚物処理槽	立会	「堀之内遺物包合地」、調査データの詳細は不明。	28-34	
MC-54002	松山城跡	大街道3-1-2番地24、松山東	立会	調査データの詳細は不明。	30	
54003	松山城跡	美学校園内	立会	「堀之内遺物包合地」、調査データの詳細は不明。	28	
MC-55005	文京遺跡 2次	文京町3番、愛媛大学構内	全面	「袖火元縄文式立陶・遺物包合地(文京遺跡)」、弥生時代中期後葉などを露呈。→EU-U-98001に対応。	24	23
MC-56010	カキツバタ遺跡	若草町	立会	「若草町遺跡」、弥生時代後期～山崎時代前期の遺物層・遺物包合層を確認。他に十器蓋・鉢など・匂工丁が出土。	28	15
56013	文京遺跡 3次	文京町3番、愛媛大学構内	全面	「袖火元縄文式立陶・遺物包合地(文京遺跡)」、弥生時代中期後葉～後期の堅穴式立陶・円形周溝・土壙などが出土。また7件調査で確認された掘立柱建物が調査区両端で確認されている。→EU-U-98101に対応。	24	23

調査番号	遺跡名	所在地	調査種別	調査全般要	国版縮図幅	参考文献
MC-57034	文京遺跡4火	文京町2番2号、松山東中学校 敷地内	全面	「鍋又(元鍛冶場)遺物包含地(文京遺跡)」、後生時代初期の盛況型土器群、山頂時代後期の自然地路を調査。出土品は長持型など、開窓からは鍋又時代中期の十器片が探査されている。	19	24
57013	松山城跡	御幸1丁目53-1、松山人材 場之内13-2、内立病院四山沿 岸、公務員宿舍	踏査	=「櫛之内遺物包含地」、調査データの詳細は不明。	11	
57021		立会			28-34	
MC-58007	近後鷺町634-1、祝谷東町 441-6	立会	遺跡・遺構は出土しなかった。		15	
	山越遺跡	立会	=「山越遺物包含地」、調査データの詳細は不明。		8	
	文京遺跡	試掘	調査データの詳細は不明。		23	
	58016	立会	=「鍋又(元鍛冶場)遺物包含地(文京遺跡)」、調査データの詳細は不明。 → EU-98301と対応する。		18-24	
	58017	立会	=「鍋又(元鍛冶場)遺物包含地(文京遺跡)」、調査データの詳細は不明。 → EU-98302と対応する。		18	
	58027	立会	=「山越遺物包含地」、調査データの詳細は不明。		5	
	文京遺跡	立会	=「鍋又(元鍛冶場)遺物包含地(文京遺跡)」、遺構・遺物は出土しなか つた。 → EU-98402		18-19	
59003	姫原遺跡	立会	=「姫原遺物包含地」、調査データの詳細は不明。		3	
59006	上層の段遺跡	立会	調査データの詳細は不明。		26	
59007	文京遺跡5火	立会	=「土台の段遺物包含地」、調査データの詳細は不明。		15	
59008	59009	立会	=「鍋又(元鍛冶場)遺物包含地(文京遺跡)」、出土物中間後業の笠穴 式住居跡(?)・古墳時代後期の盛況型土器群(?)・獨立柱遺物を調査。		24	
59033	松山城跡	立会	=「櫛之内遺物包含地」、松山第2土塁の兵營施設跡跡壁に大きくなびく壊乱 現象体と2.3m前後で黒色土塁を確認した。		34	
59035	松山城跡	試掘	松山本丸に開溝する世物跡と礫石列を確認。他に後期の遺物あり。		29	
5900A	平和通り遺跡	全面	後生時代中期の遺物包含層には後期の遺物あり。		24	
MC-5900B	松山城跡	丸之内	遺構は未確認。		15	
		全面	松山城二ノ丸跡。		29-35	13

調査番号	遺跡名	所在地	調査種別	調査概要	図版図幅	参考文献
MC-60029 60056	松山城跡 松山城跡	堺之内3-1、国立病院附属大 学之内、県民施設汚水管路 之内、堺之内汚水管路	立会 試掘	=「堺之内遺物包含地」、調査データの詳細は不明。 =「堺之内遺物包含地」、調査トレンチの位置を示すデータはないが、 見地表下70~100cmに松山城22連隊兵営施設跡の造成と考えられる瓦 片を多く含む茶褐色土層がみられる。その下位、100~150cmには、 安定した茶褐色土層が堆積している。	28 34	
MC-61002 61030	松山大学構内遺跡 1火	遺後鷺谷町421-3 清水木町3丁目2-2、松山大学 法学部校舎	立会 試掘	調査データの詳細は不明。 =「堺又元禄兵場」遺跡は本標記であるが、出土土器・中世の陶磁器類 が出土した。	15 15	
MC-62009 62040 62045 62047 62064 62061 62067 62083	松山城北郭遺跡 山越遺跡 山越遺跡 (文京遺跡) 道後城北RNB遺 跡 道後今市遺跡 道後湯ノ川町甲1669-3	平和通り4丁目1-6 山越2丁目12-20 山越1丁目591-20 清水木町1丁目8-53 道後鷺谷又6-24 道後多賀町7-26 道後一方787-72 道後湯ノ川町甲1669-3	全面 立会 立会 立会 全面 立会 立会 立会	松山城北郭ノ第に開墾する石垣を確認。 =「山越遺物包含地」、調査データの詳細は不明。 =「山越遺物包含地」、調査データの詳細は不明。 =「堺又元禄兵場」遺跡包含地(文京遺跡)、調査データの詳細は不明。 =「堺又元禄兵場」遺跡包含地(文京遺跡)、古墳時代の溝、縄文時代 ～弥生時代初期と縄文時代後期の遺物包含層を同定。 調査データの詳細は不明。 =「今山」遺物包含地の詳報は不明。 =「今山」遺物包含地(山越まで造成がかかり、遺構・遺物は出土して いない)。	23 8 9 23 18 15 25 21	17 17 17 17 17 17 17 17
62086 62101 6200A	(桜谷遺跡) 松山城跡 道後鷺谷遺跡	桜谷2丁目4-29 堺之内17有地 道後鷺谷町5-32	立会 試掘 全面	調査データの詳細は不明。 =「堺之内遺物包含地」、調査データの詳細は不明。 =「堺之内遺物包含地」、遺物包含層を調査。土壌からは木製の軸・ 竹筒から出上。包含層からは、弥生時代前半～後期後半の 土器・人面形土器・石盤・石斧・砾石・門石が出土。この他に、 古墳時代の須恵器・土師器・中世の黒色土器・近世の土器皿等 がある。	14 15 30	14 28-34 15
MC-63004 63007	山越遺跡 若草町遺跡1次	山越1丁目323-11-16 若草町8番地、Ⅱ国野所有地内	立会 全面	=「山越遺物包含地」、調査データの詳細は不明。 =「堺之内時代後期後半～終末の媒介式土器・漆器・漆器裏・前方後方形や円 形の周溝群・土壠・古墳時代前半の堅穴式住居跡・溝・「環など」を 調査。円形周溝SD-102に調査されたSK-03から並列具体式新帝鏡、 SK-57から小型防護鏡が出土。	8 22	17 21

調査番号	遺跡名	所在地	調査種別	調査概要	調査範囲幅	参考文献
MC-63018	道後今市遺跡	道後今市998-6-9	立会	=「今市遺物包含地」、調査アーダの詳細は不明。参考文献ではMC-63017で記載。	20-26	17
63027	道後今市遺跡	道後今市1049-2	立会	=「今市遺物包含地」、調査データの詳細は不明。参考文献ではMC-63023で記載。	25	17
63038	山越遺跡	山越1丁目317-9	立会	=「山越遺物包含地」、調査データの詳細は不明。参考文献ではMC-63034で記載。	8	17
63075	山越遺跡	山越1丁目274-9	立会	=「山越遺物包含地」、調査データの詳細は不明。参考文献ではMC-63069で記載。	8	17
63100	山越遺跡2次	山越1丁目314-1、315-1、316-1	全面	=「山越遺物包含地」、弥生時代～山崩時代の跡が発見されている。SD 02からは、弥生時代前半中期の土器と併せて、木製の平止・縫織機遺物が出土した。	8	27
63104	道後今市遺跡6次	道後今市1053-1	立会	=「今市遺物包含地」、古墳時代中期後葉の土器・石臼・古墳時代後期6世紀代の須世器が出土。	25	24
63109	山越遺跡1次	山越1丁目13-5、267-1	全面	=「山越遺物包含地」、弥生時代前期とを考えられる土器、山崩時代中期の多穴式住居跡・掘立柱建物などが調査された。	8	27
63128	道後今市遺跡	道後今市1023-2	試掘	=「今市遺物包含地」、調査アーダの詳細は不明。	20	20
63141	緑台遺跡	道後緑台1-1	試掘	=「緑台遺物包含地」、須世器が出土。	21	21
63147		道後緑谷町121-122-123-124	立会	=「今市遺物包含地」の詳細は不明。		
MC 01014	山越遺跡3次	山越1丁目268-1	全面	=「山越遺物包含地」、弥生時代の土器、時期不明の構造物が調査されている。	8	27
01015	土山洋遺跡	道後緑台9-1'29	試掘	=「土山遺物包含地」、上塙・遺物包含層を確認。弥生土器・気泡器・丸が出土。	14	21
01017	今市遺跡	道後北代1271-3	試掘	=「南又・元柳兵庫」遺物包含地(文京遺跡)、土軸器・瓦器が出土。	19	21
01019	松山大学附小遺跡 2次	文京町4-10、4-2、清水町 2丁目14-3	全面	=「生野・前原前半～中頃の堅穴式住居跡・掘立柱建物・自然道路など」を調査。	17	20
01039		桜前町5-7丁目1-6、味酒公民館敷地	-	=「桜前町外」。調査アーダの詳細は不明。	16	21
01085	十石塚遺跡	桜谷1丁目298	立会	=「桜谷遺跡」、調査データの詳細は不明。	14	21
01088	船原遺跡	船原1丁目230-2	試掘	=「船原遺跡」、須世器が出土。	3	21
01090	道後鶴谷遺跡	道後鶴谷町5-32	試掘	=「近世の土器、柱穴・遺物包含層を確認。十石塚が出土」。	15	21

調査番号	遺跡名	所在地	調査種別	測量概要	図版番号	参考文献
MC-01105 01127 01137 01139 01155 01156	山越遺跡 道後今山遺跡 道後今山遺跡 道後北代遺跡 道後今山遺跡 松山城跡	山越1丁目339-2 道後今市1051-1、1054-5 道後櫛又遺跡 山越2丁目34 山越3丁目52-1	試掘 試掘 試掘 試掘 試掘 試掘	「山越遺跡包含地」、調査データの詳細は不明。 =「今山遺跡包含地」、調査データの詳細は不明。 =「今山遺跡包含地」、調査データの詳細は不明。 =「北代遺跡包含地」、調査データの詳細は不明。 =「今山遺跡包含地」、調査データの詳細は不明。 =「場之内遺跡包含地」、調査データの詳細は不明。	8 20 20-26 19 25 28	21 21 21 21 21 21
MC-02002 02017 02020	山越遺跡 道後今市遺跡 道後櫛又遺跡	山越1丁目339-2 道後今市1051-1、1054-5 道後櫛又遺跡 山越2丁目34 山越3丁目52-1	試掘 試掘 試掘 試掘 試掘 試掘	「山越遺跡包含地」、調査データの詳細は不明。 =「山越遺跡包含地」、調査データの詳細は不明。 =「山越遺跡包含地」、調査データの詳細は不明。 =「山越遺跡包含地」、調査データの詳細は不明。 =「山越遺跡包含地」、調査データの詳細は不明。 =「山越遺跡包含地」、調査データの詳細は不明。	9 19 19 17 5 3	21 21 21 21 21 21
02024 02028 02030	道後櫛又遺跡 山越遺跡 影浦古墳	清水町2丁目21-5-7 山越2丁目34 山越3丁目52-1	試掘 試掘 試掘	「山越遺跡包含地」、6世紀頃前半の櫛穴土器部と する山埴3点を調査。1号埴輪からは筒形埴輪、形束埴輪(削)がH上。 2号埴輪は楕円穴式(削)に小石窓が並列して構築。埴輪には箱式石棺 が含まれる。他に、弥生時代中期の土器を確認。	17 5 3	25
02034	道後今市遺跡	道後今市1065-5	全面	「今山遺跡包含地」、先秦時代中期～近世時代の自然遺物を調査。 流域内からは生糸時代前半中頃の大體遺物が出土している。	19	24
02060 02060 02067 02068 02069	山越遺跡 道後櫛又3-3(追後) 松山大学構内遺跡 松山大学構内遺跡 松山大学構内遺跡	山越1-6丁目(追後) 文京町4-2、松山大学構内 文京町4-2、松山大学構内 文京町4-10、松山大学構内 3次	立会 立会 試掘 試掘 全面	「山越遺跡包含地」、調査データの詳細は不明。 =「櫛又(元櫛兵地)遺物包含地(文京遺跡)」、調査データの詳細は不明。 =「櫛又(元櫛兵地)遺物包含地(文京遺跡)」、調査データの詳細は不明。 =「櫛又(元櫛兵地)遺物包含地(文京遺跡)」、調査データの詳細は不明。 =「櫛又(元櫛兵地)遺物包含地(文京遺跡)」、弘生時代の自然流跡、 生糸時代後期長～古墳時代初期の櫛穴式住居跡、津、土壌、古 墳時代中期～後期の櫛穴式住居跡、津、山墳時代後期の櫛穴式住 居跡を調査。	8 19 18 18 17	21 21 21 21 35
02076 02077	松山城跡 松山城跡	堀之内13-1、国立病院四国医 セセンター、マウロの池 堀之内13-1、国立病院四国医 セセンター、受電桟	—	=「松山城跡指定区域」、調査データの詳細は不明。 =「松山城跡指定区域」、柱穴、遺物包含層を確認。弥生土器・須 恵器・陶磁器などが出土。	28 22	28 22

調査番号	遺跡名	所在地	調査種別	調査概要	図版編図幅	参考文献
MC-03009 03010 03011 03014 03034 03039 03049	(祝谷遺跡) 山越遺跡 山越遺跡 緑台遺跡 道後今市遺跡9次	桜谷2丁目3-9 山越1丁目18-8 後後桶又1-36、3-3(造跡) 山越2丁目10-26 造後桶白325-3 道後比代272-1・4・5・7	立会 試掘 試掘 試掘 試掘 試掘 試掘	調査データの詳細は不明。 =「山越遺物包含地」、調査データの詳細は不明。 =「緑台遺物包含地」、調査データの詳細は不明。 =「緑台遺物包含地」、標高33.3mから1m下位まで水田層がみら れるが、遺物は出土しておらず、時期は不明。 =「北代遺物包含地」、山穴・廻遊跡・水出跡を調査。 =「北代遺物包含地」、山穴・廻遊跡・水出跡を調査。 =「北代遺物包含地」、山穴・廻遊跡・水出跡を調査。	14 8 18 5 20 19 30	22 22 22 22 22 22 22
03058 03060 03083 03088 03100 03122 03125 03129 03131 0300A	道後北代遺跡 板原遺跡 道後北代遺跡 姫原遺跡 道後北代遺跡 道後今市遺跡 板原遺跡 道後北代遺跡 松山城跡	道後北代10-33 山越3丁目75-8 道後北代1288-7・8 姫原246-1・1046-2 道後町173-1 後町2丁目889-1 清水町2丁目20-1 山越3丁目15、NTT山越4 道後北代32-10 堀之内、国立学園前山地内	試掘 試掘 試掘 試掘 試掘 試掘 試掘 試掘 試掘 試掘	混じる砂礫層が堆積する。 =「北代遺物包含地」、遺構・遺物出土なし。十層データあり。 =「新原包含地」、遺構・弦状・弦層・弦層出土なし。十層データあり。 =「新原包含地」、遺構・遺物出土なし。十層データあり。 =「新原包含地」、遺構・弦状・弦層・弦層出土なし。十層データあり。 =「北代遺物包含地」、遺構・遺物出土なし。上層データあり。 =「今市遺物包含地」、中世(?)の土器群出土。十層データあり。 =「福又(元)練兵場遺跡包含地」(文京遺跡)、調査データの詳細は不明。 =「東原包含地」、調査データの詳細は不明。 =「北代遺物包含地」、遺構・遺物出土なし。十層データあり。 =「堀之内遺物包含地」、H3.2-21・3-6調査、窓石データの詳細は不明。	13 3 19 3 3 14 26 17 3 13	22 22 22 22 22 22 22 22 22 28
MC-04001 04016 04035 04036 04042 04073 04086 04088 04094	道後北代遺跡 道後今市遺跡 道後北代遺跡 (祝谷遺跡) 道後今市遺跡 (文京遺跡)	道後比代9-5 道後今市9-24 道後北代2-24 桜谷2丁目乙33-2 道後今市8-32 清水町2丁目20-6 桜谷東町乙77-1-2・5・平 441-19-63 山越1丁目588-1 岩草町8-2	試掘 試掘 試掘 試掘 試掘 試掘 跡査 試掘	=「北代遺物包含地」、遺構・遺物出土せず。土層データあり。 =「今市遺物包含地」、遺構・遺物出土せず。土層データあり。 =「北代遺物包含地」、中世の遺物包含層と遺構を確認。また繩文 土器が出土。十層データあり。 =「堀之内遺物包含地」、中世(?)の土器群出土。十層データあり。 =「福又(元)練兵場」遺物包含地(文京遺跡)、遺構・遺物は出土して いない。十層データあり。 =「土居の段遺物包含地」、削平が著しく、岩盤が一部露出した状 況であった。遺構・遺物は出土しなかった。 =「山越遺物包含地」、遺構なし。中世以降の土器が出土。上層テ ーナーあり。	19 20 19 14 19 17 15 9	26 26 26 26 26 26 26 26
	金面			赤井時代～近世の円形向洋墓・土塚墓・影寺式土塚・津 井戸・石組み排水溝などを調査。とくに、円形向洋墓は古墳時代 前期初頭のもので、短い張り出し部分がつく。	31	22-28

調査番号	遺跡名	所在地	調査種別	調査概要	図版箇数	参考文献
MC-0500B 0500C	松川城跡 松山城跡	城之内、 城之内、 城之内、 城之内	立会 立会 立会 立会	石碑残存、115個釜、石棺残存部の遺物団あり。 =「城之内遺物内包地」、調査データの詳細は不明。	34 28	
MC-06016 06023 06024 06031 06032	通後北代遺跡 (文京遺跡) 通後北代遺跡 (文京遺跡)	通後北代10-41 木造町2丁目1-26 清木町2丁目19-5 通後北代175-3、166-2、5 清木町2丁目H21-3	試掘 試掘 試掘 試掘 試掘	=「北代遺物包含地」、遺構・遺物は出土していない。 =「北代遺物包含地」、遺構・遺物は出土していない。土器データあり。 =「北代遺物包含地」、遺構・遺物は出土せず。土器データあり。 =「朝又(元練兵場)遺物包含地(文京遺物)」、調査データの詳細不明。 =「施原包含地」、遺構・遺物は出土せず。土器データあり。 参考文献では、MC-06033で登録。	13 22 17 14 17	32 32 32 32 32
06040 06049 06059 06109 0600A	施原遺跡 川越遺跡 (平和通り遺跡) 松山大学附属内包跡 4次 松川城跡	山越3丁目H4-2、5 山越2丁目20-5 平和通り3丁目1-10-38-44 文京町4-2、松山大学構内 城之内	試掘 試掘 試掘 試掘 試掘	=「山越遺物包含地」、遺構・遺物は出土していない。土器データあり。 =「山越遺物包含地」、遺構・遺物は出土せず。十層データあり。 =「朝又(元練兵場)遺物包含地(文京遺物)」、土器予定地の南東部 一分で調査を終了したが、遺物は出土していない。 =「城之内遺物内包地」、杭例H.6.12.21-12.27調査、調査データ の詳細は不明。	3 5 23 18 28-34	32 32 32 32 32
EP-0160	山越遺物包含地	山越1・2・4丁目		松山市分布図No.160、弥生～縄文時代の遺跡地とされるが、遺跡 台帳には、「縄文時代後期、地下5～6mから植物遺体との記載 がある。	5・6・8・ 9	4
0168 0674 0685 0686	瓶谷遺物包含地 上居の段遺跡 上居洋遺跡 近山遺跡	山越1・2・4丁目、山越3丁目 瓶谷1丁目8番地辺 瓶谷2丁目H2・3・12-13番辺 道後湯之町迄山、(1丁)湯神社境内		松山市分分布図No.168、縄文時代の土器・石器が出土。 縄文時代～弥生時代の上器片が出土。西田栄が1963年2月10日に 踏査して台帳記載。 水田地下1mほどから弥生時代中期を主体とする遺物が出土。上 器以外に、石斧・木製の棒・櫛状木製品がある。また、縄文土器 も出土している。 冠山山頂で弥生時代前中期土器が出土したことを、西田栄が1963年 3月4日に踏査して台帳記載。他に、弥生土器・石斧が 出土。また、湯神社の隣接付近で縄文土器が発見されている。止 詰な位置を確定できないので、図版地図には○範囲で表示。	3・6 4 14-15 14 3・4 21 4・10	

調査番号	遺跡名	所在地	調査区分別	調査概要	図版番号	参考文献
EP-0690	堀之内遺跡	若草町1・2番、堀之内掘場付近	弥生時代終末期の土器が出土。西田栄が1963年3月4日に踏査して台帳記載。	28	4	
0691	山崎遺跡	桜谷3丁目6・30 道後今市遺跡	弥生時代前期～中期の土器が出土。土器採集で消滅。 明治42年、平形削10個が出土。西田栄が1963年2月10日に踏査して記載された台帳とはほぼ同一である。「弥生土器」として記載されることは、弥生土器も出土している。遺構未確認。	13 25	4 4・10	
0692			明確な地点は解説できなかったので、図版番地図には○で範囲を表示した。			
0694	水口遺跡	平和通り2丁目2番	弥生時代後期の土器が出土。西田栄が1963年3月4日に踏査して台帳記載。	24	4	
0695	酒町遺跡	平和通り2丁目2番	弥生時代後期十器が出土。西田栄が1963年3月4日に踏査して台帳記載。	24	4	
0696	上野町遺跡	東雲町7番	古墳時代の土器と須恵器が出土。西田栄が1963年3月4日に踏査して台帳記載。	31	4	
0697	城山遺跡	一番町城山東南角	弥生時代後期の土器が出土。西田栄が1963年3月4日に踏査して台帳記載。	36	4	
0698	持山遺跡	南町1丁目2・3番	弥生時代後期の土器が出土。西田栄が1963年3月4日に現地踏査して台帳記載。	32	4	
0701	川高遺跡	道後鷺谷町4番7	弥生時代後期土器・石斧が出土。	15	4	
0702	荒安寺遺跡	道後鷺谷町14	弥生時代後期土器が出土。	27	4	
0708	長尾寺遺跡	鶴谷1・2丁目	「Na46：長尾寺古坟」として登録。	9	4	
0709	御幸寺山古墳群	鶴谷1丁目、祝谷西町、桜谷3丁目	松山市分布地図No.48。西田栄が記載した台帳には、「櫛穴式石室を主軸に多くある」とある。	11・12・13	4	
0723	城ノ内古墳	丸之内、水源湖池地	松山市分布地図を主軸とする山地。須恵器・灰陶などが出土。西田栄が1963年2月10日に踏査して台帳記載。	35	4	
0724	道後公園山遺跡	道後湯本	中世紀の城郭跡として著名。正殿の東側斜面を「幕張馬場運動場」にするために削り取る際に、平形削頭が出土。正確な出土地點は確定できないために、図版番地図には○で推定土地を表示。	27	4	
0729	石手伊佐割波古墳群	桜谷町、道後湯月町	1972年8月15日についに西田栄・鶴井敏秋が踏査して台帳に竹林時代・弥生時代の遺跡として記載。直径10m前後の山地を13基確認、2基削減。	15・21	4	
0883	松山大学附内遺跡	文京町4-2、松山大学構内	体育館建設中に、弥生時代～山頂時代の土器が多數出土。MC-47003と対応する。	17	4	
0891	東雲神社遺跡	丸之内33-1	弥生時代中期の土器が出土。	30	4	
1475	緑台遺跡			14	4	

調査番号	遺跡名	所在 地	調査種別	調査概要	出版書誌	参考文献
E P-01 02	松山北高遺跡 道後本郷遺跡	文京町4番1、松山北高等学校敷地内 道後本郷18	全面 全面	弥生時代後期中頃～終末期の窓穴式住居跡を調査。 弥生時代中期初頭の土塹、弥生時代終末期～古墳時代初期の窓穴式住居跡。 縄文時代後期の遺物包含層、縄文時代晚期の土塹と遺物包含層、 弥生時代後期や中世の遺物が出土している。	23 21-27	9 7
03	道後今市遺跡10次	道後今市11-11	全面	弥生時代前中期の土塹、中世の掘立柱跡・溝などが調査され、古墳時代後期や中世の遺物が出土している。	19	29
04	道後今山遺跡1次	道後町2丁目12	全面	弥生時代前中期初頭の土塹、古墳時代中期の集落遺構などの遺構が調査され、弥生時代中期後葉・古墳時代中期後葉・中世の遺物が出土した。	26	11
05	道後今市遺跡3次	道後町2丁目4～8	全面	弥生時代中期初頭の土塹、古墳時代中期の窓穴式住居跡・古墳時代中期後葉の土塹、中世の掘立柱跡・土塹が調査されている。	26	11
06	道後今市遺跡2次	道後今市9～2	全面	古墳時代前中期の窓穴式住居跡・土塹を調査。	26	11
07	松山北高遺跡3次	文京町4番1、松山北高等学校敷地内 松山北高遺跡2次	全面 全面	弥生時代終末期～古墳時代前期の土器類・遺構、古墳時代前期の窓穴式住居跡などと調査。	23 23	33 9
08	道後今市遺跡4次	道後町2丁目9	全面	弥生時代中期後葉の土器・土塹が調査されている。	26	11
09	道後湯楽城跡	道後湯楽城遺跡公園内	全面	古墳時代～中世の掘立柱跡・櫛列が調査されている。	27	11
10	道後今市遺跡5次	道後町2丁目12	全面	二重に造られた堀、土足による築堤、人手門・櫛手門遺の遺構、 内部には上層で出土した遺物など家出田の居住区、庭園、 道路跡、竪治遺構が確認されている。	20	11
11	若草町遺跡2次	若草町	全面	弥生時代中期前半の窓穴式住居跡・土塹・中世墓などが調査され ている。	37	37
12	持田町3丁目遺跡	持田町3丁目	全面	弥生時代後期～古墳時代初期の窓穴式石室を土体とする円墳、近世の松山城の城下町防衛の遺構などが調査。	32	34
13	松山北高遺跡4次	文京町4番1、松山北高等学校 敷地内	全面	弥生時代前期中頃～末の竪穴式住居跡を調査。土器・木棺墓・土塙墓、古墳時代中期後葉の竪穴式住居跡は櫛列に配置され、各墓には副葬品や陪葬石列・陪卡製管玉などが副葬されている。	17-23	33

調査番号	遺跡名	所在地	調査種別	調査概要	図版輪郭図	参考文献
A-1	勝山中学校跡	勝山町3丁目148-2 平和通4丁目1丁、若草町8 若崎町2丁目7、NHK第1通 後楽敷地内	弥生時代後期土器が出土。 弥生時代後期上器が出土。 弥生時代前期～後期の遺物が出土。		17	3
A-2	岩崎町2丁目遺跡				22	3
A-3	湯之町旅館跡				32	3
A-4	(伝)橋又劍出十地	道後橋又	軒丸瓦・軒平瓦。・町四方の伽藍(?)。正確な位置を確定できない ものので、岡版輪郭図には○で範囲を表記。 1929年11月松山高等學校創立10周年記念辰巳所蔵の11口の平 家田商品の4口と、旧愛媛県教育局附属學校總士官所蔵の11口の平 尾輪例は、橋又山土といわれる。 当時の伽藍跡の散在位置は、松山市教育委 員会の橋又町の散在位置は、 方格鬼瓦端文鏡が出土。正確な位置は不明。岡版輪郭図には○で 範囲を表示。	15	12	
A-5	伊生關波神社裏山 墳	道後桜谷町駐車場内	軒丸瓦・軒平瓦が出土。正確な位置を確定できない。 岡版輪郭図には○で範囲を表記。	19	12	
A-6	内代旅館跡	道後上山2丁目、義安寺の前方	弥生時代前半の小葉文をもつ小片罐が井戸掘り中に出土。	21	12	
A-7	持田遺跡	持田市宮川1-1北側道路		27	12	
A-8				32	3	

【註】

1.弥生時代中期の堅穴式住居跡・獨立柱建物・土壙が出土した。堅穴式住居跡には推定高径7～8mの大形住居がある。また、獨立柱建物には高床式倉庫と考えられる1×2間のものに加えて、柱間1.8m、梁間4間、桁行き4間以上の大型獨立柱建物が調査されている。柱の抜き跡内に、弥生中期後葉～末のミニチュアの鉢形土器、高杯が部分的に打ち欠かれて詰め込まれていた。

【参考文献】

- 1.松山市埋蔵文化財包覆地地図
- 2.柴村啓水編 1954：伊予考古遺物出土十地名一覧表(中子編)
- 3.柴出典 1957：道後十石塚弥生遺跡の発掘報告(伊予史談会),150伊予史談会
- 4.愛媛県埋蔵文化財包覆地調査カーボー 1963作成
- 5.名本二雄編 1967：愛媛県道後平野北部における弥生木闌の構組、考古学研究,第15巻第1号,40-53
- 6.森光時・大山正風ほか 1976：文京遺跡・松山市文化財報告書,11
- 7.坂本安光編 1979：道後旅館遺跡、埋蔵文化財調査報告書、愛媛県教育委員会
- 8.松山市史料集編纂委員会編 1980：松山市史料集,第1卷考古編
- 9.愛媛県教育委員会編 1981：愛媛県立松山高等学校遺跡、愛媛県埋蔵文化財調査報告書

- 10.愛媛県史編纂室編 1983：愛媛県史原稿・古代、I
- 11.岡田義彦・中島博文・小林一郎・谷井倫郎 1985：道後今市遺跡・愛媛県教育委員会
- 12.愛媛県史編纂室編 1986：愛媛県史・資料編、考古
- 13.松山市教育委員会編 1987：松山市埋蔵文化財調査年報、I
- 14.松山史料集刊行会編 1987：松山史料集、卷2・古代～中世・近世・文化編
- 15.山代学舎会四国支部 1988：松山遺跡北の弥生遺跡をめぐって(シンポジウム資料)
- 16.宮本一夫編 1989：鷺子・櫛状遺跡、愛媛大学埋蔵文化財調査報告、I
- 17.松山市教育委員会編 1989：松山市埋蔵文化財調査年報、II
- 18.宮本一夫編 1990：文永渤海第8・9・11次水難調査、愛媛大学埋蔵文化財調査報告、II
- 19.宮本一夫編 1991：文真遺跡第10次調査、愛媛大学埋蔵文化財調査報告、III
- 20.海木謙一編 1991：松山大學櫻内遺跡2次調査、松山市文化財報告書、20
- 21.松山市教育委員会編 1991：松山市埋蔵文化財調査年報、III
- 22.松山市教育委員会編 1992：松山市埋蔵文化財調査年報、IV
- 23.栗田茂義編 1992：文真遺跡・第2・3・5・6次調査、松山市文化財報告書、28
- 24.海木謙一・河内信一編 1992：道後城北遺跡群・松山市文化財報告書、30
- 25.栗田茂義編 1993：宮浦谷・弓削・松山市埋蔵文化財報告書、33
- 26.松山市教育委員会編 1993：松山市埋蔵文化財調査年報、V
- 27.海木謙一・宮内信一編 1993：弓削・久万ノ台の遺跡、松山市埋蔵文化財調査報告書、32
- 28.田崎博之編 1993：柳木遺跡、II・愛媛大学埋蔵文化財調査報告、IV
- 29.多山仁・調西成・林糸夫 1994：道後今市遺跡、X・(他)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 30.海木謙一・裕本雄一編 1994：道後城北遺跡群、II・松山市文化財報告書、37
- 31.松山市教育委員会編 1994：松山市埋蔵文化財調査年報、VI
- 32.松山市教育委員会編 1995：松山市埋蔵文化財調査年報、VI
- 33.伊藤尚子編 1995：愛媛県立松山北高等学校遺跡埋蔵文化財調査報告書、2、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 34.萬綱昭文編 1995：桟川町3丁目遺跡、(財)愛媛県埋蔵文化財調査報告書、49
- 35.河内信一編 1995：松山大学櫻内遺跡、II・松山市埋蔵文化財調査報告書、VI
- 36.田崎博之編 1996：柳木遺跡、II・愛媛大学埋蔵文化財調査報告書、V
- 37.伊藤祐二 1996：吉平町遺跡、II・(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター

愛媛大学構内遺跡調査集報 I

—1987～1994年度における立会・試掘・確認調査成果の報告—

愛媛大学埋蔵文化財調査報告 V

1997年3月26日

発行

愛媛大学埋蔵文化財調査室

松山市遺後 優又 10-13

TEL (089) 927-9127

印刷

原印刷株式会社

〒791 松山市山越4丁目8-15

TEL (089) 924-8823
